

つて衰微の時期に近かしむる誘因の作らるゝも亦學校の教場の内に在つて存するなり。

第二章 群衆の意見の近因

第一節

假相、言辭、及び成句 言辭及び成句の魔力——言辭の力は事物の假相と同一體を成し、其本來の意義とは全く別物なり——是等の假相は時代によりて異り、又民族によりて異れり——言辭の消耗——多く用ひらるゝ言辭の意味の著しく變化する實例——或る事物を指示する言辭が人々に好ましからざる印象を興ふる場合に、其實質を改めざるも、其言辭のみを改めて新なる名稱を附與する事の政治上の効用——民族の異同より生ずる言辭の意義の異同——「民主主義」なる言辭の歐洲と米國とに於ける意味の相異。

第二節

迷想 迷想の重要——迷想は總ての文明の根柢に横はる——社會上より見たる迷想の必要——群衆は常に真理に就くよりも寧ろ迷想に就くを好む。

第三節

經驗 唯經驗のみ克く必要となりたる真理を群衆の心意中に植ふ附け、危險となりたる迷想を破壊す——經驗は唯屢々繰返さるゝ條件の下に於てのみ有効なり——群衆を勸奨するに必要な經驗の代價。

第四節

道理 道理の群衆に及ぼす感化影響は皆無——群衆は唯其無意識的感情の感化影響のみを受く——歴史上より見たる論理の役目——意料外の事件の隠れたる原因。

吾人は既に前章に於て群衆の心意に特殊の受容性を附與し、爲めに或る種の感情及び或る種の問題をして其内に發達成長することを得るに至らしむる間接的且つ準備的の諸要素即ち遠因を研究したり。今や吾人のなすべきものとして残れるは、直接に群衆の行動を刺戟挑發する諸要素即ち近因を考査する事なりとす。而して是等の諸要素が充分なる効果を奏する爲めには、如何様に運用せらるべきものなるかの問題に就きては、後章に論ずる所あるべし。

本書第一篇に於て予輩は集合團體の感情、思想、及び推理法を研究したり。此研究に依りて知り得たる所を綜合して、群衆の心意の上に印象を貽す手段を概括的に論ずることを得べきは明かなり。吾人は既に如何なるものが群衆の想像力を刺戟するかを學び、且つ暗示殊に假相の下に示顯せらるゝ暗示の力と傳染性を知り得たり。然れども暗示は種々雑多の源泉より流れ出るものなるが故に、群衆の心意の上に作用を及ぼすことを得る諸要素には、其間各著しき相異あり。されば其各要素を一々個別的に研究するは必要にして、決して無用の閑事業にはあらず。群衆は往古の傳説中のスフィンクス(希臘神話中の怪物、路傍の巖頭

に踞し、旅客に謎を掛け、解き得ざりしものを絞殺せりと稱せらるゝもの。——譯者註)に似たらすとせず。吾人は群衆心理が提出する問題を是非とも解決せざるべからず。然らざれば吾人は空しく群衆の爲めに喰ひ殺されんのみ。

第一節 假相、言辭及び成句

吾人は嚮に群衆の思想力を研究するに當りて、彼等は別けても事物の假相が生ずる印象を受け入るゝに敏なることを論じたり。是等の假相は常に吾人の身邊に存在せるものにあらずと雖、吾人は言辭と成句とを適宜に用ひて之を誘起することを得るものなり。言辭と成句——此二者は之を巧妙に使用すれば、往時魔術使が有すと稱せられし程の不思議の力を目のあたりに發生するなり。言辭と成句——此二者こそ群衆の心意の中に雲を呼び風を起すものにして、而して又一旦呼び起したる此風雲を鎮靜し得るものも亦此二者なり。實にや言辭と成句との魔力の犠牲となりて斃れし人々の白骨のみを積み上げて、その昔キオアス(Cheops)埃及の古王、西曆紀元前二〇八九年に、カイロの附近なるギゼに於

て最初のピラミッドを建てたりと稱せらる。譯者註が築かせけん大三角塔よりは、遙に高き巨塔を作ることを得べけん。言辭の力はそが誘起する事物の假相と同一體にして、其言辭自體の本來の眞意義とは全然沒交渉なり。されば最も不得要領の言辭が、最も大なる勢力を有することあり。此種類に屬するものは、例へば民主主義、社會主義、平等、自由の如き即ち是なり。是等の言辭の意義は極めて曖昧にして、浩瀚なる書冊を以てしても尙之を明確に定むることを得ず。然るにも拘らず、眞個に不可思議なる魔力が是等の短句に附隨して、人をして坐ろに是等の言辭が世上萬般の問題を解決するを得るものなるかと思はしむ。是等の言辭は諸多の無意識の憧憬と、其之が實現の期望とを綜合標識せるものなり。道理と議論とは或る種の言辭や成句の謬妄を喝破することを得ざるものとす。蓋し言辭及び成句は、群衆の面前に於ていとも嚴かに宣せらるゝものにして、而して其一度宣せらるゝや、聞くもの悉く敬虔の念を生じ、肅然襟を正し頭を低れ、唯その及ばざらんを雜れ恐るゝなり。多くの人はこれ自然の力、否、超自然の力な

りと思惟したりき。げにも言辭と成句とは群衆の心意の中に誇張的にして且つ曖昧模糊なる假相を映出す。然れども是等假相を包む或る曖昧模糊なる所は、纏てこれ其幽玄神祕の靈力の存する所なり。此靈力を有する言辭及び成句は、喻はい一向専念の善男善女が、戦々兢々鞠躬如として近づき寄る神殿の奥深く鎮座まします神靈の如きものなり。言辭が誘起する假相は其本來の眞意義とは全く沒交渉なるが故に、そは時代によりて推移し、場所によりて變化す。唯成句のみは終始同一にして變遷せず。或る一時的の假相が或る言辭に附隨す。蓋し言辭は假相を呼起す電鈴の端に附けたる電氣卸に喩へつべきものなり。總ての言辭及び總ての成句は悉く假相を誘起する力を有すとは謂ふべからず。又中には既往に於ては假相を誘起するの力を有したるも、之を用ひ行く間に此力を喪失し、聽者の腦中に何等の反應を與ふることなきに至りたるものもあり。斯くの如き言辭や成句は、最早空虚の音響に化し去りたるものにして、其主要なる効用は今尙之を使用する人々の爲めに思索の義務を省く事に在り。吾人は幼

時に習ひたる若干の成句と常套語とを虎の巻とする時は、如何なる事物に面しても毫も思索省察の煩勞なくして世を渡るに必要な總ての道具立を有すと謂ひ得べきなり。

人若し一個の國語を研究せば、之を組成する言辭其物は、年と共に變化するゝ寧ろ遲さも、是等の言辭が誘起する假相、即ち是等の言辭に附せらるゝ意味は絶えず變化するものなる事を知り得べし。予輩が別著に於て、一の國語殊に死語の絶對的譯述は全然不可能なりとの結論をなしたるは、全く此理に依るなり。吾人が佛蘭西語を拉し來つて、拉丁語とか、希臘語とか、梵語とかに置き替ふるに際して、否、それよりも現代の佛蘭西語を拉し來りて二三世紀以前の佛蘭西語に置き替ふるに際して、吾人は抑、如何なる事をかなす。此際に於ては吾人は唯近代生活が吾人の理智に供給したる假相と觀念とを拉し來りて、古代生活が今日の人とは全然異りたる生存状態の下に置かれたりし其時々の人々の腦裏に映出したる觀念と假相——而して今日とは全然異なる觀念と假相——に置き換ふるまでの事なり。革命時代の人々は自ら希臘人や羅馬人を模倣しつゝあるも

のと想像したりき。焉ぞ知らん、彼等は唯昔人の夢想だにせざりし新意義を古き言辭に寓したるに過ぎざらんとは希臘の諸制度と同じ名に呼ばるゝ今日の諸制度との間に、何等の類似點かある。當時に於ける共和國とし云へば、極端に服従の地位に置かれたる奴隸の群に君臨する群小專制君主の連合によりて組成せられるものにして、根本的には貴族的の制度なりき。奴隸制度の上に基したりし此集團的貴族政治は奴隸制度なくては存立することを得ざりしなるべし。

更に之を自由なる言辭に就て見ん、如何なる人も思想の自由など云ふものゝ世に存立し得べしとは夢にだも尙想像することなくして、己が住へる都市の神々や、法律や、習慣を私議する事を最大なる犯罪と思惟し、大方の人は之を敢てせざりし一時代に於て、自由なる言辭が今日吾人がそを解釋するが如き意味を幾分にも持つことを得たりとするか。更に又古代の希臘——常に互に干戈を交へて争鬪止む時なかりし多くの都市によりて組成せられし古代希臘に於て、祖國なる言辭はアセンス市民又はスパルタ市民に對しては、アセンス市の崇拜又はスパルタ市の崇拜以外に如何なる事を意味せしか。希臘全國の崇拜と云ふ意味を有

する事を得たりとなすか。抑亦同じ「祖國」なる言辭は古代のゴール人に對しては如何なることを意味せしか。古代のゴール人と云へば、相異なる言語と宗教とを有して互に軋轢を事としたりし幾部落、幾種族に分たれ、彼等の征伐に出向ひたる羅馬の將軍シーザーは、常に彼等の間に同盟者を求むることを得たりしを以て、輒く彼等を討伏することを得しと云ふにあらずや。知らず「祖國」なる言辭は彼等に對して何を意味したりしぞ。情ら思へばゴールをして一個の邦國とならしめしものは、之に政治上並に宗教上の統一を與へたりし羅馬そのものなりしなり。斯く實例を上古に求むるまでのことはなし。乞ひ問ふ、今より二百年になるかならぬ許りの昔に於て、異國人と同盟して己が君主に向つて弓を引きし大コンデ (Prince de Condé) 一六二一年に生れ一六八六年死せる佛國の將軍にして、一六四九年巴里を陥る。——譯者註の如き佛國の諸侯等が、祖國の觀念に關して、今日の吾人と同様の見解を有したりしとなすか。又問ふ、此同じ「祖國」なる語が、革命の戦亂に際して國外に逃亡せし佛國の勤王黨に對しても亦現今と異なるなき意義を有したりしとするか。蓋し是等の勤王黨は佛國に向つて戦を宣するを以て名譽

の典範に則れりと思惟し、而して又彼等の立場より見れば之に則りたりき。如何とならば封建制度の典範は臣下をして其國土を重んずるよりは寧ろ其君主を重せしめしを以て、何處にてもあれ、其君主の在ます處これ其眞の祖國なりしなり。知らず、斯くの如く解釋する「祖國」の意味は、果して吾人が現今解釋する意味と何等の抵觸する所なしとするか。

時代の推移するまに——其意味の變遷せし言辭は一々枚舉に遑あらず。是等の言辭の往時の意味を探求せんと欲せば、非常なる骨折りを要するなり。人或は謂ふ、單に吾人の祖先時代に通用せし「王」若くは「王室」の如き言辭の意味だけを知らんと欲しても、中々研究を要するものなりと。蓋し至言なり。斯かる言辭にして既に然り。況や之より一層複雑なる言辭に於てをや。

果して然らば言辭なるものは時代により又國民によりて變化する移動し易き一時的の意味のみを有するものと謂ふべし。而して吾人若し言辭を將つて群衆に感化影響を與へんと欲せば、先づ其必要條件として、其刹那其群衆が之を如何なる意味に解釋するかを知らざるべからず。其言辭の過ぎし昔に通用せし意味

や又智識の程度の異なる人の間に通用する意味を知り得たりとて何かせんや、此故に政治上の大動亂又は信條の變化の結果として、群衆が或る言辭の誘起する假相を忌み嫌ふに至らば、眞個の政治家たる者の第一の義務は、勿論其言辭の指示する事物の實質を毫も變更することなくして、唯言辭其物のみを變更する事なりとす。蓋し事物の實質は過去より傳承し來れる社會組織の中に密接に抱合せらるゝを以て、容易に之を改むべからざるものあればなり。思慮深きトクヴィ
 ン (Alexis Henri Charles de Tocqueville) (一八〇五年に生れ一八五九年死せる佛國の政治家及び政治的批評家なり) 米國に於ける民主々義の著あり。——譯者註は久しき以前に於て既に佛國革命後の總督政治及び帝政の事業は、何よりも殊に新しき言辭を以て過去の制度の大部分を裝ふこと——換言すれば群衆の想像中に不快なる假相を映出する言辭を破棄して、之に代ふるに新奇なるが爲めに斯かる假相を誘起することなき言辭を以てすること——に在りし旨を道破したりき。斯くて taille 又は tallage なる言辭が地租を指すに至り scabelle が鹽税を指すに至り、aïdo が間接の寄與及び商事會社組合、免許等に課する雜税を指すに至れり。

されば政治家の職掌の第一要義は、群衆が舊來の名稱のまゝにては最早忍ぶこと能はざる事物を裝ふに、評判宜しき言辭若くは少くとも惡感を挑發することなき言辭を以てするに在りとす。實にも言辭の力はいみじくも奇しきものにして、最も忌しき物をも善き名稱をもて飾らば、群衆は喜びて之を受け容るゝものをかし。往年佛國革命時代の過激派マコピン黨員が、ダホメー (Dahomey) (西アフリカ加ギニーにある佛國の植民地——譯者註にも相應はしかるべき專制政治を剝め、宗教裁判にも劣らざる苛虐なる法廷を開き、古の墨西哥に其例ありしてふ大殺戮を行ふ) ことを得たりしは、皆これ當時の人氣に投合せし「自由及び平等」なる言辭を擔ぎ出したる爲めなりきとマリスが言へりしも亦宜なるかな。治者の技術は辯護士の技術と等しく、言辭を巧妙に運用するの間に存す。此技術が非常に困難にして、中々一筋繩に行かざる原因の一は、同一の社會に於ても、同一の言辭が異りたる階級の間、様々の異りたる意味に用ひらるゝことなりとす。蓋し是等の諸階級は外觀上に於ては同じ言辭を用ふるやうなるも、其實意味の上より

云へば決して同じ言語を話すものとして視るべきにあらざるなり。上掲の諸例に在りては、言辭の意味を變化するに就て、主なる要素として働くものは、何よりも殊に時なり。然れども民族が一要素として働く場合を観察すれば吾人は同一の言辭が、同時代に於て、文明の程度を等しくすれども民族を異にする諸國民の間に於て、屢、非常に相異なる觀念を指示する爲めに用ひらるゝことあるを發見せん。是等の相異を了解せんと欲せば、吾人は多く旅行せざるべからず。かるが故に予輩は姑らく此點を主張することを見合はし、唯異なる國民間に於て、最も異なる意味に用ひらるゝ言辭は、正しく群衆が最も多く慣用する言辭なりと云ふに止めん。例へば今日屢、使用せらるゝ「民主主義」とか「社會主義」とかの言辭は此例に漏れぬものなり。

事實上是等の言辭は拉丁民族とアングロサクソン民族との間に於て全然相背反したる觀念及び假相を指示す。拉丁民族に取りては「民主主義」なる言辭は取り分け個人の意思及び獨創力を、國家によりて代表せらるゝ社會の意思及び獨創力に從屬せしむる事を意味す。されば國家は次第に多く、萬般の指導、中央集權政

治專賣業、及び各種の製造業に従事すべき任務を負はさる。而して一方民間の有様を観察すれば、急進黨も、社會主義者も、王權黨も、何れの黨派も相率ゐて絶えず國家に依頼せずんば休まざるなり。之に反してアングロサクソン民族、殊に米國人の間に在りては、同じ「民主主義」なる言辭が、個人の意思の著大なる發達を意味し、國家は飽くまで從屬の地位に在るものなる事を示す。即ち米國に在りては國家は警察、軍事、及び外交關係を除外例としては、如何なることをも指導することを得ず。然り、公共教育事業をさへも指導するの權能なきなり。之に由つて之を観れば、同一の言辭にてありながら、一方の國に於ては個人の意思及び獨創力の從屬と國家權力の過重とを意味し、他方の國に於ては個人の意思及び獨創力の過大の發達と國家の極端なる從屬とを指示す。亦以て同一言辭が之を用ふる民族によりて其意味を異にする事を知るの資料となすべし。予輩は自著「民族發展の心理」に於て、拉丁民族間の民主的理想と、アングロサクソン民族間の民主的理想との差異を仔細に論じたりき。それとは全然關係なく、ポール・ブローニエ氏は彼の旅行の結果として、其近著「海のあなただ」中に於て、予輩と同様の結論をなし居れ

り。——原註

第二節 迷 想

文明の曙光のさし初めしより此方群衆は常に迷想の勢力によりて支配せられき。彼等は如何なる種類の人々の爲めよりも、先づ迷想の創造者の爲めに、神殿を建て偶像を作り祭壇を築くを常としたり。迷想として云へば、往時の宗教上の迷想到にせよ、將た又現代の哲學上及び社會上の迷想到にせよ、最大最強の威力を逞うして、古往今來順次に此坤圓球上に榮えし各種の文明の先頭に立ちて之を嚮導しぬ。迷想の名によりてカルデア及びエチオピアの社殿や、中世紀時代の宗教上の諸建築物は起工せられ、又迷想の名によりて一世紀前に歐洲の天地を震撼したる大紛擾大動亂は演じ出されたり。抑亦今日江湖に流布する政治上、藝術上、若くは社會上の思想の觀念にして、一として迷想の強き感化力の支配を蒙らざるものあらんや。時として或は人々は驚天動地の大騒動を賭して迷想を破壊する事なきにしもあらずと雖、時ならずして之を再建するを常とするは、よくよく之と

切つても切れざる因縁あるものと見ゆるなり。迷想なくては人類は決して原始的野蠻状態を蟬脱し得ざりしなるべく、迷想なくては又直ちにその状態に立ち歸るべし。疑もなく迷想は果敢なき影に過ぎず。されど此我等の夢が産みし迷想こそ、萬國の民をして藝術に類ひなき花を飾らしめ、文明に並びなき偉觀を添へしめし原子なりけれ。

「人若し博物館又は圖書館に於て宗教の鼓吹の餘に成りし總ての著書や製作品や紀念碑を毀つか、若くは教會の前なる甃石の上には是等のものを投下して破壊し盡さんか、人生の大なるドラマより剩す所果して幾何ぞ。人々が之なくては一日も生存すること能はざる底の希望と迷想とを彼等に給與する事業——斯かる事業が必要なればこそ、神々や、英雄や、詩人の存在の理由も立つなれ。五十個年が間科學は此事業を成し遂げんと企てしもの、如くなりき。然れども科學は遂に理想を戀ひ慕ふ人々の心の裏にて調節諧和せられぬ。蓋し科學は自ら虚偽を述ぶること能はざるを以て、人々を満足せしむるだけ十分に、將來の福利を約束すること能はざればなり。」(ダニエル・レシニール(Daniel Testier)の言ひし所。——原註)

十八世紀の哲學者は吾人の祖先が幾百年間生存の根據となせし宗教上、政治上及び社會上の迷想を、熱心に打破する事に畢生の心血を凝ぎたりき。而して彼等は是等の迷想を打破したるが爲め、希望と忍従との泉源を涸渇したり。而して彼等は此空華幻影の一片を剥ぎ去りては、後には峻嚴苛虐にして人性の弱點を忍容せず、憐愍仁恕を蔑視する盲目且つ沈黙なる自然力の扣へ居るに出會ひたり。哲學はそれが甚だ進歩を遂げたるにも係らず、民衆を心酔せしむるに足るだけの理想を提供することを得ず。之に反して民衆は如何なる犠牲を拂ひてもそれ相應の迷想を持たずは満足し能はざるが故に、宛も昆蟲が燈火に向ふが如く、本能的に彼等の必要とする所の物を彼等に與ふる所の修辭家に向ふ。真理には、あらゆる誤謬が却つて諸國民の進化に於ける主なる要素とはなりぬ。社會主義が今日の優勢を占むる所以のものは、それが今尙潑刺の生氣を有する最後の迷想を構成するを以てなり、科學が様々に社會主義の謬妄を指示するにも拘らず、益々其勢焰を高めつゝあり。其強大なる力の懸る所は、其之を主唱し指導する人々が、實際人類に向つて大膽に將來の幸福を約束することを敢てするほども事理を辨へ知ら

ざるの點に在つて存す。社會上の迷想は累々たる過去の殘墟の上を支配し、而して又將來の趨勢も一に懸つて此上に在り。往古より此方、民衆が真理を憧憬渴仰したることば、未だ曾つて之あざりき。民衆は自己の趣味性に合せざる證據より遠かり、誤謬妄誕と雖そが彼等の趣味性に媚ぶる時は、直ちに來りて其前に拜跪するなり。彼等に迷想を供給し得るものは、容易に彼等の統率者となることを得べし。之に反して彼等の迷想を打破せんと試むるものは、常に彼等に殺戮せらるべし。

第三節 經驗

經驗は一個の真理を群衆の心意中に堅く打建て、危險となりたる迷想を打破する爲めに有効なる唯一の手續なりと謂ふべし。然れども此目的を達する爲めには、經驗が非常なる大規模の上に起り、且つ屢々反覆せられたるものなることを要す。一般に一時代の人民が經過したる經驗は、續いて來る時代の人民の爲めには一向役に立たぬものなり。これ論證の爲めに引用せらるゝ歴史的事實が其効を

奏せざる所以なり。而して斯かる歴史的事實の唯一の効用とも稱すべきは、経験が何等かの感化影響を及ぼす爲めには、若くは群衆の心意中に堅く植え附けられたる誤想謬見を驅逐することを得る爲めには、世々代々如何なる程度にまで反覆せらるゝを要するかを例證明示するの點に在り。

現世紀並に之に先ちし十八世紀は奇異なる實驗の時代として、何處までも後世の史家の筆端に上らん。實際斯かる實驗が斯くまで多數に演せられしことは、前古未だ曾つてあらざりし所なり。

是等の實驗中最も巨大なるものを佛國革命となす。社會は最上層より最下層に至るまで、唯純理の命ずるがまに、改造し得らるゝものにあらざること、明かにする爲めには、幾百萬の生靈を犠牲にし、而して二十個年間歐洲の天地を甚しく動亂することを必要としたりき。而して非常執權者等は之を歡呼して迎ふる國民に累を及ぼすものなる事を實驗的に確證する爲めには、二十個年間に二回の慘憺なる經驗を嘗むることを必要としたりき。而して其結果は明々瞭々乎たるにも係らず、十分に世人をして壺中の消息を領會せしめ得たりとは見えざ

るなり。而も情ら思へば、第一回の經驗は三百萬の生靈を犠牲とし、搗て、加へて外國軍の侵入を惹起し、第二回の經驗は領土の喪失を含み、且つ其結果として常備軍設置の必要を生み出した。第三回の經驗は今より僅か以前に將に演せられんとして纔に止みたれど、何れ何時か一度は演せられなん。絶大なる獨逸の軍隊は三十年前一般に唱道せられし如く、一種の無害なる國民守衛兵にはあらざりし事を佛國民全般に知らしむる爲めには、恐しき戦争を必要とし、その爲めには言ふに忍びざる程の多大の損害を蒙りたりき。此場合に於て獨逸の軍隊に對する群衆の意見は、例の不同異類の事物を匆卒亂雜無造作に連結することに依りて組立てられたるなり。此種の聯想の道具立に就ては前既に説明する所ありき。抑、其頃の佛國々民守衛兵は全然紀律を缺きて、到底眞面目に兵士として受け取られざりし温和なる商估の店員によりて組成せられしが、同様の名稱を帶ぶるものは總て同様の觀念を誘起し、爲めに何れも皆無害無能と速斷せられしなり。群衆の首領も亦群衆と誤想を分擔したりき。こは概括を主とする意見を構成する場合には有り勝ちの事なりとす。オリヴィエー氏(Ollivier)がその近刊の著書に

引用せる所を見ても知らるゝ如く、一八六七年十二月三十一日衆議院に於てなしたる演説中に、常に群衆の意見を追蹤するを事として決してそれより前に進みしことなき一政治家——予輩は敢てチニール氏(Thiers)の事を斯く云ふ——は宣言すらく、普魯西國は唯佛國の正規軍隊に殆ど相等しき正規軍隊に加へて、佛國の國民守衛兵に似たる——從つて別に大切ならざる國民守衛兵を有するに過ぎずと。斯くの如き言説の精確の度は、同じ政治家が鐵道の前途の有望ならざるを道破したる言説の精確の度と比して、さして讓る所なきなり。——原註、又保護貿易主義は之を採用する國に禍害を及ぼすものなることを一般に認めしむるには、少くとも二十個年間の慘憺たる經驗を必要とすべけん。斯かる例を舉げんには、僕を更ふるも猶盡きまじきなり。

第四節 道理

群衆の心意中に印象を貽することを得る諸要素を列舉するに際し、道理と云ふ事は、苟くも其消極的價値を明示することが必要にあらざる限りは、之を省略す

るに毫も其不可を見ず。

吾人は前既に群衆は推理によりて感化影響を蒙るものにあらずして、唯粗雑淺薄なる觀念の聯絡のみを領會し得るものなりとの旨を述べたり。されば群衆に感銘を與ふる術に通曉するの辯士は、只管彼等の感情に訴ふることを務め、決して彼等の理性に訴ふるが如き愚を學ばず、論理の法則は未だ曾つて群衆の上は何等の作用を及ぼしよことあらざりしなり。群衆に感銘を與ふる術、及び之に關聯して論理上の繩墨より得る助けの如何にも尠少なる事に就ての予が最初になしたる觀察は、普軍の巴里包圍攻撃の頃の事なりき。時しも政府は巴里の宮殿(Louvis)に議事を開きしが、予は其處へ導かれ行く道すがら元帥V氏を見たり。一隊の怒號せる群衆は、該元帥が普國民に賣らんとて、城寨の見取圖を取りつゝある現場を彼等が押へたりと主張しぬ。演説家として頗る名高かりし政府の一員G.P.氏は「時を移さず犯人を死刑に處せよ」と要求せる群衆を説かんとて出で來れり。其時予は以爲らく、此演説者は非難を受けたる元帥は儘に該城寨の建築に參與したる一人にして、且つその見取圖も普く坊間に販賣せらるゝものなる

ことを説きて以て非難の當を失せるものなることを明示すべしと。而も其演説は予輩の豫想とは非常に異りたるを知りて一驚を喫しぬ。——白狀す、予輩は此時は一介乳臭の弱輩に過ぎざりき。——演説者は開口一番して、正義を行はざるべからずと叫びつゝ、囚はれの身となりし元帥Vの方に進み寄りつゝ曰く、嚴正無私、些の情實を容れざる正義を行はざるべからず。國防を司る政府は卿等の始めたる審問を結了せん、併し其間は犯人を拘留し置くべしと。此表面上の讓歩を得て群衆は忽ち其怒を解きて解散したり。而して半時間の後該元帥は善なく家に歸り着きぬ。若し此演説者にして當時生若かりし予の考へたる如くに、道理を説き合めて怒れる群衆を宥めんと試みたらんには、元帥は必ずや群衆の爲めに八ッ裂きにせられしならん。——原註、確信を群衆の心裏に徹底せしめんとするに當りて、何を措いても先づ必要なるは、群衆を鼓舞煽揚する爲めに狙ふべき彼等の感情を突き留めて充分に之を了解し、自己も亦彼等と同じく是等の感情を具有すと見せ掛け、それより幼稚なる初歩的聯想の手段に依りて或る非常に暗示力に富める概念を提げ來りて、是等の感情に變更を加へ、必要の場合には當初

の必發點の立場に歸りて考へ得るの能力を具有し、殊に常に自己の言説の結果として如何なる感情が群衆の間に起り來るかを窺ひ知ることなりとす。斯くの如く自己の言論の爲めに瞬間々々に生ずる結果に隨つて、適宜に自己の言語を變更せざるべからざるが故に、豫め用意し且つ研究を積める辯論は初めより其効力を失ふものなり。此種の演説に於ては、辯士は自己の思想の進路を追ふのみにて、毫も聽者の思想を顧みざるものなれば、此一事だけよりしても、彼の勢力は減却せざるを得ず。

論理的頭腦を有する人は、自ら嚴密なる推理の連鎖に依りて説服せらるゝに慣るゝが爲め、群衆を相手に話す時も矢張り此勸誘法を用ふるを免れず。されば其辯論の効果の乏しきことは、彼等自身も顧みて驚愕する位なり。一論理學者は謂へらく、三段論法換言すれば類同物の聯結の上に基礎を置ける通常の數學的結果は確乎不拔なり。斯く確乎不拔なるが故に、人々の非有機的の集團と雖、苟くも類同物の聯結をだに領會し得たらんには、之に服従せざるを得ざるべしと。これは疑もなく眞理なり。されど如何せん、群衆は斯くの如き類同物の聯結を領會する

事は愚か之を理解するに於ても、人々の非有機的集團に劣るとも優ることはあらざるなり。人若し推理に依りて原始的頭腦を具する徒——例へば野蠻人若くは小兒——を説服せんと試みなば、蓋し此論法の價值が如何に少きものなるかを知るに餘師あらん。

感情と戦ふに際して推理が全然無効力なる事を知悉せんと欲せば、必ずしも原始的頭腦にまで降下するにも及ばざるなり。吾人をして唯最も簡單なる論理に背反せる宗教上の迷信が、數百年の久しきに涉りて牢乎として抜くべからざる根柢を有せし事を回想せしめよ。茫々上下二千載、其間に於て最も傑出せし天才さへ是等の迷信の法則の前に叩頭しぬ。而して文化が進みて近世期に入るに及びて漸く之を論難するもの輩出したるに過ぎず。中世紀及び文藝復興期に在りては、人材綺羅星の如く群り出でしも、竟に一人として推理によりて自己の迷信の兒戯に類せる方面を感知したりし者なく、又は惡魔の非行や巫術者を焚くの必要に關して一片の疑義をすら宣言したりし者としてはあらざりき。

吾人は群衆が道理に依りて指導せらるゝことを得ざるを以て、悲むべき事と看

做すべきか。何ぞ夫れ然らんや。人間の理性は、人間の迷信の如く熱烈と英氣とを以て、人類をして猛然として文明の路に奮進せしむる力なきは亦多く言ふを須たす。是等の迷信——吾人人類が因つて以て指導せらるゝ無意識的諸勢力が産みし是等の迷信は、疑もなく必要物なり。各民族は其心的組織の内に其民族自體の運命に關する法則を包有す。而して恐らく彼等は偶然的衝動の導くがまにまに——縦し其衝動が表面上最も根據も理由もなき場合にて——盲目的に其法則の支配に従ふ。故に時としては諸の國民は、一粒の解の實をして亭々雲に參するの大樹に化せしめ、若くは慧星をして其軌道を辿らしむる如き宇宙の力にも類へつべき秘密の力に依りて動かさるゝにあらざるなきやの觀を呈す。

此諸の民族を導く隠れたる力を幾分にては知らんと欲せば、吾人は之を民族進化の一般の進路の間に求むべし。決して之を時としては此進化の泉源とも見ゆる個々の事實の間に求むべからず。吾人若し是等の個々の事實のみを捉へて考慮せんか、歴史は意料外の機會の連續の結果なるが如き觀を呈せん。猶太の國のガリラア湖畔の一工匠(基督)を指す。——譯者註が、二千年間全能の神となり、其名

により最も重要な文明が築き上げられんとは意料外なりき。又亞利比亞の沙漠の中より突出したりし亞利西亞人の數隊が、古の希臘羅馬の勢力の及びし世界を征服し、アレキサンダー大帝の版圖よりも大なる帝國を建設せんとは意料外なりき。更に歐洲の發達が全盛に達し、全土を通じて權力が系統的階級制度の上に置かれし時に當り、名もなき砲兵中尉奈翁を指す。——譯者註が突如として崛起し、多くの國民と王者との上に君臨するに至らんとは眞に意料外なりき。果して然らば吾人は道理を哲學者に任せ置きて、そが人々を支配するに與つて力ありとは、餘りに強く主張せざるべし。總ての文明の中樞となる諸感情——例へば名譽、犠牲、献身、宗教上の信仰、愛國心、及び光榮の愛好心の如き諸感情の生ずるは道理に因るにあらず、否、大抵は道理の命令に反して生ずるなり。

第三章 群衆指導者及び彼等が用ふる 説得の方法

第一節

群衆の指導者 群衆を形成する總ての生物は本能的に指導者の命令を遵奉することを必要とす——群衆指導者の心理——唯指導者のみ克く群衆に信仰を給與し且つ之を組織編成することを得——指導者は絶対に專制的なり——指導者の種類——思想の務むる役目。

第二節

指導者の行動の道具立 斷言、反覆、及び傳染——以上の各三要素の役目——傳染が社會の下級より上層に波及傳播する方法——人氣に投合する意見は直ちに輿論(一般の意見)となる。

第三節

威嚴 威嚴の定義及び其種類——後天的威嚴と先天的威嚴——其實例——威嚴が破壊せらるゝ方式。

吾人は既に群衆の心的組織を考查し、且つ彼等の心意に感銘を與ふるに足る諸動機を研鑽せり、剩す所は唯如何にして是等の動機を働かしむべきか、抑亦如何なる人が克く之を善用して實際上の役に立たしむるかを究むるにあり。

第一節 群衆の指導者

若干の生物が相集まりて一團を作るや、それが動物にてあれ、將た又人間にてあれ、彼等は本能的に一個の首領の權力の下に屈服するを常とす。

人間が組織する群衆の場合に於ては、其首領は屢一個の主唱者及び煽動者に過ぎざることあり。然れども彼等は其資格に於て頗る大切なる働きをなすものなり。彼の意思は群衆の意見の中心となり、且つ其典型となる。彼は複种群衆を統一し組織するに當りて最も大切なる要素にして、將來之が發達して黨派を編成するの端緒を開き、而して始終之を指導誘掖す。要するに群衆なるものは主將なくては何事をもなすことを得ざる鳥合の集團なり。

群衆の指導者は主として被指導者の間より起る。彼は其初に當りて先づ一の思想の感化を受け、而して之に心酔し、遂に進んで其宣傳者となるなり。彼が一度此思想に魅せらるゝや、忽ち心底より之を信奉し、之に執着し、亦他を顧るの違なく、而して苟くも之に反對する意見は、直ちに視て以て訛誤となし迷信となす。之に

關聯する最も著しき實例を擧ぐれば、佛國革命時代に於けるロベスピエール(Robespierre)の如き即ち是なり。彼一度ルソー(Rousseau)の哲學思想に耳を傾くるや、忽ち心魂を擧げて之に魅せられ、之を宣傳せんと欲して宗教裁判流の苛虐を極むる方法を用ひて敢て憚らざりき。

余輩が今説きつゝある指導者は大抵の場合には思想家と云はんよりは寧ろ實行家なり。彼等は慧敏なる先見の明を具備せず、又之を具備すること能はず。何とならば先見の明を具備する者は、動もすれば懷疑に陥り、不活潑に流るればなり。又彼等は殊に病的に神經過敏にして、憤激し易く、且つ狂に近きほど精神の錯亂したる人々の間より輩出す。彼等の主張する思想が如何に荒唐無稽なるも、將た又彼等の追求する目的が如何に背理妄誕なるも、そは彼等の顧る所にあらず。唯彼等の確信は極めて堅固にして、如何なる推理も之に加ふること能はず。侮辱も勸誘も以て彼等を動かすに足らざるのみか、寧ろ却つて彼等を煽動するに終らぬのみ。彼等は一身の利害も、家族の安固も、その他の凡ゆるものも、犠牲とするを辭せず。此時に當りては人間に通有の自己保存の本能も全然消滅し、一命を鴻毛

の輕きに比し、從容として主義に殉ずるを榮とす。彼等の強烈なる信仰は、彼等の言辭に絶大なる暗示力を賦與す。群衆は常に強固なる意思を具備し、且つ彼等を欺瞞するの術を解する人々の言を聽かんことを希ふものなり。蓋し群衆中に投入せられたる人は、自ら全然意思の力を喪失するを以て、此缺陷を填補せんが爲めに本能的に意思の強固なる人に從ふを喜ぶなり。

古來諸國民は指導者を缺きしことなしと雖、而も其指導者中思想の宣傳者に必要なる強固なる確信に鼓舞せられて起ちし者に至りては、決して多しとせざるなり。世の指導者と稱する者は多く巧妙なる修辭家に過ぎずして、唯自己の利益を計るに汲々として、人の卑しき本能に媚びて以て之を説得せんと努む。斯かる輩が群衆の上に及ぼす勢力は、時としては偉大なることなきにあらずと雖、概ね一時的のものたるに畢る。之に反して自ら熱烈なる確信を抱きて、而して群衆の精神を鼓舞激勵したる人々、例へば十字軍の大立物たる貧僧ピエーターの如き、十六世紀の宗教革命の中心人物ルーテルの如き、伊太利の高僧サウナローラの如き、又は佛國革命を指導したる人士の如きは、自ら先づ一個の主義信仰に心酔し

て、而して後に世人をして之に心酔せしめんと試みたり。斯くてこそ彼等は信仰と稱する偉大なる力——各個人をして自己の夢想の奴隸とならしむる力——を、同胞の心中に喚起することを得たるなれ。

信仰の喚起——宗教上の信仰にあれ、政治上の信仰にあれ、若くは社會上の信仰にあれ、將た又一事業に對する信仰にあれ、一個人に對する信仰にあれ、若くは一思想に對する信仰にあれ、——苟くも群衆の心裡に信仰を喚起するは、其指導者の任務にして、而して彼等の勢力の常に偉大なる所以も亦實に茲に存するなり。人類の利用し得る諸勢力中、最も強大なるものは信仰の力にして、聖書の福音書中、信仰は山をも動かすと記せるも亦過言にあらず。一人に信仰を給與するは、彼を十倍に増すに等し。歴史上の大事事件は、常に信仰の外殆ど何物をも有せざる信者によりて實現せらるゝを常とす。世界を風靡する大宗教の打立てられたるも、若くは天下を席卷するの大帝國が建設せられたるも、決して學者や哲學者の力に倚るにあらず。況や懷疑者流の力に於てをや。然れども上記の數例に於ては、余輩は絶大なる指導者を擧げたり。斯くの如き指

導者は史上其數極めて少きを以て、之を列舉し盡すに難からず。然れども所謂指導者なる者は、上は上掲の大偉人より下は煙塵濛々たる木賃宿の一室に自己の仲間を煽動する勞働者までに及ぶ。後者の如きに至りては、實に自ら碌々其意味をも解せざる套語や成句を仲間の耳に吹き込みて、それが實現の曉は總ての夢想と希望が忽ち成就すべしと説き立つるが常なり。

社會の下層より上層に到る各圈内に於て、人が一度孤立を廢めて身を群衆に投ずれば、直ちに指導者の勢力の下に屈服す。多數人殊に群衆中の多數人は、自己の専門外に亘りては、如何なる題目に就ても、明瞭にして且つ合理的なる觀念を有せず。されば指導者は之が嚮導の任に當るなり。時としては新聞雜誌が微力ながらも指導者の地位に代り立つことあり。斯かる場合に於ては、是等の定期刊行物は讀者の爲めに或る意見を作り、彼等に供給するに若干の套語及び成句を以てし、斯くて彼等の爲めに推理考察の煩勞を省くなり。

群衆の指導者は極めて專制的なる權力を振ふ。而して此專制的權力は實際部下をして服従せしむる爲めには必要條件なりとす。彼等が縦合毫も自己の權力を

支持する方便なき場合にだに、最も執拗喧囂なる勞働者をも極めて容易に操縦して其命を聽かしむることを得るは、屢人の注目に觸るゝ所なり。勞働の時間及び賃金の率を定むるも、但しは同盟罷工を宣告し、且つ何時より之を始め何時に之を終るかを決するも、一に彼等の方寸の内にあり。

現今にありては是等の指導者及び煽動者は日一日益盛に官憲の權勢を僭し、而して此現象は官憲の權勢が疑はしくなり、且つ弱小となるに従ひて益々著大となる傾向を示せり。此種の指導者の權力増大の結果として、群衆は官廳の命を奉ずるよりは、寧ろ彼等指導者の指揮に従つて行動す。而して若し一朝何等かの事變若くは其他の原因の爲めに指導者を失ふことあらんか、群衆は忽ち従前の状態に立ち歸り、再び團結力も抵抗力もなき烏合の集團に化し去るなり。最近の巴里に於ける乗合馬車の被傭人の同盟罷工に際し、其指揮の任に當りし二人の巨魁の捕縛せらるゝや、紛紜は直ちに解決せられたりき。是に由りて之を觀れば群衆の精神中に横溢するものは自由の要求にあらずして寧ろ屈從の要求なり。群衆の服従心は斯くの如く夫れ旺盛なるが故に、彼等は誰にてもあれ、自ら彼等の主

將なりと名乗るものに本能的に奉仕するなり。

是等の主唱者及び煽動者は、截然之を分ちて三種となすことを得べし。其一は精力旺盛なるも、強固なる意思を唯間歇的に具備するものを包含す。其二は始終不變不易の強固なる意思を具備するものを包含す。而して後者は前者よりも遙に得難しとす。第一種に屬する指導者は、強暴勇悍にして大膽不敵の氣魄を有す。彼は殊に咄嗟の間に決定したる暴烈なる企圖を執行し、群衆を鼓舞して敢然として危険を冒して彼等に隨從せしめ、昨の懦夫を變じて今の勇者となすに最も功を奏す。この部類に屬する人々は、奈翁第一帝政時代の將軍ネー(No)及びミラー(Mura)の如き、又は伊太利のガリバルヂ(Garibaldi)——策略を缺きしも、精力旺盛にして冒險心に富み、精練の軍隊によりて防禦せられたるネーブルスの古王國を攻め伏せたる將軍——の如き即ち是なり。

此種の指導者の元氣は吾人の蔑視すべからざる勢力を構成すと雖、而も畢竟は一時的の性質を帯ぶるに過ぎずして、之を喚び起したる變亂の經過と共に消失するものなり。斯くの如き客氣に逸りて奮起したる英雄が、一度平靜なる日常の

生活に歸るや、屢驚くべき薄弱なる性格を露出す。上例の數者の場合皆然らざるはなし。彼等は一旦緩急の場合に於ては克く他を指導し得と雖、最も簡單なる状態の下に於て、平靜に考慮省察する能力を缺き、又其身を處するの道を知らざりしなり。是等の人々は皆自ら他に指導せられ、絶えず刺撃を受け、常に自己の行動の標識たる一個人及び一思想を戴き、且つ行動の徑路が明瞭に指示せられたる場合の外は自己の任務を盡すこと能はざる指導者なり。第二種の指導者、即ち永久不變の意思の力を有する徒は、よしや其外觀は前者の如く花々しからずと雖、其勢力に至りては更に顯著なるものあり。諸宗教の眞の開祖や、偉大なる事業の眞の遂行者等の如きは皆此部類に屬す。例へば、使徒ポーロの如き、マホメットの如き、コロンブスの如き、若くはドレツェッブス(Drehtschew)の如き即ち是なり。彼等が理智の人たるか若くは偏狹の徒なるかは問ふ所にあらず。唯天下は彼等の掌握するが儘なり。彼等の不變不易の意思の力は世に其比類甚だ少く、又極めて強大なる勢を有し、如何なるものも其前に屈服す。強固にして且つ不變なる意思が、如何に無限の能力を有するものなるかは、世人未だ善く之を知悉せず。されど之に對し

ては、如何なるものも抵抗することを得ず、自然も、神も、將た人も。

強固且つ不變の意思の力が如何なる大事業を遂行するに堪ふるかに就ては、近頃東半球と西半球とを分離し、二千年來幾多の偉大なる君主が屢、企て屢、破れたる事業をなし遂げたる人（スエズ運河の開鑿者ド・レ・セップスを指す。——譯者註）が、新しき實例を供給したり。彼は後年同様の事業パナマ運河の開鑿を指す。——譯者註を企て、失敗したりしと雖、その時は彼は既に頽然として老ひたりしを奈何せん。實に古り行く年の前には如何なるものも——鐵石にも等しき意思も——遂には降伏せざるを得ざるなり。

單に意思の力のみによりて如何なる大事業を成就し得るものなるかを示さんと欲せば、吾人は勢ひスエズ運河の開鑿に關聯して打ち勝たざるべからざりし大困難の歴史を仔細に語らざるべからず。この事業の目撃者たるカザリス博士（Dr. Cazalis）は、その不朽の計畫者ド・レ・セップスの口づから述べし所によりて左の數行の間に之を説き盡せり。

「一日又一日、彼は次第々々に該運河の工事に就て驚くべき物語をなせり。彼は彼が打ち勝たざるべからざりし總ての障礙に就て、又如何に彼が不可能事を可能にしたるかに就て、又彼が遭遇せし總ての反對に就て、又彼に反對して起りし聯合運動に就て、又彼の意氣を沮喪鎗沈せしむること能はざりし幾多の災禍、及び幾多の失敗に就て語れり。彼は英國が彼を絶えず攻撃して如何に彼と争ひしか、又埃及及び佛蘭西が如何に躊躇遂巡せしか、又佛國領事が工事の初期に於て衆に擢んで、如何に彼に反對したりしかを回顧し、尙彼が遭遇せし反對行動の性質、及び清水の供給を拒むことによりて労働者を渴に苦ましめ、以て彼等をして彼に背き去らしめんとせし計畫を想起し、更に海軍大臣や、土木技師や、總ての經驗あり且つ科學的の訓練ある責任者が、自然的に彼に敵意を挟み、科學上の根據より危害の既に迫まれるを打算し、恰も月蝕日蝕の豫言の如く、其危害の來るべき日及び時をさへも豫言したる事實を追懐したり。」

總て是等の偉大なる指導者の傳記を叙する書籍には、餘り多くの名を擧げざる

べしと雖、而も是等の名は實に文明史上の重要な事件と離るべからざる關係を有するなり。

第二節 指導者の行動の道具立——斷言、反覆、及び傳染

人若し霎時群衆を鼓舞煽動し、彼等をして各種の行爲——例へば宮殿を掠奪するとか、城砦及び保壘を死守するとかの如き——をなさしめんと欲せば、急速なる暗示を以て彼等に臨み、以て彼等の心意の上に作用を及ぼさざるべからず。暗示の中にも、行爲の實例を示すを以て最も効力多しとなす。されど此目的を達せんと欲せば、豫め或る事情の下に群衆の精神状態に一種の準備を與へざるべからず。殊に群衆を感奮せしめんと欲する人は、余輩が名づけて威嚴と呼ぶ一性質を具備せざるべからず。尙威嚴の本質に就ては後に研究する所あるべし。

然れども思想及び信條——例へば近世の社會上の原理の如き——を群衆の心裡に浸染せしめんと欲せば、指導者は種々の道具立を用ふ。其主なるものを擧ぐれば、第一斷言、第二反覆、第三傳染なりとす。是等のものゝ作用は稍遅緩なりと雖、

一度其効果を生ずるや、其効果は何時までも繼續するなり。

總ての推理及び總ての立證より離れたる純粹且つ簡明なる斷言は、一の思想を群衆の心裡に徹底せしむる爲めには最も確實なる方法の一なり。斷言が簡短なるほど、而して立證や説明の形跡を脱却すれば脱却するほど、益重きを加ふるなり。各時代の宗教上の經典や法律上の明文は常に簡短なる斷言法を採用せり。政治上の主義綱領を辯護するの任務を帯ぶる政治家や、廣告によりて自家の商品の販路を擴張する商人は、普通斷言の價値を熟知せり。

然れども斷言は出來得べきだけ同一の言辭を以て、絶えず反覆又反覆せらるゝにあらざれば實際上の勢力を生せず。奈翁なりしと覺ゆ、修辭學に唯一の重要な詞藻のあるあり、反覆即ち是なりと云ひぬ。斷言せられたる事柄は、反覆によりて漸時群衆の心裡に浸染し定着し、遂には明示せられたる眞理として承認せらるゝに至る。

吾人一度反覆の勢力が最も智能の發達したる人の腦裡にも如何に強く反應するかに思を致す時は、それが群衆の上に強大なる影響を與ふることの偶然ならざ

るを知らん、蓋し此力の因つて生ずる所以は、屢反覆せられたる言説は終局は吾人の行爲の動機の構成せらるゝ所、即ち吾人の心意中の無意識の境地の最深奥底に入り込むが爲めなり。或る期間の經過後は、吾人は全然何人が反覆せられたる斷言の主唱者なるかを忘れ、唯心からその主旨を信するに至る。廣告が驚くべき力を有するは此理由に因らざるべからず。吾人が百回又は千回某甲製造のチコレートが最上品なる旨を讀む時は、吾人は不知不識の間に諸所にて同様の噂を聞きたるが如き心地となり、遂には此事が疑ふべからざる事實なりと確信するに至る。又吾人が幾百千回某乙の粉薬が、最悪性の病症に惱みし名士を癒せりとの旨を讀む時は、何時しか之を脳裡に銘して、遂には自ら同様の病氣に罹りたる時は、之を試用して見んと思ひ込むに至る。又吾人が平素同じ新聞紙上にて、某甲は不逞の悪漢にして、某乙は最も正直の善人なりとの旨を讀む時は、苟くも吾人が讀み慣るゝ反對の意見を主張する新聞紙上にて、全然反對の記事を讀むにあらざる限りは、これは全然事實なりと信するに至る。斷言と反覆とに對して有力なる反對をなし得るものは、亦唯斷言と反覆とあるのみ。

一の斷言が屢反覆せられ、而して又其反覆せられたる旨意が一貫する時は——例へば、如何なる補助をも買収するに充分なる富力を有したる或る有名なる金融上の大企業家に關聯して起りたるが如く——則ち所謂輿論の潮流なるものが形成せられ、而して強大なる傳染作用がその間に働くなり。思想や感情や情緒や信條は群衆の間にありては細菌の傳染力にも比べつべき劇しき傳染力を有す。此現象は多數相集りたる動物の間にさへ起るを見れば、極めて自然的のものと謂はざるべからず。厩舎に繋かれたる一頭の馬が馬丁を噛まば、同一厩舎内に於ける他の馬も亦總て之に倣はん。又數頭の羊が物に驚くことあらば、其餘波忽ち幾萬頭の全羊群に及ばん。群衆を構成する人々の間にありては、總ての情感は最急速の傳染性を帯ぶ。恐慌の倏忽として來り倏忽として廣がるは之に起因す。發狂の如き精神上の錯亂も亦傳染し易し。かの狂者を治療するを専門とせる醫師が自身發狂する例の多きは、普く人の知る所なり。發狂の諸種の症狀は近頃世上に示さるゝに至れり。例へば、かの人間より動物に感染すと稱せらるゝ、アゴラフ・マン(Agoraphobia)廣場の如き廣濶なる空間を見れば、神經的に恐怖する病的精

神状態。——譯者註の如き其一なり。
 傳染が多數の個人に波及するには、必ずしも彼等が同時に同一の場所に居るを必要とせず。苟くも各人の心意に單一の傾向と群衆に固有の特質とを與ふる事件の感化の及ぶ限りは、傳染作用は遠距離の間にも働くなり。殊に人々の心意が余輩が前に説明したる諸種の遠因の影響により、斯かる事件の感化を蒙り易き様に準備せられたる場合に於て然りとす。之に關する一例として擧ぐべきは、一八四八年に於ける革命運動なり。該運動は當初巴里に蜂起したるも、忽ち歐洲の大部分に波及し、爲めに列國の帝王の心膽を寒からしめたり。
 人は謂ふ、諸種の社會現象中に於て、摸倣なるものは非常に大なる勢力を有す。然れども仔細に考ふれば、摸倣は畢竟傳染の結果に過ぎざるなり。然れども余輩は既に傳染の勢力に就て詳説する所ありしを以て、爰には唯余輩が此題目に就て十五年前に述べたる所を引用するに止めん。余輩が當時の言説は爾後他の著者によりて近刊の書籍中に敷衍せられたり。
 人間は動物の如く摸倣に陥り易き自然の傾向を有す。摸倣はそれが極めてなし易

き場合には、實に人間生存の必要條件なり。此必要條件こそ所謂流行と稱するものをして非常に有力なる要素たらしむる原因なれ。意見に關する事にまれ、思想に關する事にまれ、文學的表現に關する事にまれ、乃至單に服裝に關することにまれ、世の流行に逆つて進み得る程の勇氣を有するもの果して幾人かある。群衆は實例によりて導かるゝものにして、議論によりて導かるゝものにあらざるなり。何れの時代にありても、少數の人ありて先づ範を一般人衆に垂れ、而して後に總ての人によりて無意識の間に摸倣せらる。然れども是等少數の人に垂るゝ範例と既に一般に承認せられたる思想觀念との間に際立ちたる差異なきことを要す。若し兩者間に際立ちたる差異ある時は新なる範例を摸倣することは極めて困難となるが故に、從つて其勢力も皆無となるなり。此理由に因り嶄然として時流に擡んづる人士は、多大の勢力を有することを得ざるを常とす。又同一の理由に因り歐洲人は凡ゆる點に於て優等の文明の利益を有するに拘らず、東洋人に對しては甚だ貧弱なる感化力を有するのみ。蓋し兩者間の懸隔が餘りに甚しければなり。

「過去の慣習と相互間の模倣との二重の作用は、究極に於て同國及び同時代の人をして一樣の外観を呈せしむ。されば哲學者とか博識者とか文學者とかの如き最も此二重の作用の感化を免るべき筈の人々の間に於てさへ、共通の思想や體裁が行はれて、爲めに時代の特徴なるものを生じ、此時代を他の時代より識別することが容易となるなり。一個の人に接し、其人の愛讀する書籍及び平素の所業及び其人の行動する周圍の狀況を知悉せんと欲せば、霎時其人と對談すれば即ち足る。」一八八一年刊行、ギュスターヴ・ル・ボン (Gustave le Bon) 著「人と社會」(L'Homme et les Sociétés) 第二卷百十六頁——原註

傳染は其力甚だ強大にして、單に個人の或る意見を動かすのみならず、其感情をも動かすことを得、かの或る著作——一例を擧ぐればワグネル作タンホイゼル曲の如き類——が一時非常に社會の輕侮を受け、而して數年ならずして同一の社會に於て激烈に之を批難したる人の口より非常の賞讃を博するが如きは、全く傳染の結果に外ならず。

群衆の意見及び信仰の廣く傳播せらるゝは傳染作用に因るものにして、決して

推理の結果に因るものにあらず。現今勞働者間に行はるゝ種々雜多の觀念思想は皆居酒屋に於て斷言、反覆、及び傳染の結果として得たるものにして、而して實際群衆間の信仰の創造の手續は、各時代に亘りて概ね同一轍に歸す。ルナン (Renan) 一八二三年に生れ一八九二年に死せる佛國の著作家。その著「基督傳世」に行はる。——譯者註が基督教の最初の開基に與りたる人々を、居酒屋より居酒屋に其思想を宣傳しもて行く社會主義者に比較せしむ亦理なしとせず。又ヅルテールは是より先既に基督教に關聯して、百有餘年間該宗教は唯最惡の賤民輩のみによりて歸依せられたりと云ひき。

茲に注意すべきは、右の例の如き場合に於ては、傳染力は庶民階級間に其作用を逞うしたる後、更に進んで社會の上層階級へも浸入したる事なり。現今社會主義の教理が社會主義者の最初の犠牲ともなるべき階級の人の間に傳播しつゝ、あるは吾人の常に實見する所なり。傳染は其力甚だ強大なるを以て、其作用の及ぶ所、人は自己の個人的利益をも抛擲して亦顧みざるに至る。

以上の理由に因り、民衆が一度採用したる意見は、其不合理なることが明白に看

取し得らるゝ場合にても、尙傳染作用により社會の上層に位する人々の心理に入り込むなり。群衆が抱懐する信條は多少の程度に於て或る高尚なる思想に胚胎し、而して該思想が未だ其發源地に於て何等の勢力を及ぼさざるに先ちて、早くも群衆に浸染するの事情に思を致す時は、吾人は右の如く下層社會の思想が再び上層社會に反射する事實の轉た奇なるを覺えずんばならず。主唱者及び煽動者は先づ高尚なる思想にかぶれて、而して之を信奉し、幾分之を曲解して或る一派の人々に傳へ、是等の人々は更に亦甚しく曲解して之を群衆に傳へ、而して之が一般民衆の思想となり了るや、再びその本源に立ち歸りて國民の上層社會に影響を及ぼすに至る。世界の運命を作るは究極は智者の手に在りと雖、而も彼等の之を作るや極めて間接的の手續に依るを免れず。或る卓拔なる思想を案出したる哲學者の血肉が黄土に歸してより幾多の星霜を経て、始めて彼の思索の花は余輩が上來述べたる徑路によりて勝利の實を結ぶものなり。

第三節 威 嚴

斷言、反覆、及び傳染に依りて傳播せられたる思想は、時の經過するまに／＼かの威嚴と稱する不可思議なる力を獲得してより、非常に大なる効果を生ずるものなり。

由來世界に於て支配力を把握するものは、それが思想たると將た個人たるとに論なく、主として威嚴と稱する不可抗の力によりて、其權威を押し通すを常としたりき。威嚴なる語の意義は誰しも了解すれども、其語は種々の様式に用ひらるゝを以て、之を完義せんは容易の業にあらず。威嚴は或は威歎とか畏怖とかの如き感情を包含することあるべし。否、是等の感情は屢、威嚴の基礎となる事あり。然れども同時に、威嚴は是等の感情が伴はざる場合にも成立することを得。威嚴の大部分は死者、即ち吾人が之に對して何等の畏怖を感ぜざる者の有する所となれり。例へばアレキサンダーの如き、マホメットの如き、釋迦の如き、皆夫々威嚴を具へざるはなし。之に反して吾人が之に對して毫も威歎の情を生ぜざる假想上の物象——例へば印度の地下宮の怪神の如きもの——が一種の威嚴を以て吾人に臨むことあり。

事實上威嚴は一個人若くは一事業若くは一思想が、吾人の心意上に及ぼす一種の威壓なり。此威壓は吾人の批判的機能を痺痺し、驚異と尊敬とを以て吾人の精神を満すなり。此際挑發せらるゝ感情は、總ての感情の如く到底筆舌の克く盡すべき所にあらず。然れどもそれは電氣に感じたる人が受くる一種微妙なる感情に等しきが如く見ゆ。威嚴は總ての權威の中樞なり。神も帝王も婦女も之なくしては人を統御することを得ざるなり。種々の威嚴は之を二大綱に分類することを得べし。即ち其の第一は之を後天的威嚴と云ひ其の第二は之を先天的個人的威嚴と云ふ。後天的威嚴とは、家名、財産、及び評判の結果として生ずるものを謂ふ。之に反して先天的威嚴とは各個人に根本的に固有せるものを云ふ。先天的威嚴は評判、光榮、及び財産と兩立することを得べく、又是等の要素によりて強めらるゝことを得べしと雖、而も是等の要素なくとも亦完全に存在することを得。後天的即ち人爲的威嚴は最も普通に存在するものなり。一個人が或る地位を占むるとか、或る財産を有すとか、若くは或る爵位を帯ぶるとかの事實の爲めのみにて、其人の實際の價值が極めて貧少なるに拘らず、威嚴を有することあり。制服

を着けたる兵士や正装したる裁判官も亦常に威嚴を有す。パスカル(Pascal)が正服及び鬘が裁判官に對して必要なる旨を道破したるは亦宜なりと謂ふべし。斯かる道具立なければ、裁判官の威信の半は減殺せられん。最も頑固なる社會主義者も尙王侯を一瞥すれば多少の感なき能はず。而して此種の爵位を僭すれば、商人の財産を掠奪する位の事は容易となる。爵位裝飾及び制服の群衆の上に及ぼす勢力は、如何なる國にても之を見ることを得べく、而して個人的獨立の精神が最も著しく發達せる國に於ても尙存在す。之に就き余輩は近刊の一旅行記より、英國に於ける名士が有する威嚴に關する奇なる一節を次に紹介せん。余は種々の事情の下に於て最も冷靜の判斷に富める英人すら、英國の貴族に應接し或は之を見る時に、一種言ひ難き喜悅崇敬の情を生ずることを觀察したりき。貴族が自己の地位を繼續するに不足なき程の財産を有する時は、一般英人に愛せらるべきは之を豫期して可なり。而して英人が貴族に接するや、恍惚として吾を忘れ、苟くも其貴族の手に出づるものならば、如何なる待遇にも満足す。彼等が貴族の近づき來るを見る時は、顔面は喜悅の餘り紅色にはてり、而して若し該貴族が彼等

に接接の辭を掛くることあらば、包むに餘る嬉しさの爲めに其顔面の紅色は益々深くなり、其眼は異様の光に輝く。實に貴族に對する崇敬の念は、彼等の血管を通ふ。これ恰も西班牙人が天性舞踏を好むにも比べつべく、獨逸人が心底より音樂を愛するにも見立てつべく、佛蘭西人が本能的に革命を喜ぶにも較べつべし。彼等が馬に對する愛好心も、沙翁より得來る歡樂も、之に比すれば到底同日を以て論ずべからず。貴族に關する事項を記述したる書物の賣高は、なかく侮るべからず。何處に往きても聖書と同じく、各人の手中に繙讀せらるゝを見るべし。

原註

以上述べたる所は個人が及ぼす威嚴なりしが、之と共に見逃すべからざるは諸の意見及び文學上若くは美術上の著作等が及ぼす威嚴なりとす。この種の威嚴は概ね單に屢せられたる反覆の結果に過ぎず。歴史殊に文學史及び美術史は如何なる人も之を確證せんと試むることなき同一の判断の反覆に過ぎざるが故に、總ての人は之に關しては學校にて學びたることのみを反覆し、遂に或る人々若くは或る事物に就ては一定の議論が確定して何人も妨げざるに至るなり。近

代の人に取りてはホーマーの著作を讀むは確に非常なる嫌厭の情を催すべきも、誰か之を明かに然りと自狀し得るものぞ。希臘のアゼンス市の古殿パーセノンも、現状の儘にては一個の荒れ果てたる廢墟に過ぎずして、何等の威典を與へざるも、一種の威嚴を具ふる結果として、吾人の眼には爾かく映せずして、唯之に關聯する歴史上の記憶が回顧の情を増すのみなり。威嚴の特徴は吾人が事物の實相を看破することを妨げ、吾人の批判力を全然麻痺するの點にあり。群衆は常に、而して個人は一般に、凡ゆる題目に對して既成の意見を與へられんことを要望す。而して是等の意見が人氣に投合するか否かは意見其もの、眞價の輕重によるにあらずして、單に威嚴の存否によるなり。

余輩は今や先天的即ち個人的の威嚴を説明せざるべからず。此種の威嚴は上來説述したる後天的即ち人爲的の威嚴とは大に其性質を異にす。先天的威嚴は總ての爵位や總ての權力を離れて存立する事を得る機能にして、之を具備する人は世上其數甚だ少し。此種の威嚴をさへ有する時は、縱令他を威壓する爲めの普通の道具立を缺如する場合と雖、自己の周圍の人に對して、否、社會上の地位より

云へば自己の同輩たるべき人々に對しても、事實上電氣的魅力を及ぼすことを得。換言すれば此種の威嚴をさへ有する時は、自己の周圍の人々に對し、自己の思想感情の受容を強ふることを得べく、又彼等をして自己に服従して其命を奉ずること、恰も猛獸が猛獸使ひに狎れて其命する儘に動くが如くならしむることを得べし。

釋迦や基督やマホメットや、ツアンダークや奈翁の如き群衆の大指導者は、非常の高度に於て此種の威嚴を具備したりき。彼等が一舉して高き地位に達することを得たりしは、職として之に由らずんばならず。神も英雄も獨斷説も内在の力を發揚して勝利の道に進むことを得。彼等は之を外より指議すべきものにあら

ず。否若し一度之を指議せんか、彼等は忽ち雲散霧消するなり。右に掲げたる偉人物は世に知らるゝに至りし前既に此魅力を具へたりき。然り、彼等にして之を具へざりしとせんか、彼等は到底世に知らるゝに至らざりしならん。一例を挙げんに、奈翁は其名聲の最高頂に達したりし時は、單に絶大の權力を有せる結果として不可測の威嚴を具へたりしに相違なしと雖、而も彼が未だ

全く世に知られずして何等の權力を持たざりし時、既に此威嚴の幾分を具へたりき。彼が名もなき一將校たりし時、或る權勢家の庇護により當時伊太利にありし佛軍を統率するの任務を帯びて該地に赴けり。此時に當りて該軍隊中の猛將共は本國の統領内閣の命令により新に送られし此青年將校に對して敵意を示さんと計りたりき。然るに彼が到着後、第一回の會見に於て未だ言辭と舉動と威嚇との力を俟つに及ばずして、是等の猛將等は此未來の大偉人を一瞥するや、其猛烈なる敵意は忽ち消滅して、服従の念慮之に次ぎぬ。テームは當時の追懷録より取り來れる此會見の奇らしき記録を貽せり。

「師團の將校連は巴里より派遣せられたる成り上がり將校たる奈翁に對して、充分の敵意を含んで參謀部に到着したり、其中にはオーショロー (Augereau) も交じりぬ。彼は悍猛慍悍にして空威張を好み、常に自己の身長と勇氣とを鼻に掛くる人なりき。彼オーショローは新來の將軍に就て聞きたる所により之を蔑侮し、之に無禮を加へんと企てたり。彼の聞きし所とは奈何。曰く、彼等の戴かんとする將軍

は、バルナ(Barnas)の恩顧のものにして、ヴァンデミエール(Vendémiaire)の事件の爲めに其地位を獲得し、單に市街戦によりて頭角を現し、其人柄はと云へば寂寥裡に獨り思索に耽るを常とするを以て熊の如しと云ひ嘲され、風采は少しも揚らず、搦て、加へて數學家とか夢想家とかの評判を取りたる男なりと。雖て彼等は入り來りしが、奈翁は暫らく彼等を待たせ置きぬ。遂に彼は劍を佩びて現れ來り、着帽の儘自己の採らんと欲する軍略を説明し、命令を與へ、さて彼等に退出を命じぬ。此間オージョローは始終沈黙の儘なりき。既にして屋外に出で、より漸く吾に歸りて、始めて例の罵言を發しぬ。彼はマッセナ(Massena)と共に、この小さき惡魔なる新來の將軍が彼をして覺えず、畏怖の感を懐かしめたることを承認し、そも此小男に如何なる魔力ありてか、彼自らが不覺にも當初より威壓せられたるか、解し難き事よと白狀したり。

彼の出世に伴ひて彼の威嚴は益増大し、遂には彼に忠勤の面々には少くとも一個の神の威嚴にも劣るまじう見ゆるに至れり。佛國革命の代表的軍人にして、オ

ーヴォローよりは寧ろ一層強暴なりし將軍ヴァンダム(Vandamme)は一八一五年中元帥アルナノ(Marshal d'Arnano)と共に、巴里のチヤイレリー(Tuileries)宮殿の階段を昇りつゝありし際に、次の如く語りぬ。人か魔か、彼は余に對して何とも形容の出來ざる大魅力を浴びせかけたり。されば神をも惡魔をも懼れざる余も、流石に彼の面前に出づれば覺えず小兒の如く戰慄す。彼は余をして針頭の細孔をも潜らしむることを得べく、火焰の中にも飛び込ましむることを得べしと。

奈翁は實に同様の魅力を、彼に接觸する總ての人々の上に及ぼしたり。奈翁は充分自己の威嚴を意識し、且つ自己の周圍の名士に、馬丁にも劣りぬべき待遇を與へ、以て其威嚴を増大したることをも自覺しぬ。而して斯かる待遇を受けし人々の中には、歐洲人が嘗つて其名を聞きて、だに鬼胎を懷きし國民公會の議員連もありしなり。當時の巷説は此事實を證明する實話に富みたり。或る日參事會の席上、衆人稠座の中にて、ピョーニエール(Pougnot)を不法なる侍僕かの如くに取扱ひ劇しく之を侮辱したり斯くて、彼はピョーニエールの側近く進み寄りて、馬鹿者奴、汝は正

氣づきたりや」と喝破しければ、ピニーニは鼓手長の如く丈高かりしにも拘らず、極めて低く腰を屈めて一揖しぬ。是に於て短身の奈翁は手を伸ばして長身のピニーニの耳を引張りたり。これ好意を表示する奇しき徴證にして、此君が機嫌を取り直したる時に用ひし慣用の所作なりき」とピニーニは記せり。斯くの如き例は、異變が誘起する卑屈なる盲從に就て、明瞭なる觀念を興ふ。かの大專制君主が自己の周圍の人々——即ち彼が唯權勢を肥す滋養物と見做すに過ぎざる人——に對して、非常なる侮蔑の情を示すも同一轍に出づるなり。——原註。

ダヴリス(Davoust)はマレー(Maré)の忠義心と自己の忠義心とに就て左の如く語るを常としたりき。若し帝(奈翁)にして吾等に告ぐるに、帝の策略を實行する爲めには一人の住民を逃れ出でしめずして巴里の市街を全滅することの必要なる旨を以てせんか、余はマレーの克く此事を秘することを得べきを信ずれども、而も彼は自己の家族のみを私かに逃れ出だし遣らずには居られざるべし。之に反して余は斯くの如きことをなさば秘密の漏洩する虞れあるが故に、余の妻子を

して市内に止まらしむべし。」

吾人若し奈翁がエルバ島の配所より人目を忍びて本國に歸るや、佛國の勢力ある諸階級が彼の虐政の爲めに奔命に疲れて彼を迎ふるを憚らざりし事情ありしに拘らず、彼が一舉して全國の民心をして彼の一身に向はしめたる驚くべき事蹟の性質を了解せんと欲せば、必ずや此種の魅力の及ぼす偉大なる力を念頭に置かざるべからず。彼を捕虜にするの任務を帯び、且つ誓つて此使命を果さんと決心して來りし將軍も、彼の一瞥に逢へば、忽ち其心を翻して唯一言もなく彼に隨從するが常なりき。

英國のウーズレー將軍(General Wosley)は記して曰く、「奈翁は一個の流人の身として、彼の王國なりしエルバの小島を逃れ出で、佛國の濱に上陸し、數週を出でずして、及に馴らすして正統の王家の支配の下に組織せられし總ての佛國の權力を轉覆し了はれり。如何に偉大なる威勢とても、これ以上の功業をなし遂げ得べしとは覺えざるなり。されど彼の怪力は之のみには止まらざりき。この役——彼に

取りては最終の一戦たりし——の初より終に至るまで彼が歐洲の同盟軍に對して及ぼしたる威歴は非常なるものにして、實に同盟軍をして常に後手に出づるの餘儀なきに至らしめたるのみならず、彼はあはや同盟軍を粉砕せんとする間際まで漕ぎ付けたりしなりと。

彼逝きしも其威歴は久しく跡に残りしのみならず、益増大したり。かの名もなき彼の甥をして、一躍して帝位に登らしめしも、實に彼の威歴の滅びざりし爲めなりき。如之現今尙彼に關する傳説が續々と復活するを見れば、以て彼に對する世人の記憶の如何に消失し難きかを卜するに足らずとせんや。人若し充分の威歴と之を維持し且つ主張するに必要なる才能を具有せんか、人々を虐遇するも、將た幾萬の生靈を塵殺するも、將た又幾多の侵略を惹起せんも、唯夫れ彼の意の儘ならん。

余輩は疑もなく威歴に關しては寧ろ例外の部に屬すべき例證を擧げたり。然れども是に因りて考察すれば、大宗教や、大主義や、大帝國の起る所以を知るに難か

ざるべし。若し威歴の群衆の上に大なる感化力を及ぼすもの微りせば、斯かるもの、崛起せんことは得て望むべからざらん。

然りと雖威歴は單に個人的威歴力や武力や宗教の恐怖のみに根ざすものにあらず。否、威歴は時としては是等のものよりは遙に目立たざる泉源より流れ出で、而も尙非常なる感化力を有することもあり。吾人は多くの實例を現代に求むることを得べし。其最も顯著なるもの、一として後世までも語り傳へらるべきものは、かの二大陸を分離して以て坤圓球上の地勢に一變化を與へ、商業上の關係に新紀元を開きたる人(ド・レゼブ運河の開鑿者)の傳記中に之を見る。彼が此大事業に成功したりし所以のものは、一は其絶大なる意思の力によると雖、一は彼の周圍の人々に及ぼせし魅力によらずんばあらず。彼が自ら遭遇したる大反對に打ち勝たんと欲せば、身を以て親しく反對者に臨めば則ち足りき。彼の語る辭は短か、りしも、彼の身より出づる魅力の爲めに、彼の敵も忽ち彼の味方に化せり。殊に英人は絶えず頑固に彼の計畫に反對したりしが、彼自ら英國に赴きて公衆の前に現るゝや、忽ち其處にも賛同者を糾合することを得たり。後年彼がサントントン市

を通過するに當りてや、熱心なる歓迎は撞き鳴らす鐘の響に知られたり。今日英國に於ては彼の爲めに記念像を建立するの運動が始められたり。

「人にまれ、物にまれ、沼澤にまれ、巖石にまれ、將た砂漠にまれ、苟くも打ち勝つべきものには悉く打ち勝ちたる後に、彼は最早障碍を見ざるに至り、而してパナマに於て第二のヌエズを現出せんと計りぬ。彼はヌエズに於て採りし方法を此處にても亦用ひたり。然れども惜いかな彼既に老ひたり。加之山をも動かすてふ信仰の力も、山高きに過ぐる時は之を如何ともする能はず。果然山嶽は彼に抵抗せり。而して之に續きし災害は此老英雄の頭上を飾るべき光輪を永へに滅却せり。彼の傳記は、威嚴は如何にして起り、如何にして滅ぶべきかを吾人に教ふるなり。彼や大を史上第一流の諸英雄と競ひたる後に、憐れにも本國の執政官の爲めに最悪の囚人輩と同列に置かれたり。彼死にし時其棺は見送る人もなく、空しく冷淡なる群衆の中を分け行けり。唯外國の帝王のみは彼の英靈に敬意を表すること、恰も史上第一の英傑の雄魂に敬意を表する如くなりき。[奥國ウイナの新紙「ノイエブレッセ」はド・レセプスの運命に就て一文を公にせしが、その議論最も深刻な

る心理學の見識に富み、頗る傾聴に値す。故に余は下に之を轉載すべし。フェルチナンド・ド・レセプスが有罪の宣告を受けたる以上は、吾人は最早クリストフ・コロンのパスの末路の悲痛を異むの權利なきなり。若しフェルチナンド・ド・レセプスが惡漢なりとせば、總ての貴き幻想は罪惡なりと云はざるべからざるなり。遠き昔なりしならんには、世人は彼の記憶を燦爛たる榮光に包み、彼をしてオリンパス(希臘の神話に於ける神々の郷土、猶我國の神話に於ける高天原の如きもの)——譯者註の中なる神の美酒を飲ましめしならん。これ蓋し彼が地球の表面に變化を與へて、天地創造の業を一層完璧にしたればなり。佛國の控訴院長はフェルチナンド・ド・レセプスに有罪の宣告を與へたる事により自己の名を不朽にせり。何とならば何時の世までも萬國の民は、其時代を飾りし老偉人に囚徒の帽子を冠らしむることによりて、其世紀の史上に汚點を止むることを恐れざりし人の名を知らんことを願ふべければなり。大膽なる功業を憎惡する官僚政治の存續する限りは、乞ふ今より曲ぐべからざる正義の存在を説くことを休めよ。萬國の民は大膽なる人々——自己一身の安危を顧みずして、自己の力量を信と、敢然として凡ゆ

る困難に打ち勝つことを試むる大膽なる人々を要望す。天才は小心翼々たる能はず、小心翼々は人間活動の範圍を擴大すること能はざるなり。(中略)フエルヤナン・ド・レセップスは勝利の痛快と失敗の痛苦とを味ひ得たり。——一はスエズに於て、一はパナマに於て。ド・レセップスが地中海と紅海とを連絡するの業に成功したる時は、列國の王侯より庶民に至るまで悉く彼を謳歌したり。然るに今日彼がコルマレラ山脈の巖石の爲めに、雄圖空しく蹉跎するや、彼は最早一介の下賤なる悪漢に過ぎざるなり。(中略)此結果に於て、吾人は階級間の鬭争、及び官僚連と被傭工夫との不満足とを見る。而して工夫輩に至りては、實に刑法の成文を楯に取りて、彼等の地位を高めて、僥輩の上に擢んでしめんと計りし人々に對して復習を試みたるなり。(中略)近世の立法者は、人間の天才に起因する高邁なる思想に逢着する時は、疑惑の淵に沈淪せざるを得ざるなり。若し夫れ一般公衆に至りては、斯かる思想を了解するの能力更に低く、爲めに一個の檢事長をして、スタンレーが殺人犯者なりとか、ド・レセップスが詐僞者なりとかを證明すること容易ならしむるなり。(原註)

然りと雖上來援用したる諸例は、極端の場合を代表するものたるを免れず。威嚴の心理を仔細に説き盡さんと欲すれば、斯くの如きは最も顯著なる例として擧げざるべからざるものにして、大は宗教や帝國の創設者より、小は新調の上衣若くは一個の裝飾によりて、傍人の目を眩惑する徒に至るまで、孰れか大小の點に於てこそ相異はあれ、威嚴によりて立たざるものならんや。

科學美術文學等の如き文明を構成する諸要素より發生する諸種の威嚴は、皆上記の威嚴の兩極端の中間に位するものにして、此方面に於ても威嚴が他を勸誘説服する爲めの根本的要素たることは、之を看取するに難からず。威嚴を具備する人、若くは思想觀念若くは事物は、或は意識的に或は無意識に、直ちに傳染の結果として一般に摸倣せられ、延いて一時代の人々をして舉つて或る種の感情若くは或る種の思想の表現法を採用するに至らしむ。加ふるに此摸倣は一般に無意識的にせらるゝものにして、而して其無意識にせらるゝは又其摸倣が完全なる所以を暗示す。かの或る未開人種の青褪めたる着色法、及び簡樸なる描寫法を摸倣する近世畫家は、自ら之をなすに至りたる動機の那邊に存するかを知るも

の幾と稀なり。彼等は唯藝術に對する誠意の極之をなすと思惟す。然れども仔細に考察すれば、吾人は或る畫界の巨匠が、既往に於て此種の描法を復活したるにあらざるば、一般民衆は唯其質朴拙劣なる點のみを見て、其他の優點を鑑識すること能はざりしに畢はりしならんと信ず。或る他の畫伯に倣ひて畫布の上に多量の紫の色彩を施す畫家は、別に天然の風景中に五十年の昔よりも多くの紫影を見るが故に爾かなすにあらざる、斯かる奇法を用ひたるにも拘らず、偉大なる威嚴を獲得するに成功したる一畫家より痛切なる感動を受けたる爲めに、忽ち之に感化せられ、之に暗示せられ、其極遂に之を模倣するに至りたるなり。之に類似の例は文明の總ての要素に關聯して、際限なく之を擧ぐるを得べし。

以上述べ來りし所によりて吾人は威嚴の發生に關する若干の要素を知ることを得べし。是等の要素中常に最も大切なるものを「成功」となす。世上一般に識認せられたる各の成功せる人若くは各の成功せる思想は、最早世人に疑團を挾まる餘地なきものなり。成功が威嚴の發生に關する主要なる要素の一たることを知らんと欲せば、威嚴の消滅は延いて成功の消滅となり、又成功の消滅は延いて

威嚴の消滅となるの事實を見れば則ち足る。昨日は群衆の歡呼聲裡に迎へられし英雄も、焉ぞ今日の失敗によりて萬人の輕蔑の標的となるなきを保せんや。豈に管に之に止まらんや。曩日の威嚴の大なりしだけそれだけ、今日の反動は激甚なるべし。この場合に於ては群衆は一敗地に塗れたる英雄を自己の同等者と見倣し、以て從來之を優者として奉戴したることを悔む、之に復仇するなり。かの佛國革命の大立物ロベスピエールが自己の同僚及び多數の同時代の人々を死刑に處すべきを命令せし時に當つてや、彼は絶大なる威嚴を身に具へたりき。然るに一朝數個の投票の移動により、其權勢を失ふや、同時に忽ちその威嚴をも併せ失ひ、暫し前まで彼が斷頭臺に送りし人々に對して群衆が放ちしと同一の惡罵の聲に葬られながら、斷頭臺の下に率き行かれぬ。熱信者が昨日まで神と崇めし人の偶像を破壊する時は、瞋恚の色を作すを常とす。

成功の缺乏によりて失はれたる威嚴は、霎時の内に消滅す。威嚴は又討議の標的となりて徐々に消散することあり。兎に角討議の威嚴を消散せしむる力は極めて的確なるものなり。然り、實は威嚴が疑問の裡に投せらる瞬間より、その威嚴た

る實質を失ふものとす。神にても、人にても、苟くも威嚴を持続する間は、決して他の討議を容赦せざるなり。されば群衆をして吾を歎稱せしめんと欲せば、之を遠距離に置きて吾を見しめざるべからず。

第四章 群衆の信條及び意見の變化の範圍

第一節 確定的信條

或る一般的信條の不變性——是等の思想は文明の進路を形成す——斯かる信條を顛覆することの困難——如何なる點に於て苛虐不寛容の精神は一民族に於ける美點なるか——一の信條が縱令哲學的に檢すれば不合理とするも、そは其宣傳に妨げなきものとす。

第二節 群衆の易變的意見

一般の信條に發源せざる意見の極端なる易變性——思想及び信條の一世紀以内の外見上の變化——斯かる變化の事實上の範圍——此變動によりて影響を蒙る事項——現今は一般的信條が次第に消滅しつつあり、而して新聞紙の普及の結果として今日坊間の意見(輿論)は益々易變性を帯びつつあり——何故に群衆の意見は多くの題目に對して冷淡となるの傾向を示すか——政府は現時は往日の如き群衆を指導する力を有せず——極端に多岐に分れたる爲め、現今其壓制的の機能を失ひたる意見は如何なるものか。

第一節 確定的信條

生物の解剖上の特徴と其心理學上の特徴との間に一の酷似點あり、解剖上の特

徴にありては、吾人は或る變化すべからざる若くは變化し易からざる要素存在して、苟くも之を變更せんと欲せば、地質學上の年代の経過を俟たざるべからざるものあるを見る。是等の確定的不可壞の特徴と相並びて、他に極めて變化し易き特徴存在す。斯かる特徴を變化するは、畜養者若くは園藝家の方寸の内に存在し、而して時としては不注意なる觀察者は、其基礎的の特徴を判別すること能はざる程までも甚しく變化し得らるゝことあり。

之と同一の現象は道德上の特徴の場合に於ても之を見ることを得。吾人は一民族の確定的不變的の心理的要素と相並びて、不確定的易變的の要素の存在するを知る。此理由により一民族の信條並に意見を研究するに當りて、吾人は確定不動の根本基礎の地盤の上に、巖の上の砂の如き移動し易く變化し易き諸の意見が植ゑ付けらるゝものあるを發見するなり。

群衆の意見及び信條は全く異なる二種類に分つことを得べし。其一は幾世紀にも涉りて存続する永久的の大信條にして、一の文明全體の基礎を構成するものなり。其實例を擧ぐれば過去に於ける封建制度や基督教や新教主義の如き、將た

現代に於ける民族國家主義や今日の民主的及び社會的思想の如き即ち是なり。其二は一般的易變的の意見にして、是等は大抵皆一般的觀念の結果として生ずるものにして、各時代に於て常に出沒變現せるものなり。其例を擧ぐれば、文學美術の型を作る學說——例へば或は浪漫主義、或は自然主義、或は神祕主義等を作り出したる學說の如きもの即ち是なり。此種の意見は譬は、水底深き湖水の表面に絶えず出で、は消ゆる漚瀲たる波紋の如しとも謂ひつべし。

偉大なる一般的信條は其數甚だ多からず。而して此種の信條の興亡は有史以來、各民族の歴史上の最高潮期を構成す。此種の信條は實に文明の實際の骨子と成れるものなり。

一時的の思想意見を以て群衆の心意を感化するは容易なりと雖、群衆の心意中に永續的の信條を浸染することは極めて難事に屬す。然れども永久的の信條が一度群衆の心裡に確立するや、之を抜き去ることも亦等しく困難なり。永續的の信條を變更するには、普通大革命の犠牲を要す。否大革命とても唯斯かる信條が民衆の心意に對する支配力を殆ど喪失したる時に於てのみ、克く効を奏することを

得るなり。斯かる場合に於ては、革命は社會より殆ど遺棄せられたるも唯因襲習慣の力によりて纔に命脈を維持したる信條を一舉に掃蕩し去るまでのことなり。一言以て之を掩はば、革命の始まりたる時は既に信條の生命の終りたる時なり。

一大信條の終滅期は容易に之を判定し得べし。即ち世人が該信條の價值を疑ひ始めたる瞬間こそ其命脈の止まりたる時なれ。各種の一般的信條は一の假設物に過ぎざるを以て、唯其内容が毫も検査を受けざる條件に於てのみ存立することを得るなり。

然りと雖一の信條の基礎が甚しく動搖したる場合とても、尙此思想の結果として起りたる制度は依然として其勢力を保有し、徐々に消滅に近づくなり。而して該信條が全然其力を失ひたる時に於て、始めて其基礎の上に存立したる事々物物が悉く瓦解崩落す。古來如何なる國家と雖、其文明の各要素を變更する必要に迫りたる時にあらざれば、其信條を變化したりしことは未だ曾つて之をあらざりき。一國民は一の新なる信條に達着し、之を採用するに至るまでには、始終因つて以

て立つべき文明の要素を變更して已まず。別言すれば新なる信條を獲得するまでには、思想上無政府の状態にあるなり。要するに一般的信條は各種文明の缺くべからざる支柱にして、一般思想の歸趣傾向を定むるものは之に外ならず。而して又唯一般的信條のみ克く信仰心を鼓吹し、義務の觀念を起生せしむることを得るなり。

諸の國民は一般的信條を獲得するの利益を意識し、而して之が喪失は自國の衰亡の徴證たることを本能的に了解したりき。羅馬帝國の場合に於ては、羅馬固有の狂熱的の教義が羅馬人をして天下に覇たることを得しめし信條なりしが、此信條の勢力が地に墜ちたる時は羅馬の滅亡の運命の定まりたる時なりき。羅馬の文明を破壊したる野蠻人の場合にありては、彼等が共通的に認容せし信條を獲得したりし時が、纏て彼等が幾分の結合力を得て無政府の状態を逸出したる時なりき。

言ふまでもなく、諸國民が彼等の意見を擁護する爲めに、苛虐不寛容の精神を示したる事も亦其効なきにあらざりき。此苛虐不寛容の精神は、哲學上の立場より

は批難すべき餘地あるべしと雖、國家存立問題の立場より見る時は、其美點中の最も必要なるものと云ふべし。中世紀に於て幾萬の生靈が刑場の露と消えしも、將た又幾多の發明家若くは創始者が、縱令殉教者たるの運命を免れたる場合と雖、絶望の間に命を殞せしも、皆これ一般的信條を創設せんが爲め、若くは之を支持せんが爲めの犠牲となりしものなり。又紛糾擾亂の活劇が屢、世上に演ぜられしも、將た又幾百萬の蒼生が屍を戰場に横へしも、尙且つ將來に於て爾かすべからんも、悉くこれ斯くの如き一般的信條を擁護する爲めならずんばあらず。

一般的信條を確立する爲めには非常なる困難に遭遇せざるべからざるべしと雖、其一度確立せらるゝや、將來永く絶大なる力を行使し、而してそれを哲學的に觀察せば如何にも不合理なる場合と雖、一般民衆は云ふに及ばず、智力卓抜なる人士までも、一意専心に之を信奉す。乞ふ見よ、歐洲の諸國民は仔細に査覈せばモロク (Molok) の傳説とさして異らざる程に野蠻的なる宗教上の傳説を、千五百年の久しきに涉りて疑を容るゝ餘地なき確實なる事實と見做したりしにあらずや。余輩が野蠻的と云ひしは、勿論哲學的の見地よりせるなり、實際上に於ては、是等

の傳説は全然新なる文明を作りたるものにして、又千五百年間人類をして、今後到底見ることを得ざるべき温和なる理想の甘夢及び希望の世界を瞥見せしめたるなり。——原註。神が其被創造者たる一人が神意に背きたりとして、其者の子に恐しき刑罰を與へて以て復讐をなしたり杯と説く傳説は滑稽突梯到底識者の一喙にだも値せざるものなりとは幾世紀間世人の考へ及ばざりし所なりき。ガリレオや、ニュートンや、ライブニッツの如き曠世の大碩學すら、尙斯くの如き獨斷説が疑はるゝに至るべしとは夢にだも思ひ設けざりしならん。斯くの如き例は一般的信條の魅力をも露骨に例證するものにして、同時に又吾人の智力の頼むに足らざることを遺憾なく指示するものと云ふべし。

一の新なる獨斷説が群衆の心裡に確立せらるゝや、直ちに彼等を鼓舞煽揚する力の根源となり、其制度、文藝、及び生活の方法の基礎となる。是等の狀況の下に於て、獨斷説が民衆の心意の上に及ぼす感化力は絶對無限なり。實行家は認容せられたる信條を實現せんとするの外に餘念なく、立法者は之を應用せんとするの外に餘念なく、哲學者や美術家や文學者は種々の形式の下に於て之を發表せん

とするの外に餘念なきに至る。

根本的の信條より一時的の附隨的思想の發生することあるべしと雖、而も此種
の思想は常に其根源たる信條の痕跡を留む。埃及の文明と云ひ、中世紀の歐洲の
文明と云ひ、アラビア人の回教的文明と云ひ、皆一として若干の宗教的信條の結
果によらざるはなし、蓋し是等の宗教的信條は各種の文明の枝葉的瑣細の要素
の上にも其痕跡を貽し、之をして直ちに其何れの部類に屬するかを容易に判別
すべからしめたるものに外ならず。

されば一般的信條の結果として、各時代の人々は皆因襲や意見や風俗習慣等の
複雑なる感化の下に投げ込まれて、誰しも皆同一様の特徴を帯ぶるに至り、而し
て此感化力の束縛より脱離せんと欲するも亦得べからざるなり。人々の行動は
何よりも殊に彼等の信條及び是等の信條の結果たる風俗習慣によりて導かる
是等の信條及び風俗習慣なるものは、吾人の生活の最も些細なる行爲をも支配
するものにして、而して最も獨立心に富む人も尙其感化を避くることを得ず。マ
イベリアスや成吉思汗や奈翁は強大なる壓制力を具へし虐君に相違なかりき。

然りと雖、モーセや釋迦や基督やマホメットは千年の墓石の底より、是等の地上の
帝王よりも遙に偉大なる壓制を人心の上に加へたり。陰謀は以て克く虐君の權
勢を挫じくに足るべし、而も何物か克く確實に打ち建てられたる信條を顛覆す
ることを得んや。佛蘭西革命は羅馬加特方教と争はんと欲して起りたるも、見事
に失敗したり、而も群衆は云ふまでもなく、此革命に加擔し、而して其張本人たる
人々は宗教裁判にも劣らざる程の殘酷なる殺戮を行ひたるにも拘らず、其結果
は不成功に了はりたるをや。是に由りて之を觀れば、太古より人類に君臨せし實
際の壓制者は、常に遠き昔の死者の記憶若くは人類が自ら作り出したる迷想に
外ならざりしなり。

一般的信條は縱令哲學的の見地より見て不合理なりとするも、そが宣傳播布の
妨とはならざるなり。否、此種の信條は多少神祕的不合理の分子を含むにあらざ
る限りは、其傳播も覺束なかるべし。されば今日の社會主義上の信條は掩へべか
らざる弱點あるにも拘らず、民衆の間に勢力を得んとするの傾向を示せり。そが
總ての宗教上の信條に劣る點は、實に宗教上の信條が提供する幸福の理想は來

世に於て實現せらるべきものとなすを以て、何人も之に對して抗爭すること能はざるの事實に在つて存す之に反して社會主義者の唱道する幸福の理想は現世に於て實現せらるゝものと見做さるゝが故に、之が實現の方策が着手せらるるや否や、其理想は畢竟空望に過ぎざりしことが明瞭となり、従つて折角の新たな信條も忽ち其威嚴を失墜せん。所詮斯くの如き信條の勢力は、唯そが多數民衆の間に傳播せられ、其説く所の理想の實現の方策が着手せらるゝ日まで隆盛を加ふるに過ぎず。此理由に因り、新宗教なる社會主義は當初には之に先だちて來りし諸宗教と同じく破壊的勢力を揮ふと雖、將來に於て創始的の職分を盡すことを得ざるべし。

第二節 群衆の易變的意見

吾人が上來説明したる確定的信條の根本基礎の上層には、常に且つ發生し且つ消滅する一時的の意見や觀念や思想の横はれるものあり。是等の中の或るものは唯權花一朝の榮を得るのみにて忽ち凋落するを常とし、而して其重要なるも

のに至りても一時代に涉りて存續し得るもの極めて少し。余輩は既に此種類の意見に關聯して起り來る所の變化は、實際上の變化と云はんよりは寧ろ皮相上外觀上の變化と云ふを至當とすべく、而して是等の變化は各民族の本性によりて夫々異同ある旨を説述したりき。例へば佛蘭西の政治制度を檢するに當り、余輩は全然外觀を異にする諸政黨——王黨、急進黨、帝國黨、社會黨等の如き——は事實上徹頭徹尾同一の理想を抱懷するものなることを述べたり。而して其際一言せし如く此理想は單に佛國民の心的組織に因る。何とならば之と全く反對の理想が同様の名稱の下に他の民族間に存在すればなり。諸の意見に與へられたる名稱若くは虚偽的の改作は毫も事物の本質を變更せず。拉丁文學の感化を蒙りし佛國革命時代の人々は、羅馬共和國の上に着眼して、其法制を取り、その服制調度の或る物を摸したりしも、而も竟に羅馬人たる能はざりき。これ蓋し彼等が強力なる歴史的暗示の支配を受けしによる。哲學者の職務は百般の事物の去來する間にありて、如何なるものが古來の信條中より延いて今尙殘存せるものなるかを鑑別し、且つ諸の意見の推移變遷する間にありて、其如何なる部分が一般

的信條及び民族の眞精神によりて決定せらるゝかを判定するにあり。此哲學的鑑識の標準なきを以て、群衆は屢、隨意に政治上及び宗教上の信條を變更するかの如く見ゆることあるべし。總ての歴史は、其政治上のものたる、宗教上のものたる、美術上のものたる、若くは文學上のものたるを問はず、皆此言の誤まらざることを證するが如し。

一例として吾人をして佛國史上の一短期、即ち單に一七九〇年より一八二〇年に至る三十年間の事情を看一看せしめよ。此一時代の経過する間に吾人は最初に王政思想を懐きし群衆が、次いで革命思想にかぶれ、一轉して帝政思想に行き、遂に再び元の王政思想に立ち歸りたるを見る。之を宗教上に見んか、群衆は同期間に於て舊教主義より無神主義に轉じ、次いで有神主義に移り、最後に斷乎たる舊教主義の形式に立ち歸りたり。是等の變化は、常に民衆の間に起りたるのみならず、民衆を指導したる人々の間にも亦起りたりき。かの王の敵たらんことを誓盟し、神をも君主をも一擲したりし國民公會の議員が、何時しか奈翁の忠僕となり、後更にルイ十八世の統御の下に宗教上の行列の仲間入して、殊勝氣に蠟燭を

運びし跡を見れば、吾人は坐ろに人事の轉變に一驚を喫せざるを得ざるなり。更に其後の七十年間の間に於て群衆の意見の上に起りし變化も亦甚だ多かりき。十九世紀の初頭に於ては佛蘭西人より「不實なるアルピオン」とまで稱せられたる英國が、奈翁の後繼者の下に於ては佛蘭西と同盟を締結したりき。又佛蘭西の侵略を受けたる露國は、佛蘭西の悲運を見て満足を感じせしも、今や佛蘭西の友邦とはなりぬ。

文藝、美術、哲學に於ては、意見の新陳代謝は更に一層急速なるものあり。曰く浪漫主義、曰く自然主義、曰く神祕主義、曰く何、曰く何と稱するもの相踵いで起り、相踵いで倒れ、昨は世人の賞讃を博せし美術家や著作者は、明日は甚しき侮辱を以て迎へらるべきを保せざるなり。

然れども吾人が是等の外觀上多大の程度に達する變化を窮め盡す時、吾人は如何なるものに遭遇するか。一般的信條及び民族の感情精神に背反する總ての變化は、一時的のものたるを免れずして、一旦擾亂せられたる事物の順序も須臾にして原狀に復するなり。一般的信條若くは民族の感情と沒交渉なる意見は確實

なる基礎を缺くを以て、動もすれば各場合の状況——換言すれば周囲の事情の變化のまに——動搖するを免れず。斯かる意見は暗示と傳染とによりて構成せらるゝものなるが故に、常に一時的の性質を帯び、例へば風が積み成せし海邊の砂丘の如く、其折々の事情につれて變幻出沒す。

現今にありては群衆の易變的の意見は其數の多きこと未だ嘗つて見ざりし所、而して其茲に至りしには様々の理由あり。

其第一の理由は舊來の信條は漸時益、其勢力を失ひて、最早往時に於ける如く機に臨み變に應じて一時的の意見を構成するの力を有せざるに至りたることなり。一般的信條の衰微は、過去も未來もなき偶然的意見の出現の素地を作りたり。第二の理由は群衆の勢力は常に益増大に赴くの傾向を示して、而して何等の制限を受くることなきを以て、余輩の嘗つて説述したる如く群衆に特有の現象たる意見の極端なる易變性は、毫末の障害を蒙ることなくして現れ來ることなり。第三の而して最後の理由は、近時新聞業が發達したる結果、非常に反對せる諸の意見が絶えず公表せられて、一般の視聽を牽くこととなり。各個の意見より生ずる

暗示は忽ち反對の性質の暗示の爲めに破壊せらる。其結果として如何なる意見も廣く江湖に流布することを得ず、又其存立も一時的に終る。今や一意見出づるも其廣く世に行はるゝに至る前に消滅し了るを常とす。

是等種々の原因の結果として、現代の最大特徴とも云ふべき世界歴史の始まりて以來の新現象發生したり。之を何とかなす、曰く、各國政府の一般意見を指導するの力を喪失したること是なり。

過去に於ては、而も今を距ること甚だ遠からざる過去に於ては、政府の行動及び少數の文士と極めて少數の新聞紙との勢力は、輿論の事實上の反映者なりき。今日にありては、文士は全く其勢力を失ひ、唯新聞紙のみ纔に輿論を反映す。若し夫れ政治家に至りては、輿論を指導するは愚か、唯輿論に従はんことを汲々として維れ務む。彼等は惴々焉として輿論の前に畏怖し、時として或は震駭し、爲めに時刻々變動する、不確定の行動を取ることをも敢てするなり。

斯くて群衆の意見(輿論)は益、勢を得て、次第に政治上に於ける絶大なる指導力を有する主義方針となる。今や群衆の意見は國際間の盟約をさへ促成するの力を

有するに至りたるなり、近くは露佛同盟の如きは一に民衆の運動の結果たるに過ぎず。現代の奇異なる徴候は、法王や各國の帝王が或る問題に關する自己の意見を提出して、群衆の判断を徴する機關として會見を受くることに承諾する事實なり。往時に於ては政治は感情の問題にあらずと云ふも亦正鵠を誤らざりしなるべし。然れども試に問はん、吾人は今日に於ても尙斯く云ふことを得るや否やと見よ、現今にありては政治は理性の感化を受くるにあらずして、唯偏に感情のみによりて導かるゝ群衆の衝動的意見に支配せらるゝこと次第に多きを加ふるにあらずや。此時に當りても尙吾人は政治は感情の問題にあらずと云ふことを得るや。

新聞紙は嘗つては輿論を導きたることもありしと雖、今や政府と同じく群衆の勢力の前に屈服し畢はんぬ。疑もなく新聞紙は頗る侮るべからざる勢力を揮はざるにあらずと雖、其然る所以のものは唯そが専ら群衆の意見と、其意見の常住不漸の變化の跡とを反映するが爲めのみ。斯くて新聞紙は一の報道供給の機關となり果て、遂に一思想若くは一主義を唱導せざるに至り、只管世論の變化を

追うて進退す。これ同業者の競争上讀者を失はんことを恐れて、餘儀なく爾かなすなり。古くより基礎の確立して、多大なる勢力を有する新聞紙なる「コンスタチューションネル」(Constitutionnel)や「デバール」(Debat)や「シエクル」(Siecle)の如きは、以前は世人によりて輿論の指導者と見做されしが、今や全然廢刊したるか、若くは其紙面の姿を變へて、其報道の大多數を俗間の瑣事や道聽途説や、金融上の放言の間に挿入する底の代表的現代新聞紙と化しぬ。今日其寄稿家をして独自の意見を吐露せしむるに足る程の財力を有する新聞紙の有無は問題にも上らざる事にして、而して斯かる意見は唯報知と娛樂とを新聞紙より得んと欲し、各種の言説を單に思索の動機に出でたるものと疑ふが如き讀者に取りては、毫も重きをなさざるなり。批評家すら一の書籍若くは演劇の成功如何を豫測することを得ざるに至れり。彼等は唯害を興ふることを得れども、利益を興ふることを得ず。新聞紙は如何なることをも批評の形式、若くは個人的意見の形式に於て述ぶることの無用なるを覺り、文學上の批評を廢棄すべき點に達したることを意識し、今は唯書籍の表題をのみ掲げ二、三行の放言を附加するに止む。此言は特に佛國の新聞

有するに至りたるなり、近くは露佛同盟の如きは一に民衆の運動の結果たるに過ぎず。現代の奇異なる徴候は、法王や各國の帝王が或る問題に關する自己の意見を提出して、群衆の判断を徵する機關として會見を受くることに承諾する事實なり。往時に於ては政治は感情の問題にあらずと云ふも亦正鵠を誤らざりしなるべし。然れども試に問はん、吾人は今日に於ても尙斯く云ふことを得るや否やと、見よ、現今にありては政治は理性の感化を受くるにあらずして、唯偏に感情のみによりて導かるゝ群衆の衝動的意見に支配せらるゝこと次第に多きを加ふるにあらずや。此時に當りても尙吾人は政治は感情の問題にあらずと云ふことを得るや。

新聞紙は嘗つては輿論を導きたることもありしと雖、今や政府と同じく群衆の勢力の前に屈服し畢はんぬ。疑もなく新聞紙は頗る侮るべからざる勢力を揮はざるにあらずと雖、其然る所以のものは唯そが専ら群衆の意見と、其意見の常住不斷の變化の跡とを反映するが爲めのみ。斯くて新聞紙は一の報道供給の機關となり果て、遂に一思想若くは一主義を唱導せざるに至り、只管世論の變化を

追うて進退す。これ同業者の競争上讀者を失はんことを恐れて、餘儀なく爾かなすなり。古くより基礎の確立して、多大なる勢力を有する新聞紙なる「コンスタブル」(Constitutionnel)や「ダジャ」(Djaks)や「シエクル」(Siècle)の如きは、以前は世人によりて輿論の指導者と見做されしが、今や全然廢刊したるか、若くは其紙面の姿を變へて、其報道の大多數を俗間の瑣事や道聽途説や、金融上の放言の間に挿入する底の代表的現代新聞紙と化しぬ。今日其寄稿家をして独自の意見を吐露せしむるに足る程の財力を有する新聞紙の有無は問題にも上らざる事にして、而して斯かる意見は唯報知と娛樂とを新聞紙より得んと欲し、各種の言説を單に思索の動機に出でたるものと疑ふが如き讀者に取りては、毫も重きをなさざるなり。批評家すら一の書籍若くは演劇の成功如何を豫測することを得ざるに至れり。彼等は唯害を與ふることを得れども、利益を與ふることを得ず。新聞紙は如何なることをも批評の形式、若くは個人的意見の形式に於て述ぶることの無用なるを覺り、文學上の批評を廢棄すべき點に達したることを意識し、今は唯書籍の表題をのみ掲げ二三行の放言を附加するに止む。此言は特に佛國の新聞

紙に就いてなしたるものなり。——譯者註。今後二十年以内には劇評も亦同一の運命を見るの日あるべきなり。

輿論の趨勢を嚴密に省察することは、今日新聞紙及び政府の主要なる仕事となれり。一個の事件、一個の立法上の提案、一場の演説が生じたる結果如何とは、絶えず彼等が知らんと欲する所にして、而して又之を知るは甚だ容易ならざることなりとす。其故何とならば、群衆の思想ほど動き易く變り易きものは外にあるまじく、而して群衆が昨日稱揚したる所のものを今日罵詈するが如きことほど屢、繰返さるものは他に存せざるべければなり。

この輿論に何等の針路の存せざると、並に之と同時に一般的信條の消滅したること、の終局の結果として、各種の非常に相異せる確信簇生し、而して群衆は明かに自己の直接の利害に關係なき事物に對しては益、冷淡となれり。社會主義の如き主義綱領に關する問題は單に無學の階級間より——例へば鑛山とか工場とかの中に使役せらるる、労働者間より——真正の確信を有すと誇稱する主唱者を出すのみ。若し夫れ中流社會の下級に位する人々、及び多少の教育を受けた

る労働者に至りては、非常に懷疑的にあらずんば、則ち極めて動搖し易き意見を抱くに止まるのみ。

最近二十五年間に此方面に於て行はれたる發達は、眞に人目を聳動するものあり。之に先立つ時代にありては、今を距る甚だ遠からずと雖、一般の意見は尙一定の針路を有したりき。蓋し是等の意見は或る根本的の信條を奉戴したりし結果なればなり。單に籍を王黨の間に置くのみなる事由により、一個人は歴史上の事柄に於ても將た科學上の事柄に於ても非常に明確なる觀念を有し、之に反し單に籍を共和黨間に置くのみなる事由により、彼は全然之と反對の觀念を具へたりき。王黨員は人は猿より進化したるものにあらずと確信し、共和黨員は人は疑もなく猿より進化したるものなりと確信したりき。又かの大革命に言及する毎に、之を恐るべき慘害なりと貶し去るは王黨の義務にして、之を偉大なる舉なりとして尊敬するは共和黨員の義務なりき。又ロベスピエールやマラーの如き名は、熱罵酷評の裡に葬られたりき。佛國ソルボンヌ大學に於てさへも、此種の眞率

なる史實の解釋は一般に行はれたりき(佛國の歴史の教官の編著に係る書中には、此點より見れば奇異なる節あり。斯かる文句を見る時は、批評的精神が佛國に行はれし教育制度によりて助成せらるゝことの少かりし跡も見え透くなり。吾人は今其一例として左にツルポインヌ大學教授ラムボード氏(Rambaud)著「佛國革命」より數句を引用せん。曰く、バスチーユ牢獄の占領は、單に佛國のみならず、全歐洲に於ける最高潮的事件にして、之によりて世界歴史上の一新紀元は開けたり。ロベスピエールに關しては、彼の專權は何よりも殊に意見と確信と道德上の權威との上に基礎を置きて、譬は、一の有徳者の手に收められたる法王職の如きものなりき」とあるに至りては、亦一興に値すと謂ふべし。同書九十頁及び二百二十頁——原註。

現今にありては、議論及び解剖の結果として、總ての意見は益、威嚴を喪失し、其特徵は急速に消滅に瀕し、其殘存せるものと雖、吾人の熱心なる崇拜を促すに足らず。現代人は次第に冷淡を本色とするに至れり。

斯くの如く意見の一般的消滅は吾人の痛惜に堪へざる所にして、此事が一民族

の生活の頽廢衰微の徵候たるは復た疑を容れず。云ふまでもなく偉大にして超自然に近き洞察力を有する人々、即ち群衆の鼓舞者指導者——一言以て之を掩へば醇乎醇たる強き確信を有する人々——は、萬事を否拒し批評し、若くは如何なる事物にも冷淡なる人々よりも大なる勢力を揮ふものとす。然りと雖今日の如く群衆が大なる勢力を獲得したる時に當りて、若し單一の意見が充分の威嚴を得て、一般の認容する所とならんか、該意見は遂に壓制的勢力を具ふるに至り、總ての事物は皆その前に屈服し、自由討議の時代は長へに去らん。これ最も寒心すべきなり。群衆は時としてはヘリオガバラスや、タイベリアスの如く頗る與し易き君主たることあれども、然れども其氣質感情は時として激烈に變化し殆ど別人の如く全く豹變することあるなり。一の文明が易變管ならざる群衆の支配の下に置かるゝや、忽ち其折々の意嚮の赴く所に從つて翻弄せられ常に變化せられ、其永續も到底覺束なくなるに至る。若し文明の破滅の期の來るを一日にても緩くするものありとせば、そは正しく群衆の意見の極めて變化動搖し易きことと並に群衆が日一日各種の一般的信條に疎遠となり冷淡となる事實に外なら

そのこと

第三篇 各種の群衆の分類及び其細説

第一章 群衆の分類

群衆の大別——其分類

第一節 複種群衆

複種群衆の異りたる各種類——民族の影響——民族精神の強

大なるに従ひ群衆精神は微弱なり——民族精神は文明的状态を表示し、群衆精

神は野蠻的状态を表示す。

第二節 單種群衆

其異りたる各種類——黨與仲間及び階級。

余輩は以上の諸章に於て心理的群衆に共通なる一般的性質を説述せり。今や余輩のなすべき事として残れるは、多數人が適當なる刺戟的原因の感化の下に群衆に化成せられたる時に現出する各種の集合體の普通の様式に伴ふ特殊的性質を指示するにあり。余輩は之をなすに當り、先づ群衆の分類より始めざるべか

らず。
 此分類の出發點に當るものは單純なる多數人の集團なり。其最も劣等なる形式は、異りたる民族に屬する人々が組成する集團に於て之を見るべし。此場合に於ては團結の連鎖は多少の程度に於て一般より尊重せらるゝ、首領の意思なりとす。數世紀間羅馬帝國を侵略したる各自始祖を異にせし野蠻人の如きは、此種の集團の典型として擧ぐべし。
 斯くの如く異りたる民族によりて組成せらるゝ集團より高き標準の上に位するものを求むれば、或る勢力の下に共通の性質を獲得し、終に何時しか單一の民族を組成するに至りたるものに指を屈すべし。此部類に屬する集團は群衆に特有の性質を示すことなきにあらずと雖、概ね多少の程度に於て民族的考慮よりして是等の性質を調節矯正す。
 以上二種の集團は余輩が上來說示したる或る勢力の下に、組織的群衆即ち心理的群衆に化成せらるゝことを得。余輩は是等の組織的群衆を左の如く大別せんと欲す。

甲 複種群衆

- 一、無名群衆例へば街上の群衆の如きもの。
- 二、無名にあらざる群衆例へば陪審官の集團及び合議的集會等の如きもの。

乙 單種群衆

- 一、黨與、政黨、宗派等の如きもの。
- 二、仲間(軍人仲間、僧侶仲間、勞働者仲間等の如きもの)。
- 三、階級(中流階級、農民階級等の如きもの)。

余輩は以上各種の群衆に就きて其主要なる特質を簡單に說示せん。

第一節 複種群衆

余輩が本書に於て既に研究したるは、此種の集合體の特質なりき。斯かる集合體は、各種の狀況の下に於ける人々、各種の職業に従事する人々、及び各種の智識の程度の人々によりて組成せらるゝものとす。
 吾人は既に人々が群衆の一部を構成すと云ふ單一なる事實によりて、彼等の集

合的心理は其個別心理とは相異なるものにして、而して彼等の智力は此相異によりて影響せらるゝものなることを講究せり。吾人は又集合體なるものは無意識的感情の支配の下にあるが故に、智識は其上に何等の影響を及ぼすものにあらざることに論及せり。

根本的一要素即ち民族てふ要素は、各種の複種群衆をして、それ〴〵可なり際立ちて異なる面目を呈露せしむる原因となる。

吾人は既に屢、民族が務むる役目は如何なるものなるかに言及し、且つそは人々の行爲を決定するに足る最も有力なる要素なることを説きたり。民族の作用は又群衆の性質の間に於ても之を看取し得べし。極めて偶然に集合せる個人が組成する群衆と雖、その構成分子たる個人が全體英國人のみとか、全體支那人のみとかより成る場合は、他の民族——例へば露國人、若くは佛國人、若くは西班牙人の如き——中の各種の人々より成る群衆とは、大に其趣を異にするなり。

各民族の遺傳的の心的組織の相異の結果、人々の感情及び思想の方式の上に大なる懸隔を生ずるの事實は、何等かの機會にて國籍を異にする人々が殆ど同じ

割合にて同一の群衆中に混入せる場合——尤も斯かる場合は滅多に起ることなけれど——に最も明瞭に看取することを得べし。而して斯くの如き思想感情上の懸隔は、此集合を惹起したる利害關係が彼等の間に表面上一致せる場合と雖、尙起るなり。かの社會主義者が大會議を開くに當り、諸國の勞働者の代表者を一堂に會せしむるや、其結果は極めて大なる不調和に終るを常とす。拉丁系群衆は如何に革命的と想像せらるゝ場合と雖、將た又如何に保守的と想像せらるゝ場合と雖、其要求を實現する爲めには常に必ず國家の干涉扶助を仰がんとすべし。此系統の群衆は常に中央集權に傾かんとすることにより、又明示せらるゝと然らざるとに論なく、常に執權者を戴く政治組織を翹望することによりて、他の系統の群衆と類を異にす。之に反して英國系及び米國系の群衆は毫も國家を思ふことなく、唯個人的の獨創力に訴ふ。佛蘭西系の群衆は特に平等を重んじ、英國系の群衆は特に自由を重んず。此民族の性質の相異は社會主義及び民主主義の異りたる形式の數が、殆ど國を立つる民族の數と略、相一致するの現象を説明するものと云ふべし。

果して然らば民族精神は群衆の意向の上に絶大なる影響を及ぼすものと謂ふべし。群衆の性癖の變化に制限を置くものは實に此民族精神なり。群衆の劣等なる特質は、民族精神が強大となるに従ひて漸次其勢力を失ふことは、洵にこれ千古の根本的法則なりと謂ひつべし。群衆状態及び群衆の優勢は、野蠻状態若くは野蠻状態への復歸に等し。民族が次第々々に群衆の盲動力の羈絆を脱却し、野蠻状態を逸出するに至るは、堅固に構成せらるゝ集合的精神を獲得するによるなり。民族的考慮の立場よりする分類以外に大切なる複種群衆の分類は、之を無名群衆と無名にあらざる群衆とに分つにあり。前者は街頭の群衆の如く其之を構成する各個人の誰たることを識別し得べからざる群衆——従つて無責任なる群衆を謂ひ、後者は之と反對に之を構成する各個人及び其責任の歸する所の明かなる群衆、例へば議會の如き合議的集會及び會合せる陪審官の一團の如きものを謂ふ。前者の間に缺乏し後者の間に發達せる責任の觀念こそ、總て兩者の行為の非常に異りたる傾向の原因たるものなれ。

第二節 單種群衆

單種群衆は之を細別して三となす。曰く、第一、黨與、第二、仲間、第三、階級即ち是なり。黨與てふは單種群衆の組成の徑路の第一階段を代表す。黨與は其教育の程度を異にし、其職業を異にし、且つ其所屬の社會的階級を異にする個人を包含す。而して是等の異りたる多數の個人を連結する鎖輪は共同に遵奉する信條なりとす。例へば宗教派及び政黨の如きもの即ち是なり。

仲間てふは群衆が作り得る組織の最高程度のもを代表す。黨與は職業を異にし、教育の程度を異にし、社會上の境遇を異にし、唯共同に遵奉する信條によりてのみ結合せらるゝ様々の個人を包含するものなれども、仲間は同一の職業に従事し、従つて同一様の教育を受け、且つ略、同一の社會上の地位を有する個人によりて組成せらるゝもの、例へば軍人仲間、及び僧侶仲間の如きもの即ち是なり。階級と云ふは種々の起源より出でたる多くの個人によりて組成せられ、而して其結合せらるゝに至りしは、黨與の各員の如く共同の信條を有するが爲めにもあらず、將た又仲間の各員の如く共同の専門的職業を有するが爲めにあらずして、殆ど同一の或る利害關係並に殆ど同一の生活の或る習慣、及び教育の或る習

慣を有するが爲めなり。例へば中流階級及び農民階級の如きもの即ちこれ。余輩は本書に於ては唯複種群衆を細説するに止め、單種群衆(黨與、仲間、及び階級)の考査を別冊に譲ることゝして、茲には其特質を細説せざるべし。余輩は數種の代表的且つ顯著なる群衆を捉へ來りて、縦論横説し、以て複種群衆の研究を了ふることゝせん。

第二章 所謂犯罪的群衆

所謂犯罪的群衆——群衆は法律上より見れば犯罪的なるも、心理學上より見て然らざる
 ことあり——群衆の絶對的無意識行爲——其數例——「九月虐殺」の主唱者輩の心理——
 彼等の推理力、感受性、暴虐性、及び道德性。

群衆は激昂の極致に達する時は、純然たる自動的且つ無意識的の状態に陥り、實際暗示によりて指導せらるゝものなるが故に、之に「犯罪的」と云ふ形容語を冠するは妥當を缺くの嫌なき能はず。然れども近時の心理學上の研究に於ては、此不當なる形容語を普通に使用して異むものなきが故に、余輩は姑らく此慣習に従はん。群衆の或る行爲は、其行爲の跡のみに就て考ふる時は、儘に之を犯罪的と云ふべきも、而も此場合に於ては、一頭の猛虎が一印度人を捕へ、先づ虎兒をして之を齧らしめ、而して後に自ら之を喰ふが如き行爲を犯罪的と呼ぶ意味に於て云ふに過ぎず。

群衆の犯罪の普通の動機は、有力なる暗示にして、而して斯くの如き犯罪行爲に

参加したる輩は、後日に至りて自ら義務の命ずる所に従ひて行動したるものなることを確信す。これ普通の犯罪者と甚しく異なる所なり。

群衆によりて犯されたる犯罪の歴史を研究する時は、右の議論の誤らざることを知るべし。

パスチーユの獄長ド・ロネー氏(De Lannay)殺戮の場合は代表的の實例として見るべきものなり。暴徒がパスチーユの城砦を乗取りたる時には、獄長は群衆包圍の間にありて、四方より打擲を浴びせかけられたり。時に一人あり、彼の頭を斬り落して之を馬の尾に括り付けんと提言しぬ。彼はさばさせせと悶き争ひし際、誤りて其處に居合はせたる一人を蹴りたり。是に於て或る人は其蹴られたる人をして、獄長の頸を斬らしめんと提言せしが、此暗示は忽ち群衆の喝采を以て採用する所となれり。

抑、此下手人は失業の料理人にして、其パスチーユに來合はせたる主なる理由は、如何なる事件が出來せしかを見届け呉れんとの好奇心に驅られたるに過ぎず。而も彼は城守を斬殺することが一般の意見なりしを以て、彼の行爲は愛國的な

りと思惟し、且つ此暴虐漢を亡ぼしたる功に愛で、賞牌の一つ位は當然受くべき筈と確信したりき。彼は彼に與へられたる劍を以て一絲を纏はざる城守の頭を目蒐けて打ち下せしが、刃の鈍かりし爲めにや、思ふ程には斬れざりき。是に於て彼は衣囊より黒柄の小刀を取出し、料理人のことなれば豫てより肉を切るに慣れたることゝ、物の見事に身首を切り離しぬ。

此例により吾人は明かに上に説き示したる作用の經過の跡を見ることを得べし。吾人は第一に下手人が暗示に従ひて行動したるを見る。而も此暗示は集合體より發したるを以て一層有力なりしなり。次に又下手人は己が立派なる功績を樹てたることを確信したりき。而して此確信は彼の同胞が擧つて彼の行爲を賞讃したることより考ふれば、誠に無理からぬ次第なり。此種の行爲は單に法律上より見てこそ犯罪的とはなすべけれ、心理學上よりは決して犯罪的とは見做さざるなり。

犯罪的群衆の一般的性質は、吾人が既に各種の群衆に通じて見たるそれと毫も異なる所なきなり。之を約言すれば、即ち暗示に従ひ易きこと、及び輕信性、易變性、並

に善悪兩方面に通じて感情を誇張すること、並に或る形式の道德性を示すこと等即ち是なり。

吾人は是等の特徴の存在を佛國史の上に最も不快なる記憶を貽したる群衆——即ち一七九二年の九月虐殺を敢行したる群衆の間に看取し得べし。事實上該群衆は多くの點に於て、セント・パルミットの虐殺を敢行したる群衆に類似す。史家テューは當時の記録に據りて、該事件の顛末を記せるが余輩は左に之を借用すべし。

當時獄中に繋がれし囚徒を殺戮して獄舎を空虚にすべしとは、何人が命令せしか、それとも何人が此暗示を與へたるものなるかは、今に至りて尙判明せず。その之をなせしものは、それと推測し得らるゝが如く、モンソンなりしか、若くは別人なりしかは重要なることにあらざれば、茲に之を詮索するの要なし。唯吾人に取りて興味ある事柄は、此虐殺の任務を帯びたる群衆が受けたる暗示の力の強かりしことなり。

此時の虐殺に参加したるものはその數約三百に上り、而して其性質より云へば、

申分なき代表的の複種群衆なりき。即ち此群衆を組成したりしものは、少數の専門的無賴漢を除きては、主として商估の店員や、各種の職業に従事する者、例へば製靴工、鎗匠、理髮人、石工、手代、使丁等なりしなり。彼等が一度受けたる暗示の感化の下に来るや、彼等は前掲の料理人の如く、愛國的義務を果しつゝありしものと確信しぬ。約言すれば、彼等は同時に裁判官と死刑執行者との二個の職掌を執りたりしも、彼等自身犯罪しつゝありとは夢にだも思ひ及ばざりしなり。

群衆は自ら其職務の重且つ大なることを意識するが故に、行爲の初めに當りて先づ一種の法廷の如きものを形成す。而して此際彼等の心意の公明正大と彼等の正義の觀念の幼稚なることを直ちに發露す。此假の法廷に於て被告の地位に立てるもの甚だ多きを以て、先づ第一に貴族や僧侶や役人や王族や——一言以て之を掩は、單に其地位だけにても善良なる愛國者の眼底に有罪の證據として映する總べての個人——は個々の場合を參酌して特別の判決を與ふる必要なきを以て、之を一網打盡の下に屠殺すべしと斷定す。又貴族、僧侶、役人、王族以外の者は一々其容貌、外觀、名聲を參照して、それによつて判決を與ふべしと斷定す。斯く

の如き方法によりて群衆の幼稚なる良心は満足せらる。然る上は群衆は法律的に虐殺の執行に着手することを得。同時に例の猛悪苛虐の本能性を恣に發揮す。是等の猛悪苛虐の本能性は集合體が常に彼等の間に高度に發達せしむるものなるが故に、其起源に就て余輩は嘗つて一論する所ありたりき。然れども普通群衆の間に於て見る如く、是等の本能は慈愛親切の如き他の之と全く反對なる感情を、暴虐性と同一ほど極端に發露するを妨げざるなり。

「彼等虐殺者は巴里の勞働者の如き膨脹的同情と鋭敏なる感受性とを有す。ア、ハイエ(寺院)に至るに及んで、群中の一人は獄中の囚徒が二十六時間の久しきに涉りて水の供給を受けずして放置せられしことを聞き、直ちに看守を殺さんと欲し、而して囚徒自ら切に乞ひて之を止むること微りせば、之を實行したりしならん。次いで即席の法廷に於て一囚徒が放免の宣告を受けしや、番人と屠殺者とを問はず、滿腔の喜悦を以て彼を抱擁して相慶し、熱烈に拍手しぬ。然る後大虐殺は再び開始せられたり。この慘劇の進行中、歡喜悅樂の聲は絶えず起りき。累々たる伏屍を繞りて歌舞踏踊盛に行はれ、又貴族連の屠らるゝを見て慰まんとて來り

し婦人客の爲めに、長椅子は排列せられたり。筆者は尙進んで特殊の正義の行はれし實況を録せり。

ア、ハイエに於ける虐殺者の一人が、少し離れて居並びし婦人連は善く觀望することを得ず、又其處に居合はせたる人々の内唯一部少數者のみ貴族を打擲するの榮を得たるに過ぎず」と訴へしにより、觀望を公平にするの方策は採用せられ、且つ被刑者共は屠殺者共の二列に立ち列べる間を徐々に引き廻はさるべしと決定せられ、而して死に至るまでの苦痛を永引かせんが爲めに、各屠殺者をして刀背を以て被刑者共を搏つの義務を帯ばしめたり。ド、ラ、フォルスの獄舎に至るや被刑者共は全裸體にせられて、一時間斬りさいなまれ、遂に各人が悉く之を善く見物し了りたる後、彼等は最後の一撃の下に腸を露出して縊絶えぬ。

虐殺者は又相當の思慮を働かし、且つ余輩が既に群衆中に存在する由を説示したるかの道徳觀念を發揮す。彼等は被刑者の携帶する金銭や寶玉を自ら私せずして之を幹部委員の机上に齎らせり。

群衆の推理の方式の幼稚なること及び其心意の特徴の單純なることは、之を彼

等の總ての行爲の上に看取することを得べし、斯くて千二百若しくは千五百の人々を虐殺したる後に、群衆中の一人は老乞食や浮浪の徒や少年四徒を收容せる他の若干の獄舎は尸位素餐の徒を以て満たさるゝが故に、宜しく之をも屠るべしと發言し、而して彼の暗示は直ちに採用せられたり。加之彼等は謂へり、是等の獄舎中には、實際人民の敵たるべきものも儘に存在すべし。例へば一囚人の寡婦なるデラリニー(Delany)と稱する女の如きは是なりと。且つ曰く、彼女は牢獄に投せられたることを憤れり。若し彼女が自由を得ば、巴里に放火すべし。彼女は爾か云ひたるに相異なるべし。否、彼女は儘に爾か云へり。好し之をも遣付けて仕舞へし。此説明は群衆によりて有理として受け容れられ、而して折柄監禁中の囚徒は、誰彼の差別なく悉く虐殺せられたり。其中には實に十二歳乃至十七歳の少年も五十人許り交り居りしなり。彼等以爲らく、是等の少年は勿論將來に於て國民の敵となるやも計られざれば、之を勦滅して不可なかるべしと。

一週間なし續けたる後、是等の行動は遂に終りを告げ、虐殺者は始めて息をつくに至れり。彼等は彼等の行爲が國家の爲めに演せられたるものなることを深く

確信し、當局者の許に至りて報酬を請求せり。其内最も熱心なるものは賞牌の授與をさへも要求したり。

一八七一年の巴里歴史は上掲の事實に等しき幾多の事實に富む。群衆の勢力の漸増するに連れ、將た又權力者が其前に次第に屈服するに伴ひて、吾人は同種の事實が尙今後も續出するを見るべきなり。

第三章 刑事陪審官

刑事陪審官——陪審官の一般的性質——統計の示す所に従へば陪審官の判決は其之を組成する各員の性質によるものにあらず——陪審官の心意の上に印象が與へらるる徑路方式——辯論の様式及び感化力——著名なる辯護士の説服の方法——陪審官が大目に見逃がす犯罪と、嚴酷に糾問する犯罪との性質——制度としての陪審官の効用及び執政官をして陪審官に代らしむることより生すべき危険。

各種の陪審官を一々茲に研究することは不可能なれば、余輩は唯其内の最も大切なるもの——即ち彼の陪審官附裁判所に附隨する所の陪審官に就て説述すべし。此種の陪審官は無名にあらざる群衆の好適例と見做すべきものなり。吾人は彼等が被誘性を發露し、極少の推理の能力を有するに過ぎずして、又群衆の指導者の感化を蒙り易く、且つ主として無意識の感情によりて指導せらるるものなることを發見せん。此研究の歩を進むる間に、吾人は群衆の心理に通曉せざる人々が、動もすれば陥り易き誤謬の面白い實例を観察すべし。

先づ第一に陪審官は其判決の上よりのみ見る時は、群衆を組成する様々の分子の智識の程度は、さして重要なものにあらざる事の實例を示すものと謂ふべし。一の討議の爲めに開かれたる會議が、全然専門外の問題に關して意見を闘はず際には、智識は何等の用をもなすものにあらずとは、余輩が既に前章に於て論じたる所例へば、科學者若くは美術家の會合は、單に彼等が會合を作りたりとの事實のみによりて、一般的の問題に關しては、石工や雜貨商の會合が下し得る斷案に著しく勝りたる斷案を下すことを得ざるものとす。多くの時代、殊に一八四八年以前の多くの時代に於ては、佛國の爲政者は陪審官を編成する任命を受くる人々に就ては、細心の選擇を行ひ、教育ある階級のみより採り、大學教授や、官吏や、文士等を登庸したりき。今日にありては陪審官の各員は小商人や、小資本家や、被傭者の間より登庸せらる。然れども陪審官を編成する人々の如何を問はず、其判決は常に同一徹に出づ。これ専門の記者輩の視て以て異とする所なり。陪審官の制度に反對なる執政官すら此言の正確なることを認識す。前陪審官附裁判所長ベラール・デ・グラヴォー氏(Bernard des Glajaux)は其追懷記中に此問題に就て左の如

く云へり。

「現今に於ては陪審官の各員の選擇は事實上市參事會員の掌中にあり。彼等は彼等の地位に固有なる政治上及び選舉上の考慮を基礎として、或は之を任命し、或は之を解任するなり。中略選ばれたる陪審官の大多數は商業に従事する人々、而も夫れも従前よりは大切ならざる人々、及び行政の或る部門に屬する被傭者なり。中略意見及び職業の如何は、一度裁判官の役目に當りたる上は別に重きをなさないが故に、又陪審官は新進者の熱心を以て事に當るが故に、且つ又善意を懐ける人々は卑賤の地位に在りても然らざる場合と同様の襟度を有するが故に、陪審官の精神は毫も渝る所なし。換言すれば陪審官の判決は今尙古に等しきなり。」

右に引用せし一節の結論は之を心に銘して忘るべからざるものなりと雖、其説明は理由極めて薄弱なり。而して其薄弱なるには抑亦大に故あり。何とならば辯

護士なるものは執政官と同じく、群衆の心理に暗くして、従つて陪審官の心理を解せざればなり。余輩は此言の愆らざる證據を同じ記者が筆録したる一事實に於て見ることを得たり。彼は云へり、陪審官附裁判所に於て辯護士の職を營みて非常に有名なるラシュー氏(Lauchand)は陪審官の各員が皆有識の士なりし場合には、其一員に對して抗辯する權利を常に行使したりと。然れども吾人は經驗によりて、然り唯經驗のみによりて、斯くの如き抗辯は何等の効果を奏せざるものなることを學びたり。此事は現今に於ては檢事及び辯護士、少くとも巴里の法曹界に於ける檢事及び辯護士が、其陪審官に對して抗辯し得る權利を放棄したるにも拘らず、其判決は正しく、デグラジョー氏の云ひしが如く、毫も往時と異なる所なく、善くもならず悪しくもならずし事實に徴しても明かなり。

他の總ての群衆と同じく、陪審官は感情上の考慮によりて強き印象を受くれども、議論にて動かさるゝこと極めて稀なり。一辯護士は記して曰く、彼等は一人の母が其子に自ら胸上の乳房を含ましむる様を見るにも堪へずと。デグラジョー氏は曰く、一人の女が陪審官の恩恵を贏ち得んとならば、唯美しき容貌を持てるだ

けにて可なりと。

陪審官は彼等自ら其餘害を受けざるを必ずべからざる底の犯罪——而も斯かる犯罪は社會全般に對して極めて危険性を帯ぶ——に對しては峻嚴を極めて決して寛假する所なしと雖、情慾の動機より發する法律の違反の場合を取扱ふ際には非常に寛大なる態度を示す。彼等は嬰兒を死に致したる若き未婚の母に對して、又初め己れを誘惑して後に己れを見捨てたる男に硫酸を浴びせかけたる少女に對して、苛酷なる判決を與ふること稀なり。これ蓋し彼等は社會が斯かる犯罪の爲めに危険に陥ることを極めて少く、且つ男に捨てられたる少女を保護する法律を有せざる國に於ては、少女が自ら復讐をなす犯罪行爲は將來の誘惑者を警戒するの効力を有するが故に、有害と云はんよりは寧ろ有益なることを本能的に感知すればなり(序に茲に注意し置くべきは、陪審官連が巧妙に且つ本能的になす犯罪の分類——即ち社會一般に對して危険なる犯罪と、危険ならざる犯罪とに大別する分類——は決して公正を失へりとは謂ふべからざることとなりとす。刑法の目的は云ふまでもなく、危険なる犯罪者に對して社會を保護

することに在りて、復讐を社會に加ふることに在らず。然るに佛國の法典及び佛國に佛國の執政官の頭腦は、今猶往古の原始的法律の復讐を主とする精神に深く浸染す。Vindicta——拉丁の Vindicta 即ち復讐なる語より出で、今は告發の意味に用ひらる——なる語は、今も猶日常使用せらるゝなり。執政官連が此の傾向に侵さるゝ證據は、彼等の多くが宣告を受けたる人が犯罪を再びするにあらざれば、刑の執行を免ずることを目的とせる「レンダ」(Beronger)案の法律を適用するを拒む事實に於て見るべし。然れども如何なる執政官も統計の證明する所によれば、最初に課せられたる刑罰の適用は、必ずや被罰者を導きて更に新なる犯罪を犯さしむるものなることを知らざるにあらず。判事が刑の宣告を受けたる人を放免する時は、社會は相當の復讐をなさざりしものと彼等は考ふるに似たり。彼等は社會の爲めに復讐することを欲するの極、危険なる正直正銘の犯罪を作ることを意とせざるなり。——原註。

總ての群衆の如く、陪審官も亦威嚴によりて深き印象を受く。前掲のグラジョー氏が陪審官は其編成の上より云はゞ、甚だ平民的なれども、其好惡の感情の上より

云は、甚だ貴族的なりと言へりしも亦宜なり。曰く、家名や門地や巨萬の富や有名なる辯護士の援助や、其他何にても被告を顯著ならしむる事柄、若くは被告に光彩を添へしむる事柄は、被告をして好都合の地位に立たしむる力を有すと。善き辯護士の常に心掛くべきは、陪審官の感情に感化影響を及ぼすこと、及び總ての群衆に對する如く、成るたけ議論を少くするか、若くは幼稚なる推理の方式を用ふることにありべし。陪審官附裁判所に於ける成功の爲め盛名を馳せたる英國の一辯護士は、辯護士の取るべき行動の針路を左の如く巧に開陳せり。

辯論中は辯護士は陪審官を注視することを怠らず、乘すべき好機來るや、辯護士は洞察力と經驗とによりて、陪審官連の顔色を見て、自己の一言一句が彼等の心意の上に與へたる影響を察し、以て之に應じて結論を作るべし。彼の第一着歩は陪審官中の何人が先づ既に自己の所説に傾きたるかを確むるにあり。事既に此處まで運ば、その人々をして自己に味方せしむるまでに漕ぎ付くるは造作もなきことにして、而して之をなし得たる上は、彼は更に注意を自説に服せざる陪

審官に向け、何故に彼等が自己に反對するかの原因を究めんと努む。こは彼の事業中至微至難の事に屬す。何とならば一人を罪に問ふに就ては、正義の感情以外に、種々の理由が無限に存在すべければなり。

以上の數行に於て辯論術の秘訣は遺憾なく括約せられたり。吾人は之によりて豫め用意せられたる演説が極めて少き効果を有する所以を知れり。蓋し辯士が多大の効果を收めんと欲せば、己が一言一句が聽者の上に生じたる感銘に應じて、刻々に使用する言辭を代へざるべからざればなり。

辯士は必ずしも陪審官の總員をして自説に服せしむることを要せず。唯彼等の中に於て一般の意見を決定する力を有する主要なる人々を説き伏すれば則ち足る。總ての群衆の場合に於て然る如く、陪審官中にありても若干の個人が全體に對して指導者として働くなり。上記の辯護士は曰く、余は經驗によりて陪審官中の一二の力量ある人が、他の總てを導くに充分なることを知れり。と、巧妙なる暗示によりて説伏することを必要とするは、是等二三の人々のみなり。先づ第一に、

而して何よりも殊に是等の人々の機嫌を取ること必要なり。群衆の一部を構成する個人の機嫌を取ること成功すれば、彼を説伏するの端緒を得たるものと謂ふべし。何とならば彼は直ちに自己に薦めらるゝ議論を好しとして受け容るることに傾くべければなり。余輩は前掲のラシュー氏に關する面白き記事中より左の逸話を轉載せん。

「ラシュー氏が陪審官附裁判所に於て辯論中は、常に氏が勢力を有する、然れども頑固なる人と信ずる二三の陪審官に目を放たざりしことは、世人の普く知る所なり。普通彼は斯くの如き頑固なる陪審官を説伏することに成功せり。然れども或る時地方に於て辯論の際之は又非常に頑固なる一陪審官に遭遇せり。氏は約四十五分の間極めて巧妙なる議論を以て之に當りたれども、何等の効を奏せざりき。此人は第七の陪審官にして、第二の長椅子の劈頭に座を占めたり。ラシュー氏の辯護も將に無効に歸せんとせり。忽ち氏は熱心に議論中言葉を途切りて、裁判所長に向ひ、さて言ひけるやう、誰かに前面の窓幕を引下すやう命じ給はらずや。第

七の席を占めらるゝ陪審官殿は、射し込む日光の爲めに眩ふしさうなればと、件の陪審官は顔を赤らめ、微笑しつゝ、謝詞を述べぬ。斯くて彼は同辯護士の味方に引き込まれたり。」

多くの記者——其中には最も有名なる人々も含まる——は近頃陪審官制度に對して、激烈なる反對運動を始めたり。而もよくよく考ふれば、陪審官制度は多くの不完全なる點を有すとは言ひながら、何等の支配監督を受けざる執政官仲間が屢、反覆する誤謬に對して、吾人が有する唯一の保障にてあるなり。事實上執政官連は何等の支配監督を受けずして行動する唯一の行政官なり。多くの革命を経たるに關らず、民主的の佛國は英國の誇りとする所の人身保護命令(Magistrat's order)の權利を有せざるなり。吾人は總ての虐君を追放せり。然れども吾人は、随意に市民の名譽及び自由に干涉することを得る執政官なるものを各市に置けり。大學を卒業したる許りの青二才の檢察執政官(juge d'instruction)は、最も高き地位にある人々をも随意に檢擧して獄に送くる不都合なる大權力を有し、而も何人に向

つても自己の行爲の正當なることを辯明するの義務を有せず。彼は検査の進行中との口實の下に、是等獄に送られたる人々を、六ヶ月間にも甚しきは一ヶ年間にも留置することを得。而して最後に一錢の賠償をもなさず、一言の謝罪をもなさずして、斯かる人を放免することを得。佛國に於ける逮捕狀が、かの佛國が君主制時代に使用せし爲めに正當の批難を受けたる *lettre de cachet* と異なる點とは、唯後者は高位高官の人々のみを使用することを得たりしに反し、前者即ち逮捕狀は、智識の程度高く且つ獨立の判断力を有するとは到底受取り難き市民の一階級全體の掌中にある武器なりと云ふ點に在つて存するのみ。——原註）又右の記事の一部の人士は陪審官を單に教育ある階級の人々のみより拔擢登庸すべしと主張す。然れども此場合に於ても彼等が下す判決は、現在の制度の下に於ける陪審官が發する判決と異なる所あるまじきは、余輩が既に證明したる所に徴して明かなり。他の一派の記者は、陪審官が陥りたる誤謬を楯に取りて、陪審官を全廢し、判事をして之に代はらしむべしと論せり。而も所謂陪審官が陥る誤謬は、是より先既に判事が陥りたる誤謬にてあるなり。又被告が陪審官の前に引き

出さるゝまでには、彼等は既に多くの執政官や檢察執政官や検事や起訴裁判所等によりてその都度有罪と確認せられたるものなり。例の似而非改革者達は何が故に是等の事實を忘れたるにや。これ余輩が怪訝に堪へざる所なり。そは兎も角、上述の如き次第なれば、被告が陪審官の代りに執政官によりて確定判決を與へらるゝものとせば、彼は無罪の宣告を受くべき唯一の頼みの綱を失ふ譯となるは亦言ふを俟たず。要するに陪審官が陥りたる誤謬は、常に先づ執政官が陥りたる誤謬なり。果して然らば甚しき裁判上の誤謬が持ち上りたる時は、批難すべきものは唯執政官なりとす。例へば近頃 L 博士に對してなされたる問罪の如きは其好適例なり。此場合に於ては、非常に愚昧なる檢察執政官は、半ば白痴の一少女が同博士は三十法を代償として不法行爲を彼女の上に加へたりと證言したるを楯に取りて、同博士を告訴したりき。此時若し公衆が非常に激昂したる結果、直ちに國家の首長が命を下して博士を解放せざりしならんには、博士は罪なくして獄窓に呻吟する身となりしならん。日頃博士を知れる同市民等が、博士の品性の尊崇すべきことを主張したるにより、其問罪の謬妄なることは明瞭となり

ぬ。執政官共も之を承認せしが、仲間の體面の立場より百方手段を盡して博士を
 放免するを妨げんとせり。この事件のみならず、總ての類似の場合に於ては陪審
 官は自ら了解すること能はざる専門上の事項に遭遇するを以て、該事件は既に
 最も紛糾錯雜なる問題を解決する爲めに訓練せられたる執政官の審理を経た
 るものなりなど、稱して、自然的に檢事の言ふ所に聽くなり。果して然りとせば
 謬妄なる判決の張本人は誰ぞや。陪審官か、それとも執政官か。そは問はずして明
 かなり。吾人は斷乎として陪審官の存置論に加擔す。惟ふに陪審官は如何なる個
 人をして之に代はらしむるべからざる唯一の群衆の種類なり。法律は一なり、
 萬人に對して同一なり。而して其主義の上よりして個々の場合に着目斟酌すべ
 きものにあらず。然るに法律の峻嚴を緩和し得るものは唯陪審官あるのみ。判事
 は憐愍を知らず、又法律の條文以外のものに注意せざるを以て、殺人罪を犯した
 る盜賊と、貧に苦み且つ情郎に見捨てられたるが爲め、止むを得ず嬰兒を殺害し
 たる不幸なる少女とを同罪に問はん。之に反して陪審官は本能的に誘惑せられ
 たる少女は、法律上如何の制裁を受けざる所の誘惑したる男よりも罪の輕さこ

とを感知し、其少女の爲めには飽くまで情狀を酌量してやるべきを知るなり。
 余輩は仲間の心理狀態及び其他の種類の種類群衆の心理を熟知するが故に、如何な
 る場合にても、苟くも身に覺えなき犯罪に問はるゝことあらば、執政官の裁斷を
 受くるよりは、乞ふ寧ろ陪審官の審理を仰がん。これ蓋し陪審官に就かば萬一無
 罪と認められもやせんとの細き望みの綱に繋がるれども、執政官に就かば斯か
 る望みは絶對的にあるまじければなり。群衆の勢力は恐るべし、而も或る種の仲
 間の勢力は更に恐るべし。群衆は確信によりて動かさるゝことあり、而も仲間
 に至りては絶對的にさることなし。

第四章 選舉上の群衆

選舉上の群衆の一般的性質——選舉上の群衆を説服する方法——選舉候補者の具有すべき資格性質——威嚴の必要——労働者や農夫が己が階級より候補者を選出せざる理由——言辭及び成句が選舉人の上に及ぼす感化影響——選舉演説の概観——選舉人の意見に如何にして構成せらるゝか——政治上の幹部委員の勢力——彼等は最も優勢なる形式の壓制を代表す——佛國革命の幹部委員——普通選舉は其心理學的價值乏しきに拘らず之を廢止すべからず——選舉權が國民の或る一局部の階級に限らるゝ場合も其投票の結果が普通選舉の場合と異らざる理由——普通選舉は各國に於て如何なるものゝ表現なるか。

何をか選舉上の群衆と云ふ。曰く、そは或る職權の保有者を選舉する力を賦與せられたる集合體を謂ふ。此種の群衆は所謂複種群衆を構成す。されど彼等の行爲は明瞭に限定せられたる單一の事柄——即ち様々の候補者中より然るべき人を推舉する事柄——に局限せらるゝが故に、彼等は上章に叙説したる特徴の中の若干のものゝみを示現するに止まる。即ち群衆固有の特徴中、彼等は推理力の

缺乏、批評的精神の皆無、及び憤激性、輕信性、單純性のみを發揮す。且つや彼等の斷定中に於ては、群衆の指導者の勢力、及び余輩が前既に列舉したる諸要素、即ち斷言、反覆、威嚴、及び傳染等が務むる役目の如何なるものなるかを見るを得べし。余輩は選舉上の群衆を説服するには如何なる方法が用ひらるゝかを吟味せんと欲す。蓋し選舉上の群衆を説服するに就て最も成功したる方法を知る時は、彼等の心理は容易に之より歸納することを得べければなり。候補者の資格として最も大切なるは威嚴を具備することなり。個人的(先天的)威嚴に代はり得るものは、唯富より生ずる威嚴のみ。才幹も、否天才すらも、候補者の成功の爲めには決して重要な要素と言ふことを得ず。之に反して先づ何よりも重要なものは候補者が威嚴を具備して以て選舉人に臨み、之をして議論の迫なくして自己を推戴せしむる力を有する必要なり。かの大部分労働者若くは農夫によりて構成せらるゝ選舉區民が、彼等自身の儕輩の間より其代表者を選出すること極めて稀なる所以は、これ全く平常彼等と交遊往來する人は、彼等の間に威嚴を有することなきを以てなり。若し夫れ彼等が何か

の拍子によりて其同輩を選擧するが如きことあらば、それは間接の理由——例へば名聲隆々たる人士を傷はんが爲めとか、或は選舉人が日頃隸屬して其命に聽く備主に對して、選舉の時のみは却つて自ら其主人となりたるかの如き迷想を懐く結果、平素の報復として一番之を屈せしめんと欲するが爲めとかの如き、間接の理由に起因するなり。

然りと雖、威嚴を具備する一事のみにては、未だ以て候補者の成功を確保するに足らず。選舉人は殊に其貪慾と虚榮心との満足によりて向ふ所を定むるものなり。されば候補者たるものが之を籠絡せんとならば、盛に甘言を用ひて之に媚び、又最も方圖もなき約束をなすことを躊躇すべからず。

若し選舉人が勞働者なる場合には、百方口を極めて其備主を嘲罵し、侮辱し、誹毀するも、尙足らずとも過ぐることはあらじ。又自己の反對の側に立つ候補者に對しては、それが非常なる無頼破廉耻漢にして、屢、犯罪を犯したることは、世人の一般に知る所なることを指摘し、斷言と、反覆と、傳染との手段によりて、之を選舉人の肺腑に徹底せしめざるべからず。勿論之が實證などに頓着するは全く無用のこ

となり。此場合に若し反對の候補者が、群衆の心理に通曉せざる人ならんには、彼は一の斷言に酬ふるに他の斷言を以てすることをばなさずして、徒らに辯論によりて自己の冤を雪がんとするなるべし。斯くの如く初心なる候補者は、成功の見込萬々なきことは請合なり。

候補者の方針計畫書の文句は、餘りに要領を得たるものなるべからず。何とならば反對者は後々も之を掲げ來りて、攻撃の材料となすべければなり。之に反して口頭を以てする方針計畫の宣言は、如何に誇大的の言辭を用ふるとも決して過ぐるることなし。如何ほど重大なる改革と雖、恐れずにドシ／＼と約束して可なり。是等の誇大的言辭は其約束をなしたる當座は非常に大なる効果を生じ、而して將來に對しては何等の煩累を及ぼさざるものとす。蓋し選舉人は自ら推擧したる候補者が、當初選舉人に示して其賛成を得、其爲めに選舉に成功したる方針計畫を幾何の程度まで實行したるかを検査するが如き面倒を見るものにあらざることは、吾人が日常觀察する所なり。

以上の説明中に於て、余輩が前に記したる勸奨説服の諸要素は、悉く之を認むる

ことを得べし。吾人は之を言辭及び成句によりて生せらるゝ作用の間にも再び之を見ん。言辭や成句の魔力に就ては余輩は前章に於て之を説示せり。是等の勸奨説服の道具を巧妙に用ふる術を解する辯士論客は、意の趨く所に従つて群衆を操縦することを得、汚穢なる資本とか、労働者の血を啜る破廉耻なる事業家とか、賞讃すべき神聖なる労働者とかの如き詞句は、從來可なり用ひ古るしたるものなれども、皆共に常に著しき効果を生ず。然れども出来得るだけ漠然たる意味を有する新なる成句——従つて多種多様の願望に相應する成句を案出したる候補者は必ず成功す。かの慘風血雨に印せられたる一八七三年の西班牙の革命は、亦重複の意味を有して各人が自分勝手の解釋を施すことを得たる成句の爲めに誘起せられたりき。當時の一記者が此成句の發せられたる模様を記述せるもの、頗る肯綮に中れり。今之を左に引用せん。

「急進黨の連中は、中央集權の共和制は假裝したる君主制に過ぎざることを發見し、而して國會は彼等の意向に投合する爲めに、全會一致を以て聯邦共和制案を

通過し直ちに其實施を公布せり。元より之に賛成したる人々も、其賛成したる聯邦共和制の何たるかを説明し得る者は一人もあらざりしなり。然れども此成句は各人の氣に入り、皆醉へるが如く夢見るが如き喜びを感じ、道徳と幸福との支配は今や世に臨めりと思惟したり。されば共和黨員等は反對者より聯邦共和黨員にあらすと呼ばれたる時は、侮辱を受けたるものとして憤激せり。人々は街上に相會へば則ち、聯邦共和國萬歳の語を以て交驩し、而して後に軍隊に規律なきことや、兵士が自儘に行動することを非常なる美點として謳歌し、之は又見當違ひの賞讃を恣にせり。彼等は如何なる意味に聯邦共和制を解せしや。或る者は地方諸州の解放を實行し、合衆國の如き制度及び行政上の地方分權制を扨むるものと解釋せり。又或る者は總ての權力を破棄し、大々的に社會組織の解、舒を始むるものと解釋せり。バルセロナ及びアンダルシアの社會主義者は、各地方團體を其自身の絶對的主權を主唱し、西班牙國內に一萬の獨立都市を設け、之をして各自の責任を以て立法行爲を行はしめ、且つ之を開設すると同時に、警察及び軍隊を廢止すべしと提言せり。間もなく南方諸州に於て反亂起り、其勢熾忽ち町よ

り町に村より村に廣がり行けり。或る一村は直ちに宣言すらく、該村民は其隣接の諸地方と、首都マドリッドとの間の總ての交通を絶つ爲めに、電線及び鐵道を破壊する事を急務とすべしと。最も困憊せる小邑までも、飽くまで一本立ちにて押し通さんとの決心をなせり。斯くて聯邦主義は遂に化して地方分立主義となり、之に伴ひて虐殺、放火、及び其他各種の殘虐横暴盛に行はれ、而して全國を通じて慘憺凄愴たる血祭を見るに至れり。

推理を以て選舉人の心意の上に感化影響を與ふることの不可能なることは復た多言を須ひず。苟くも此事に關して一點の疑惑を懐くものあらば、そは選舉上の集會の顛末報告を讀まざるの罪に歸す。斯くの如き會合に於ては、斷言や、惡罵や、否、時としては毆打さへ交換せらるれども、未だ嘗つて議論の交換せられたる事なきなり。若し霎時にても喧擾の止むことありとせば、そはさる名だたる彌次の隊長あたりが飛び出して、聽衆の常に聞くを喜ぶ難問を提出し、一番候補者を虐弄めてやらんと宣言したるが爲めなり。されど反對黨の満足も暫しの夢――

忽ち蛙鳴蟬噪四隅より起り、質問者を妨げ、發言を繼續する能はざらしむるなり。公會の模様之報告中に、其實例は如何程もあれど左に採録するもの、如きは日刊新聞中より撰び出したるものにして、最も代表的のものを見做すべきものなり。

「此集會の發起者の一人は、會衆に向ひて一人の會長を選ばんことを乞ひしに、喧擾は忽ち勃發しぬ。無政府主義者共は演壇に躍り上りて、幹部委員の卓子に肉薄せり。社會主義者連は強硬なる防禦を試みたり。亂打叫喚の修羅場は忽ち現出せられたり。各黨派は相手の黨派を政府の爲めに使噓せらるゝ、犬なりと罵倒せり。(中略)一人の市民は片目に傷を負ひて場を出でたり。

「幹部委員は喧騒の最中に漸く就任し、發言權は黨員X氏に與へられぬ。

「該辯士は社會主義者に對し、猛烈なる反對を始めたり。社會主義者は之に對して「馬鹿、惡漢、破落戸等の叫びを連發して演説を妨害せり。而もX氏は之が爲めに氣勢を挫かるゝことなく、社會主義者こそ馬鹿者にして且つ戲言者なることを論

證したり。

「アレマン黨は来る五月一日に於て舉行せらるべき筈の勞働者大懇親會の前驅として、昨夜フォーブール・デュ・タンアル街なる商業議事堂に於て大集會を催せり。此會の警語は「平靜怡樂」と云ふにありき。

「黨員G氏は社會主義者を「愚者」とか「欺騙者」とか呼べり。

「斯かる語の發せらるゝや、惡罵の聲交り起り、辯士と聽衆とは入り亂れて相毆打し、椅子と卓子と長椅子とは武器として用ひられたり」云々。

讀者諸君は造次頓沛の間も、此種の議論の遣り方は選舉人なる一階級に特有のものにして、彼等の社會上の地位に附隨せるものとは想像し給ふべからず。如何なる種類の集會にまれ、苟くもそが無名の會合なる以上は、専ら教育ある人士のみによりて組成せられたるものなる場合と雖、議論と云ふ段取に立ち至らば常に同様の状態を呈するなり。余輩が既に説示せしが如く、人々が一旦群衆を形成するや、彼等の心的状態は直ちに均一せられ、孰れも皆同一の理智の程度の上に

在るものにして、此實例は何に附けても見ることを得べし。次に轉載する一條は、専ら學生のみによりて組成せられたる集會の報告中より取りたるものにして、一八九五年二月十三日發行、レ・マン新聞紙上より借用せるものなるが、亦以て之が適例と見做すに足れり。

「騷擾は夜の更くるに従ひて益々熾んになれり。余は信ず、唯一人の辯士だも妨害を受くる事なくして二個の文句を發言し得しものはあざりしと。時々刻々此隔より、若くは彼の隅より、若くは四方の隅より、一度に呼聲は起りぬ。拍手は叱制の聲と相交はり、聽衆の面々は銘々勝手に激烈なる議論をなし始め、洋杖は威嚇的に振廻はされ、或る者は靴先にて床板を踏み鳴らし、而して妨害者共は或は、抛り出してしまへ」とか、或は、彼をして語らしめよ」とかの叫聲を以て迎へられたり。

「O氏は彼が之を破壊し了はるべしと宣言したる協會に對して、忌しき」とか、臆病なるとか、奇怪なるとか、醜惡なるとか、賣節的なる」とか、怨恨的なる」とかの形容語を浴びせかけたり。」云々。

人或は問はん、斯くの如き状態の下に於て、選舉人共は如何にして意見を形づくることを得るか。斯くの如き疑問を發するは、畢竟集合體が享受し得る自由の量に關して、不可思議なる迷想を懷くに等し。爰に研究しつゝあるが如き場合に於ては、選舉人の意見と投票とは選舉上の幹部委員の考によりて自由に左右することを得、而して此幹部委員を支配する力を有するものは誰なるかと問はば、それは普通酒亭の主人共——勞働者連に掛賣を許すを以て彼等の上に大なる勢力を有する酒亭の主人共なりと答へざるべからず。現代民主主義の一驍將シユレ
ー氏 (Solter) は記して曰く、諸君は選舉上の幹部委員の何たるかを知れりや。それは正真正銘に吾人の制度の大礎石にして抑、亦政治機關中の傑作なり。現今佛國は實に選舉上の幹部委員によりて支配せらるゝと、幹部委員は或は俱樂部とか、或は理事會とか、其他如何なる名稱を帶ぶる場合にしても、群衆の勢力より生ずる所の恐らくは最も恐るべき危険を構成す。彼等は實際總ての壓制の形成中の最も非個人的なる從つて最も抑壓的なるものを代表す。幹部委員を指揮する指導者

は、集合體の名に於て言論し行動するものと假定せらるゝが故に、彼等は總ての責任より免れて、自由に己がなさんと欲する所をなし得るなり。最も野蠻なる虐君と雖、佛國革命の幹部委員が布告したるが如き命令制裁に夢にだも思ひ及びたることなかりき。バルラ (Barthe) は宣言して曰く、彼等委員は其欲する所に從つて、國民公會の議員を捉へ來り、其多數を剿滅せり」と。ロベスピールは彼の盛時に當りては絶大の権力を振ひしが、此驚くべき支配者も、一度個人的高慢心よりして幹部委員より分離するや、勢威忽ち地に墜ちぬ。群衆の支配は即ち幹部委員、換言すれば群衆の指導者の支配なり。これ以上に激烈なる專制主義は想像し得らるゝ所にあらず。——原註。

選舉上の幹部委員に勢力を及ぼすは、金錢上の資源だにあらば、さして難事にあらず。プーランツェー將軍の連續的當選を保證する爲めには三百萬法にて充分なりしとは、金錢寄贈者の語る所に徴して知らる。

斯くの如きものこれ實に選舉上の群衆の心理にして、こは他の種類の群衆の心理と表裏相一致吻合す。

右の如き次第なれば、余輩は前述する所によりて、普通選挙制度に對し何等の結論をなすことを敢てせず。余輩にして若し該制度の運命を決すべき任務を有せんか、余輩は事實上群衆心理の研究より推論し得らるゝ實際上の理由により、寧ろ此制度を保存せんと欲す。乞ふ之が爲めに聊か左に辯ずる所あらん。

疑もなく普通選挙制度の弱點は、非常に明瞭なるが故に、之を看過し得べくもあらず。げに國家社會は三角塔の如きものにして、頂上には少數の優越なる智者を戴き、基底に近づくに従つて益々大多數の理智の程度の劣等なる人々を包有す。而して文明なるものは、大多數の民衆によりて作らるゝものにあらずして、少數の優越なる智者によりて作らるゝものなることは復た疑を容れず。されば文明の偉大なる所以は、儘に唯多數を誇る劣等なる分子によりて與へらるゝ投票に因るものにあらず。加之疑もなく群衆がなす投票は屢々甚だ危険なる性質を帶ぶ。佛國は多數者の投票の爲めに、度々の外國の侵略に遭遇しぬ。又彼等が誘ひ入れつつある社會主義が勝利の聲を揚ぐる所を見れば、恐らく佛蘭西は民衆主權の幻想の爲めに、更に高價なる犠牲を拂ふの日あらん。

然りと雖是等の普通選挙制に反對する言説は、理論上有力なるにせよ、事實上價値なきものとす。そは化成して獨斷説となれる觀念思想が抗拒すべからざる大勢力を有することを思は、輒く認むることを得べし。群衆主權の獨斷説は哲學上の見地よりすれば辯護の餘地なきことは、中古時代の諸の宗教上の獨斷説に異らざれど、事實上そが現今絶對的の權力を有することは、宗教上の獨斷説が往時に於て絶對的の權力を有せしと軌を一にす。されば此群衆主權の獨斷説は往時に於ける歐洲の宗教思想の如く、牢乎として拔くべからざる地歩を占むるなり。試に現代の自由思想家が奇蹟によりて中世紀時代に立ち戻らされたりと假定せよ。この場合に彼は當時世に行はれし宗教思想の主權的勢力を確知したる上に於て、之に駁撃を試むるが如きことをなし得べしとするか。若し彼にして此舉に出でんか、裁判官は忽ち彼を捉へ、惡魔と契約を結べりとか、巫術者の安息日の儀式に列せりとかの罪名の下に、火刑柱に引き立て行かん。此時に當りても尙彼は惡魔や巫術者の安息日の實在を疑ふが如き言論をなし得べしとなすか。群衆の信條に議論を以て對するは、天を捲きて來る旋風に議論を以て對すると同

とく其愚や及ぶべからず。方今普通選舉制の獨斷説は、基督教の獨斷説が往時に於て有せしが如き大勢力を有す。論客や文士は此新興の獨斷説に對して、ルイ十四世が受けし以上の尊敬と諂諛とを表す。この故に吾人は恰も宗教上の獨斷説に對するが如き態度を以て之に對せざるべからず。若し之に作用を及ぼし得るものは何ぞと問はゞ、唯夫れ時のみと答へざるべからず。

加之此獨斷説は外觀上人をして如何にも有理なりと思はしむる節あるを以て、之を打破せんと試むるが如きは畢竟無用の業のみ。トクヴィル氏の論ずる所其要を得たり。曰く、平等の行はるゝ時代に於ては、人々は總て皆相類似するを以て相互間に尊敬信用を拂ふことなし。然りと雖人々皆爾かく相類似するを以て、公衆の判斷に對しては殆ど無限の信用を置くものとす。其故如何とならば總ての人人は、皆同じ程の教化啓發を受けたるものなるを以て、眞理と大多數人の考とは相雁行せずなど、云ふことあるまじく見ゆればなりと。

制限選舉制——若し選舉權を智識上の有力者にのみに制限することが望ましき時は、爾かすることを命ずる選舉制——の實施と共に、果して克く群衆の選舉

に改良を施す事を得べきか。余輩は決して然りと答ふる能はず。何を以てか之を云ふ。曰く、總ての集合體は其組成分子たる人々が如何なる種類のものたるを問はず、智識の標準に於ては到底劣等なるを免れざるは、余輩が既に説明したる通なればなり。一旦群衆の中に投せらるゝ時は、總ての人々は常に同一の智識の標準に歸するものにして、而して専門以外の一般の問題に關しては、四十人の學士會員がなしたる投票と、四十人の撤水夫がなしたる投票とは、結果に於て異なる所なし。世人或はナポレオン三世の下に帝政を復活したるが如き事實を捉へ來りて、普通選舉制を批難する者あれども、余輩の信ずる所を以てすれば、當時に於て縦しや投票者が専ら博學洽識の人士の中のみより出でたりとするも、所詮同一の結果に終はりたらんのみ。一個人が希臘語を解し得るとか、數學に通ずるとか、建築者なりとか、獸醫なりとか、辯護士なりとかの事實は、決して彼が社會上の問題に對して特殊の智識を賦與せられたるの標識たらざるなり。我國の經濟學者は高等教育を受けたる人々なり。然り、彼等は概ね皆大學教授にあらざれば則ち學士會員なり。然るにも拘らず、保護主義とか通貨複本位主義とかの如き個々の

一般の問題は、孰れも今尙未解決の状態にあるにあらずや。蓋し彼等の取扱ふ經濟學は吾人の普遍的無識の一形式のみ、唯其程度が著大ならざるが故に爾か見えざるのみなり。一體に社會上の問題に關しては、次ぎ次ぎに起り未知數饒多なるを以て、總ての人々は事實上同じほど無識なるを免れず。

右述べし如き次第なるを以て、縦しや選舉人が専ら諸種の科學を詰め込まれたる人々のみによりて成立する場合と雖、投票の結果は現今の制度の下に於て現出する投票の結果とは差して異なるまじきなり。彼等と雖亦主として彼等の感情及び黨派的精神によりて指導せらるべし。而して吾人は依然現今戦ひつゝある總ての困難に遭遇すべく、而して又或る仲間の横暴なる壓制の下に苦むるべし。

群衆の選舉權が制限せらるゝ場合も、無制限なる場合も、又はそれが共和制の下に於て行使せらるゝ場合も、君主制の下に於て行使せらるゝ場合も、又佛國に於て、若くは白耳義に於て、若くは希臘に於て、若くは葡萄牙に於て、若くは西班牙に於て行使せらるゝ場合に於ても、其理路は常に同一なり。詮ずる所選舉は民族の無

意識の氣魄及び要求の表現なり。各國に於て選舉せられたる人々の普通の意見は民族の精神を代表す。而して斯かる意見は時代々々によりて著しく變化するものにあらず。

論じて茲に至るや、吾人は以前に屢、際會したりし二個の觀念に再び逢着せり。所謂二個の觀念とは何ぞや。曰く、第一は民族の根本觀念にして、第二は第一の觀念の結果として生ずるそれ——即ち制度及び政體は國民生活の上より見れば極めて輕き役目を務むるものなりと言ふ觀念——即ち是なり。國民は一般に其民族精神即ち祖先より繼承したる諸の性質の眞髓によりて支配せらる。民族精神及び吾人が吾人の日常の必要に服従することは、吾人の運命の歸趨を決定する不可思議なる最大原因なり。

第五章 合議的集會

合議上の群衆は無名にあらざる複種群衆に共通なる特徴の大部分を現す——彼等の意見の單純なること——彼等の被誘性及び其極限——彼等の打破すべからざる確定的意見と彼等の變更せらるゝ意見——優柔不斷の主として行はるゝ理由——指導者の役目——指導者の威嚴の根源——指導者は集會の眞個の主人公なり、故に集會の投票は單に極めて少數者の投票に過ぎず——指導者が行使する絶對的權利——彼等の辯論術の要素——成句及び假相——指導者の一般的に頑固なる確信と偏狹なる心とを有せざるべからざる心理的必要——説話者が威嚴を有せざる時人をして自己の議論を識認せしむるは不可能なり——集會が感情の善惡を問はず之を誇張すること——或る點に於ては集會は自動的に行動す——國民公會の會議——集會が群衆の特徴を喪失する場合——専門上の問題が起り來る時の専門家の勢力——各國に於て合議制度の利益及び危險——合議制度は近代の要求に適合す然れども會計上の浪費及び總ての自由の累進的縮小とを伴ふ——結論。

合議的集會議會は無名にあらざる複種群衆の一典型なり。素より其議員の選舉法は時代により異り、國によりて異ると雖、皆甚だ相似寄りたる特徴を示す。此場

合に於て民族の影響は群衆に共通なる特徴を或は弱め或は強むる力を有すれども、全然其表現を妨ぐる力を有せざるものなりとす。甚しく相異なる國々、例へば希臘や伊太利や葡萄牙や西班牙や佛蘭西や亞米利加の合議的集會は討論及び投票に於て著しく相似の點を有す。されば以上の何れの政府も皆同一の難問題に對立せざるべからざる仕誼となれり。

加之合議制度は總ての近代文明國民の理想を代表す。此制度は心理學上の見地よりする時は誤謬なるも、而も尙世人一般に認容せらるゝ一の近代的思想——即ち多數人の集合は少數人の集合よりも或る特定の問題に關し適宜且つ獨立の判斷をなすに就て一層多くの能力を有すと云ふ思想の表現なり。

群衆の一般的性質は合議的集會に於て明瞭に看取することを得べし。所謂群衆の一般的性質とは、既に述べたるが如く、理智の單純なること、及び憤激性、被誘性、感情の誇張性、並に少數の指導者の勢力に屈從する事を云ふ。是等の特徴は合議的集會に於ても見ることを得べし。然りと雖合議上の群衆は又特別の組織より成るを以て、若干の著しく他と異なる特徴を示す。之に就ては余輩は後に少しく

説く所あるべし。

意見の單純なることは合議上の群衆の最も重要な特徴の一なり。總ての黨派の場合に於て、殊に拉丁系の國民に關する場合に於て、群衆中に常に此傾向の存するを見る。彼等が最も複雑なる社會問題を解決せんとするに當りて、極めて單純なる抽象主義及び總ての場合に當て符まる一般的原则を昇ぎ出すこと、以て其徵證となすべし。元より其主義なるものは黨派によりて異れども、然れども個々の人員が、單に群衆の一部を構成すと云ふ一事實によりて、彼等は動もすれば彼等の主義の價值を誇張し、漫に之を標榜して、之をして重大なる結果を生せしむるに至る。此理由により合議體は何よりも殊に極端なる意見の代表者なり。合議體に特有なる意見の率直なる單純化の最好適例は、佛國革命時代のジャコピン黨によりて示されたり。該黨の黨員は誰彼を問はず、悉く獨斷的、且つ論理的となり、而して彼等の頭腦は茫漠たる概括的意見に満たされたりければ、彼等は事件の性質如何に頓着せずして、事毎に劃一的主義を適用したり。世人或は彼等ジャコピン黨員は、佛國革命を見ずしてその中を潜ぐり抜けたりと稱するも、尙に理

ありと謂ふべし。彼等は彼等の羅針盤とも云ふべかりし極めて單純なる獨斷説を眞向に振り翳し、その助けによりて社會を根本的に改造し、且つ高度に醇化せる文明をして社會進化の初期の狀態に立ち歸らしむることを得べしと想像したりき。従つて彼等が彼等の夢を實現せんが爲めに取りし手段方法も、亦率直單純極まるものなりしなり。彼等は事實上彼等の行動を、彼等の進路を遮るものを片端より打ち壊はすことに限りたり。彼等の總員並にワロンド黨員、山嶽黨員、アルミドル黨員等は皆等しく此精神によりて鼓舞せられたり。

合議上の群衆は甚だ暗示に誘はれ易し。而して各種の群衆の場合に於けるが如く、其暗示は威嚴を具備する指導者より來るなり。然れども合議上の群衆の被誘性は、劃然たる極限を有す。而して之を指示するは大切なる事なり。

地方的の利益を包含する總ての問題に關しては、合議體の各議員は如何なる議論を以てしても到底動かすべからざる確定的不變的の意見を有す。デモッセニエの如き宏辯博辭の大才も、勢力ある選舉人等の利害の繫がれる諸問題——例へば保護とか、或はアルコール醸造とかの如き問題に關しては、一國會議員の投

票をも變じ得る力を有せざるなり。選舉人共より發して議員が投票の時までに感受したる暗示は、之をして効力を失はしめんが爲めに他の泉源より出で來りたる暗示に打ち勝ち、意見の絶對的確定状態を維持し得る力を有す。下に引用する英國の一國會議員の所説は、豫め選舉前より確定して、選舉運動上の必要の爲めに變動すべからざるものとなりたる意見を説明せるものと見做すべし。曰く、余輩が代議士として立ちし五十年間にありて、余輩は幾千の演説を聴きたりき。而も夫等の演説中余輩の意見を變更したるものは極めて稀にして、若し夫れ余輩の投票を變更し得たりしものに至りては、一もなかりき。——原註。

内閣の顛覆とか租税の賦課とかなどの一般的問題に關しては、何等の豫め確定せる意見の存することなく、而して指導者が與ふる暗示は、縦しや普通の群衆の場合に於ける如く偉大なる影響を及ぼすこと能はざるにせよ、尙幾分の影響を及ぼすことを得るなり。各黨派は時としては殆ど對等の勢力を有する數人の指導者を有す。其結果として代議士は二個の相反對せる暗示の間に挟まれて、爲めに採決に躊躇す。此理由により代議士が十五分も經つか經たぬ間に、反對の規定

に投票するか、若くは其規定の効力を消滅せしむる條項を一の法律に附加する提案に賛成投票するが如き現象が屢起り來る。例へば勞働者の傭主の手より其配下の職工を選擇若くは解僱する權利を剝奪しながら、幾くもなくして修正によりて此方策の効力を殆ど全然打ち消すが如きこと是なり。

以上述べたる理由により、各會期の議會は若干の甚だ確定的なる意見に加へて他の甚だ變動し易き意見を有す。而も全體の上より云はば、一般的問題の數甚だ多きを以て、優柔不斷が主として議會内に行はる。此優柔不斷は始終選舉人に對して懐ける恐怖の念より生ずるものとす。これ蓋し選舉人より受けたる暗示は、常に代議士の腦裏に潜在して、指導者の勢力に對抗すればなり。

然りと雖合議體の議員が豫め強固なる定見を抱懷せざる題目に關して、確に其討論議決の主人公となるものは指導者に外ならざるなり。

而して指導者は各部の首長の名目の下に、各國の合議體中に存在するを見れば、其必要なるや明けし、彼等は寔に合議體の事實上の支配者なり。群衆を構成する人々は、主人公を戴かずしては行動することを得ず。これ合議體の議決は、普通極

少數者の意見を代表するに過ぎずと謂ふ所以なり。

指導者輩の勢力は、彼等が用ふる議論に基因すること極めて少くして、大部分彼等の威嚴に基因す。これかの指導者が何等かの事情によりて其威嚴を失ふ時は、其勢力をも併せ失ふの事實に徴證して知るべきなり。

政治上の指導者の威嚴は個人的にして、名望或は聲譽に従屬せるものにあらず。此事に關しジュール・シモン氏(Jules Simon)は、氏自らその一議員たりし一八四八年の議會内の重要人物に就てなせる評語中に於て、數個の奇異なる實例を興へたり。今之を左に轉載せん。

「ルイ・ナポレオンは其隆々たる勢威を得るに至りしより二ヶ月前までは、毫も重きをなさざりし人なりき。」

「グイクトル・ユイゴは議會の演壇に上りしが、竟に成功を收むること能はざりき。人はフェリックス・ピアット(Felix Pyat)に傾聽せし如く彼に傾聽せしが、彼は竟に後者と同様の拍手を贏ち得ること能はざりき。ヴァラメル(Vautalalle)はフェリックス・ピアット

トに關して余に語りて曰く、余は彼の思想を好まず、されど彼は佛國に於ける最大の記者兼最大の辯士の一人なり」と。エドガル・キネー(Eugène Quinet)は拔群且つ有力の理智を具備たるしにも拘らず、何等の尊敬を受けざりき。彼は議會開會前は暫時人氣を得しが、議會の開會中に於ては毫も聲望を收むること能はざりしなり。

「天才の光は何處に於けるよりも、政治上の集會に於て最も甚しく其輝きを失ふものとす。政治上の集會なるものは、唯其時其場所に相應しき雄辯及び黨の爲めに竭せる勤務にのみ注意を拂ひて、國家の爲めに竭せる勤務に注意を拂ふことなし。一八四八年にラマルティヌ(Lamartine)が、又一八七一年にチエール(Thiers)が、尊敬を受くるに至りしも、危急存亡一刻の遲疑を許さざりし利害問題の存在するを必要としたりき。危難の過ぎ去るや、政界は忽然として其感謝と其恐慌とを忘れ去りて、復た知らざるもの、如くなりき。」

余輩が右の文句を引用したるは、そが包含する事實の爲めにして、そが與ふる説

明の爲めならず、何とならばそれが包容する心理學は稍、愚劣の譏を免れざればなり。群衆の指導者が黨の爲めに勤務を竭したるにもせよ、將た又國家の爲めに勤務を竭したるにもせよ、苟くも群衆が其指導者の竭したる勤務を評價し、之が爲めに其指導者を尊重するに至らば、其群衆は最早群衆たる性質を失ひたるものと謂ふべし。指導者に服従する群衆は、其指導者の威嚴に支配せらるゝものにして、彼等の從屬の精神は利害とか感謝とかの感情によりて指揮せらるゝものにあらず。

此故に充分なる威嚴を具備する指導者は、殆ど絶對的の權力を行使することを得。一個の有名なる代議士(クレマンソー氏 (Clemenceau))を指す。——譯者註が其天品の威嚴により、多年間打ち續きて絶大の勢力を揮ひしは、普く人の知る所なり。尤も此代議士は最近の選舉に於て、或る財政上の事件の結果として敗北したれども、彼が内閣を顛覆するには唯合圖を與ふるだけにて充分なりき。一記者は左の評語中に彼の行動の範圍を明瞭に指示せり。

「我國民が東京(安南)の北部にあり、佛領地なり。——譯者註の爲めに、實際拂ふべかりしより三倍の高價を拂ひしも、又我國民がマダカスカル島に於て永く不安の立場に在りし儘繼續せしも、又佛國民が西部亞弗利加ナイジャー河の下流地方に於ける一帝國の爲めに詐はられたりしも、將た又我國民が嘗つて埃及に於て占めし優勝なる地位を失ひしも、皆主としてX氏の御蔭なり。實にX氏の議論は奈翁一世の慘害以上に我國の領土に禍せり。」

吾人は該指導者に對して餘りに劇しき怨みを懷くべからず。如何にも彼は我國民をして高價なる犠牲を拂はしめたることは明かなれども、而も彼の勢力の大部分は彼等が輿論の趨向に従ひたる事實に基因するものにして、而して當時の輿論は植民地に關する事柄に就ては、後來のものとは著しく其趣を異にせしなり。何れの指導者を問はず、輿論に先んじて進むことは極めて稀にして、大抵の場合に於ては、輿論の誤謬を輔翼するを以て能事畢はれりとなす。

指導者の威嚴以外に余輩が今記述せんとする彼等の説服の道具立は、余輩が既

に幾度も列擧したりし所のものに外ならず。是等の道具立を巧妙に使用せんと欲せば、指導者は群衆の心理に——少くとも無意識的にせよ——通曉して、而して群衆に話し掛くる術を熟知せざるべからず。彼は殊に言辭や成句や假相の人を魅する力の大きなことを知らざるべからず。彼は又一種の雄辯——舉證などに頓着せざる力ある斷言と深き印象を與ふる假相より成り、極めて概括的、抽象的の議論を伴ふ一種の雄辯を具有せざるべからず。これ各種の合議體に於て見受けらるゝ一種の雄辯なり。かの世界中にて最も真面目なりと稱せらるゝ英國議會と雖亦此例に漏れざるなり。

英國哲學者メーン(Maine)曰く「下院に於ける討論筆記中、其全體の論調が寧ろ薄弱なる大體論と寧ろ激烈なる人身攻撃の交換に限られたるものは、絶えず吾人の目に觸るゝ所なり。此種の紋切形の概括論は、純然たる庶民の想像上に絶大なる感化力を及ぼすものとす。群衆をして素晴らしき辭句を以て表現せる概括的議論を認容せしむるは、常に易々たる事のみ。斯かる議論は決して例證せられたる

ことなく、又恐らく例證に堪へざるべけれど、それは群衆の關知する所にあらざるなりと。

右に引用したる文句中に見ゆる「素晴らしき辭句」は極めて重要にして、吾人の輕に之を看過すべからざるものに屬す。余輩は既に「言辭と成句との特殊の力」に言及したりき、而して「言辭と成句」とは之を用ふるに當りて、活躍せる假相を聽者の想像の上に浮ぶるに足るものを選択せざるべからず。左掲の一節は、我佛國議會の一指導者の演說中より取りたるものなるが、亦以て之が好範例と見做すことを得べし。

「同一の船舶が同時に、如何はしき風評ある政客と、殺人罪を犯したる無政府主義者とを載せて、我國の罪人の懲治的植民地たる瘴癘稠き遠國に護送せん時、兩者は互に語を交はすことを得べく、而して彼等は相倚り相待つて、同一の社會狀態を構成する補足的兩面なりと悟るならん。」

右の一句は聴者の想像の上に、活躍せる假相を浮べ出し、而して説話者の總ての反對者共は威嚇せられたる心地を生じたり。彼等は先づ瘴癘稠き遠國と、彼等をも載せ行くやも測られざる船の幻影を眼前に浮べたり。これ蓋し、如何はしき風評あると曖昧に限局せる政客の部類中に、彼等をも包含せるやも測られざりしが故なり。彼等は往時斷頭臺を以て威嚇せしロベスピールの漠然たる言説を聽きて竊かに戰慄し、其極相率ひて彼に屈服せし國民公會議員等の如き、隠れたる恐怖を感じたり。

最も實際を懸け離れたる誇張をなすも、亦指導者に取りては極めて利益あることとなりとす。余輩が直ぐ前に其説話の一節を借り用ひし辯士は、銀行家と僧侶とは爆裂彈の投手に補助金を贈與したりとか、巨大なる金融上の數會社の重役共は無政府主義者と同一の刑罰に値るとか斷言して、別に激烈なる抗議を受けざりき。此種の斷言は、群衆に對してなざるゝ時は、常に大なる効果を生ず。斷言は如何程強烈になしても過ぐる事なく、揚言は如何程威嚇的になしても寧ろ其足ら

ざるを憂ふ。此種の雄辯程聴衆を嚇かすものなし。實に列座の人々は、若し彼等が之に對して抗議をなさば、反逆者若くは其共謀者と見做されん事を慮るなり。

余輩が既に述べし如く、この特殊の方式の雄辯は總ての合議體に於て常に絶大ななる効果を生じたり。殊に危急存亡の秋に際しては、其力は又格別に強大なりとす。佛國革命時代の議會の大辯士等の演説は、此見地よりすれば甚だ興味ある讀物なり。彼等辯士論客は常に演説中に邪を貶し徳を讃ふる義務ありと心得、而して爾かなしたる後は、必ず厲聲して虐君を咒詛し、自由の人となりて生くるか、然らざれば死するか、二者其一を取るべしと叫べり。列座の人々は之を聴くや、奮然として蹶起し、一時激しく拍手し、而して後鎮靜して各再び座を占めたり。

時としては指導者は智識に富み、高等の教育を受けたものなることあるべし。然れども斯くの如き資格を具備することは、指導者に取りて有利と云はんよりは寧ろ有害なり。理智を具備する人々は勢ひ事物の複雑なる關係を指摘し、説明に耽り、了解を容易にするが故に、常に寛大となり、爲めに主義の鼓吹者宣傳者に必須なる確信の強烈の度を著しく減殺するの嫌あり。總ての時代に於ける群衆

の大指導者、殊に佛國革命の指導者等は、傷まじき許りの偏狭なる理智を具有したりしのみ。而も詮ずる所最も限局せられたる理智を有せしものが正しく最も偉大なる勢力を揮ひしものなりしなり。

佛國革命の指導者中最も有名なりしもの、一人たるロベスピエールの演説は、人をして其支離滅裂なるに驚かしめたり。吾人は唯其演説を讀みたるのみにては、何故に此強力なる支配者が、さしも大なる役目を務めたりしかを訝かしく思ふ位なり。今左に其一節を摘載せん。

「何等の異彩なきと謂はんより、寧ろ稚氣紛々たる人々によりて使用せらるゝ教育家流の雄辯、及び拉丁的教化の平凡にして冗漫に、且つ其攻撃及び防禦の觀念に關しては小學校生徒の如き侮挑的態度に限られたることよ。一個の思想もなく、一個の面白き警句もなく、一個の手應へある妙語もなく、唯吾人の倦怠を招く議論を盛に吹き掛くるのみ。斯くの如く面白くもなき物を讀みたる後は、何人もかの愛嬌あるカミール・デムーラン(Camille Desmoulins)一七六二年に生れ一七九

四年に死せる佛國革命黨員にして、ダントン派の一人、後に斷頭臺上に命を殞したり。譯者註に倣ひて「オ、！」と叫びたくなるなり。」

極めて偏狭なる心意に結び付けられたる強固なる確信が、威嚴を具備する人に與ふる力は、之を思ふだに恐しきことあり。然りと雖何人にも千障萬害を無視して、極度に意思の力を示さんと欲せば、必ずや上記の諸條件を具備せざるべからず。群衆は本能的にそが要する所の主人公を精力と確信とを具有する人々の間に求むるなり。

合議的集會にありては、演説の成功は概ね演説者の有する威嚴によるものにして、毫も彼が提示する議論によるものにあらず。其確證として見るべきは、演説者が何かの原因の爲めに其威嚴を失ふ時は、彼は同時に彼の勢力——換言すれば彼が思ふ儘に投票を左右し得る力——を失ふ事實なりとす。

未だ其名を世に知られざる演説者が、價值ある論據を有するも、夫れ以外には何物をも包含せざる演説を提げて此場に現るゝ時は、人をして傾聴せしむること

は或は得べけんも、夫れ以上の事は得て望むべからず。慧眼を具ふる心理學者たる一議員デソーペー氏 (Dean Joseph) は、近者左に摘録せんとする語句の中に、威嚴を缺加せる議員の状態を活寫せり。

「彼は演壇の上に身を置き、己が紙挟みの中より書き物を取り出し、之を叮嚀の前に廣げ、確信を以て開口一番せり。

「彼は自己を鼓舞奮起せしめし確信を、聴衆の意中に傳へ得べきを期したり。彼は再三其議論の價値を考量したり。彼は數字と證據とに通曉せり。彼は聴衆を説服し得ることを確信せり。彼は一々實證を擧げて以て總ての抵抗の無効なることを道破せんとせり。彼は彼の主張の正常なること、及び列席の議員の注意を一身に集め、彼等をして競ひて彼が説く所の眞理を推舉せしむることを確信して口を開けり。

「彼は語れり、而して同時に議院内の何となく落ち付かずなりたるを訝しみ、又徐徐に此處彼處より話聲の起り始めたるに少しく心を痛めたり。

「何故に議員等は靜肅を守らざるや、何故に彼等は斯くまで注意を外らしたるや、互に夢中になりて相私語する議員等は、抑、何を考へつゝあるにや、一人立ち、二人立ち、三人四人と次ぎて議席を空しくするは、抑、如何に緊要なる動機ありてにか。」不安の雲は彼の面上にかゝり始めたり。彼は眉根に皺を寄せつゝ、語を止めぬ。されど又議長に獎勵せられて、一際聲を張り上げて再び語り始めたり。耳傾くる者は益、減じ行けり。彼は一層語句に力を入れ、様々の身振りをして演説を進めたり。されど彼の周囲の喧擾は次第に募るのみ。彼は最早我聲さへも聞くことを得ざるに至りたれば、喘と語を止めたり。されど沈黙を續けなば恐しき、討論終結！の叫聲の起りもやせんと思ひたれば、又も語を繼げり。騒擾は最早堪ふべからざる點まで昂まりぬ。」

合議的集會が激昂の極、或る沸騰點まで昇り詰むる時は、通常の複种群衆と區別し得べからざるに至り、従つて彼等の感情は常に極端に趨るの特徴を現出す。彼等は非常に壯烈なる行爲をなし、或は極惡暴虐の舉に出づることあり、事茲に至

らば各人は皆其本性を失ひ、竟に自己一身の利益に甚しく背反せる方策の爲めに投票するに至る。

佛國革命の歴史は合議體が如何なる點まで自意識を失ひ得るか、而して又如何なる點まで自家の利益に甚しく背反せる暗示に服従し得るか、吾人に示せり。かの貴族連が自家の特權を抛棄せしは、絶大なる犠牲なりしに相違なきも、而も彼等は國民議會革命中第一回の議會一七八九年より一七九一年に渉る。譯者註會期中人も知る如く、一夜勢に乗じて自ら進んで之をなしたりき。又國民公會議員の面々は其不可侵權を抛棄して、何時死が其身に及ぼすやも計られざる危険の下に立ちぬ、而も彼等は平然として之を取行し、而して彼等は今日は其伴侶を斷頭臺に送るもの、明日は我身が其處に送らるゝやも計られざることを熟知しながら、其同僚の誰彼を處刑するを恐れざりき。これ何が故に然りしか。蓋し彼等は余輩が既に上章に記述したる如き、全然自働的の狀態に陥り、全然或る暗示に魅せられ、而して如何なる考慮も彼等が其暗示に服従する事を妨ぐる能はざるまでに立ち至れるに因るなり。此點に關しては彼等の一人なるピロード

ダレンネー (Billard-Varennes) の追懷録中の數語最も善く其眞面目を發揮せり。彼曰く、吾等をして世上の批難を蒙るに至らしめたる當時の處置決斷は吾等が之をなす前に、唯二日も、否唯一日も之を要望したりしものにあらず。吾等を驅りてさる處置決斷に出でしめしものは、利那の危機に外ならざりしなり」と。其言ふ所極めて的確一語を増減するを要せず。

右と同様の無意識の現象は國民公會の騒々しき會期中を通じて、之を見ることを得べかりき。

テトス曰く、彼等公會議員は自ら恐怖厭惡したりし方策——單に愚劣なる方策のみならず、或は無辜の人を殺戮するが如き、或は彼等の一味徒黨を殺戮するが如き方策をも翼賛し制定せり。左黨は右黨の賛成を得て、全會一致の決議により、騒しき拍手の間に、自黨の自然的の首領にして同時に革命の發起者兼指導者たるダントンを刑場に送りたり。右黨は左黨の賛成を得て、全會一致の決議を以て

最も激烈なる拍手の間に、革命政府が發したる最悪の法令を制定せり。又全會一致の決議を以て、讚歎熱狂裡にコアロー・デルボア(Collot d'Herbois)、クートン(Couthon)及びロベスピール(Robespierre)に對する熱心なる同情を表示したる上、國民公會は自ら進んで度々の改選によりて、平野黨も山嶽黨も共に厭忌せし殺人政府をして續いて在職せしめたり。實に平野黨は此政府が殺戮的なるを以て之を厭忌し、山嶽黨は自黨の黨員の多くが此政府の爲めに殺されたるを以て之を厭忌したりしなり。然るにも拘らず、彼等は相率ひて此政府をして在職せしめたり。平野黨も山嶽黨も多數者も少數者も皆自黨の自殺を幫助するが如き方策を承認せり。革命曆佛國第一回共和國によりて、一七九三年十月五日に制定せられたる曆なり。其廢止せられしは一八〇五年十二月三十一日なり。——譯者註第九月二十二日、國民公會は全員を死刑執行者の手に委ねたり。革命曆第十一月、一時間中の最初の十五分間に同様の出來事はロベスピールの演説に續いて起れり。

此描寫は如何にも慘憺凄愴を極むるが如し。而もこれ實況其儘なり。合議的集會

が甚しく激昂して、魂も天外に飛び去れる際には、常に同様の特徴を呈す。彼等は各個の刺戟衝動に感じて行動する附和雷同者流の群となり了はるなり。左に摘載せんとする一八四八年の議會に關する記事は、議會の行事に精通し、明かに民主政治に大信仰を有するスピュレー氏(Spüller)によりてものせられたるもの、余輩は之を文學評論(Revue Littéraire)より取る。これ全然代表的のものたり。此記事は余輩が群衆の特徴として述べたる誇張せられたる感情の一例證、及び合議體も尙刻々一種の感情より全然反對の感情に移るが如き極端なる易變性を有する事實の一例證を與ふるものと謂ふべし。

共和黨は其不和、嫉視、猜疑に加へて、其盲目的の信用、及び其無際限の希望の爲めに自滅を招けり。該黨の公明眞率は絶大なりしと同時に、黨員間に瀾蔓せし相互間の不信用も亦絶大なりき。彼等が違法的觀念を缺き、規律を解せず、且つ無限の恐怖と迷想とに満ちたる點に於ては、農夫や小兒と同列に在り。彼等の平靜の度は彼等の焦慮の度と同等にして、彼等の莽猛の度は彼等の温順の度と相等し。此

状態は性情に調節なきと教育の缺乏との自然の結果なり。如何なるものも、此種の人々を震撼せしむることなく、又如何なるものも、彼等をして周章狼狽度を失はしむ。恐怖極まつて戦慄することもあれば、勇氣凜々、壯烈鬼神をして泣かしむることあり。勇往邁進、水火尙辭せざる概あるかと思へば、水禽の羽音にも驚きて逃げ出すこともあり。

「彼等は原因結果の關係を解せず、事件と事件との間に存する連鎖脈絡を識らず。彼等は忽ちにして意氣軒昂し、忽ちにして心神沮喪し、各種の恐慌、激動、狼狽を演じ、其得意失意に際して、一喜一憂共に度を過こし、絶えて心を鎮め氣を持ち直し、場合相當の態度を取ることなし。彼等は刻々當面の事象を反映し、各瞬間に様々に變形して底止する所を知らず。斯くの如き徒輩が、如何なる政治の基礎にても寄與し得べしとは到底受取れざるなり。」

幸にも合議的集會に於て見得べきものとして上に記述せる總ての特徴は、決して始終表示せらるゝものにあらず。合議的集會は或る瞬間に於てのみ群衆を構

成す。而して合議體を組成する議員は多くの場合に於ては各自の個性を保持す。これ合議體が優秀なる専門的法律を制定することを得る所以なり。事實上この種の法律の發案者は、豫め靜に考查研究したる上にて、之を調製したる専門家にして、而して又合議體が投票を以て採決したる法律は、一人の手に成りたるものにして、會全體によりて作られたるものにあらず。斯かる法律が善良なるものなることは、復た多言を要せず。是等の法律は議員の全體が様々と修正を加へて、全く其性質を變じたる時のみ動もすれば不良の結果を生ず。群衆の事業は其性質の如何に關せず、常に單獨の個人の事業よりは劣等なり。合議體をして不良なる若くは施行不能なる法律を通過するが如きことなからしむるものは、唯専門家のみなり。専門家は此場合に於て群衆の一時的指導者なり。合議體は彼の意見を左右する能はずして、彼こそ却つて合議體の意見を左右するものなれ。

合議的集會は、其運用に關して多くの困難なるに關らず、人類が今までに發見したる政治の形式中最良のものたるを失はず。殊に國民をして個人的壓制の桎梏より免れ出でしむる爲めには最良の機關と謂ふべし。合議的集會は少くとも哲

學者、思想家、記者、美術家、及び學者——約言すれば文明の樞軸を握れる總ての人人に取りては、儘に理想的の政體を構成せるものなり。

且つや合議政體に附隨せる重大なる危険としては唯二つあるに止まるのみ。所謂二つの重大なる危険とは何ぞや。曰く、其一は財政上の浪費の避くべからざることにして、其二は個人の自由の累進的局限即ち是なり。

第一の危険は選舉上の群衆の緊切なる要望、及び先見の明を缺くより生ずる必然的結果なり。合議體の一議員が民主的思想に表面上の満足を與ふる方策を發案するか、或は總ての勞働者に對する養老年金を保證する議案、若くは各種の國家の使用人の賃金を増加する議案の如きものを提出することあらんか、他の議員輩は之を否決することを躊躇すべし。これ蓋し彼等は斯くの如き議案を通過する時は、豫算の上に新なる重荷を加へ、新税の創設を必要とすることを熟知すれども、さりとて無下に之を否決して、爲めに之によりて利益を受くる階級の利害休戚を無視するものと思はれん事を憂ひ、之に賛成せざらんと欲するも得ざるに至ればなり。國家歳出の膨脹の結果の來るや遠く且つ遅く、且つ彼等に對し

て個人的に不快なる結果を貽されども、之に反して斯かる議案に反對の投票をなさば、其結果は靚面に次期の改選の節に現れ來るべければなり。

此國費膨脹の第一原因に加へて、他の之にも劣らざる程の重大なる第二原因あり。何ぞや。曰く、地方的の目的の爲めの總ての支出に賛成投票をなす必要即ち是なり。議員は此種の支出に反對すること能はず。何とならば此點に於ても選舉人の緊切なる要望を代表するのみならず、一議員が自己の選舉區の爲めに支出を得んと欲せば、唯彼の儕輩なる議員がなす同様の要求に賛成すとの條件の上に於てのみ其目的を達すべければなり。一八九五年四月五日發行の佛國經濟雜誌「エコノミスト」の掲載する所は單に選舉上の考慮のみによりて惹起せらるる國費の膨脹、殊に鐵道に關する支出の膨脹の如何なる點まで進み得るかを示す奇異なる數字上の概觀を發表せり。之に據れば、山上に在る人口三千の一邑ラングアイ (Langayes) のポニ (Puy) に連結する爲めに一千五百萬法を値する鐵道敷設の件が可決せられたり。七百萬法が人口三千五百のボイモン (Beaumont) をカステル・サラザン (Castel-Sarruzin) に連結する爲め、七百萬法が人口五百二十三の一村ウースマ

(Onst)を人口一千二百のセー(Denk)に連結する爲め、六百萬法がアラード(Prado)を人口七百四十七の一村オレット(Olette)に連結する爲めに——と云ふ風に費さるゝことに決せられたり。一八九五年中のみならず九千萬法の支出が唯地方的の用のみ供せらるゝ鐵道を敷設する爲めに議決せられたり。これ以外に尙選舉上の考慮によりて惹起せられたる之にも劣らぬほどに重大なる費目あり。勞働者年金制度を設定する法律は、大藏大臣の所説によれば、少くとも年々一億六千五百萬法の支出を、又學士會員ルロア・ボーリイ氏(Leroy-Beaulieu)の所説によれば、少くとも年々八億法の支出を誘起したり。若し此種の國費の膨脹が繼續せば、國家は遂に破産せざるべからざるは明かなり。葡萄牙、希臘、西班牙、土耳其の如き多くの歐洲國家は既に此域に達し、又或る他の邦國例は伊太利の如きは遠からず同様の窮境に陥らんとす。而もこの事情に對しては餘り甚しく憂慮するには及ばず。如何とならば公衆は引續き上掲の諸國の公債利子の支拂に際し、五分の四の削減を我慢したればなり。斯くの如き巧妙の作用の下に於ける破産は、平定し難き豫算の收支の動搖をして自然に鎮靜に歸することを得しむるなり。これ以外

に、戰爭や社會主義や、經濟上の衝突等の爲めに、吾人は吾人が經過しつゝある此一般的離散分解の時代に於て、更に他の多くの災害に當らざるべからず。されば吾人は吾人が支配すること能はざる將來に對しては餘り心配せずして、先づ目前の計を立て、當座の必要を充足しつゝ、進むの覺悟をなさざるべからず。——
原註。

第二の危険は既述の如く合議的集會によりて極端になさるゝ自由の局限の止むを得ざることなり。此危険は第一の危険ほどは目立たざれど、而も慥に實在せるものなり。此危険は常に束縛的作用を有する無数の法律の結果なり。合議體議員は、自らは等の法律を投票によりて制定する義務ありと思考するものなるが、彼等は近視的なるが故に、其結果の大部分は豫知することを得ざるを以て、遂に此仕誼に立ち至るなり。

此危険は實際よく——避くべからざるものと見ゆ。英國は最も民主的なる代議制度を有し、而して英國の代議士は最も善く選舉人より獨立して行動し得と稱せらる。然るに此英國すら猶未だ嘗つて此危険を免れざりき。ハーバート・スペン

「サ」は既に古くなりたる彼等著書の中に於て、表面上の自由の増大は、必ずや事實上の自由の減少を伴はざるべからざる旨を説示せり。彼は又近著「個人對國家 The Individual Versus the State」の中に於て、右の議論に立ち歸り、英國議會に關して左の言をなせり。

「此時代以來立法事業は余が曩に指示したる針路を進み來れり。急速なる勢を以て増加する專横壓制なる方策は、個人の自由を束縛する傾向を示せり。而してそれが個人の自由を束縛するには、二個の方法を取れり。年々益々多くの規則が打ち立てられ、政府は人民が以前は全然自由を許されし行爲に關してまで束縛を加へ、而して人民が以前は之をなすもなさざるも隨意なりし行爲を強制的になさしむるに至れり。同時に公共的負擔殊に地方的負擔は増大し、爲めに人民は自己の利得中より己が欲する所に従つて使用することを得る分を減殺せられ、官憲の意の儘に使用せらるゝ爲めに取り立てらるゝ分を増加せらるゝにより、其自由は更に局限せらるゝなり。」

此自由の累進的局限は、ハーバート・スペンサーが指示せざりし形式に於て、各國に於て實現せらる。即ち一般に束縛的性質を帯ぶる無数の立法的方策を通過することは、必然的に其適用實施の任務を帯ぶる官吏の數及び權勢及び勢力を増大するの勢を助長す。斯くして是等の官吏は諸文明國の真正の主人公となるの傾向を示せり。世上の權力の移動常ならざるに際し、唯行政官仲間の連中のみ獨り此變遷の外に超越し、其行爲は個人的に責任を問はるゝことなく、其地位の永續は保障せらるゝが故に、彼等の權勢は益々増大せざるを得ず。而も何處にか之に過ぐる專制制度を求め得べき。

斯くの如く束縛的の法律規則を絶えず續發し、人生の最も瑣細なる行爲までも捉へ來りて之を煩雜なる形式の窩中に投ずるが如き事は、人民の自由行動の範圍を局限して、次第次第に狹隘ならしむる結果を生ずるは亦止むを得ざることに屬す。平等と自由とは法律の増發によりて一層善く保障せらるゝものなりとの謬想の奴隷となりて、諸國民は日々次第に負擔を加ふる羈束を忍べり。而して

斯くの如き立法事業を甘受したる報は靦面に現れざるを得ず。即ち彼等は各種の桎梏を忍ぶ結果、遂には自ら屈從を望むに至れり。同時に自發的精神及び精力を悉く喪失するに至る。事茲に及ばば、彼等は最早空虚なる影子、若くは受動的にして抵抗力なき氣の抜けたる自動器械に過ぎざるなり。

此點に達すれば個人は自ら缺如せる力を自己以外のもの、間に求めざるを得ざるに至る。此故に政府の職掌は人民の冷淡と無力との程度が高まるに連れて必然的に増加す。政府は必然的に個人が有せざる自發的、企業的、指導的精神を示さざるべからず。各種の事業を計畫實行するも、各種の事業を指導するも、各種の事業を保護扶助するも、皆政府の役目となる。斯くて國家は全能の神となるなり。然れども經驗の教ふる所によれば、斯くの如き神の力は甚だ永續的のものにもあらず、又甚だ強大なるものにもあざざるなり。

或る國民の場合に於て見らるゝ如く、表面上に於ては總ての自由が尙彼等の手にあるが如く見ゆるも、事實上是等の自由が漸次に累進的に局限せられたるが如きことあるは、或る特殊の制度に基因する所もあるべけれども、斯かる國民が

老朽の域に達したることも確に其原因の一をなす。斯かる状態は古來如何なる文明と雖遂には必ず陥るを常とせる衰頹腐朽の状態が將に至らんとするを示す前徴なり。

過去の歴史の教訓に徴し、又現在各方面に於て吾人の視聽に觸るゝ徴候によりて察するに、近代文明の若干のものは、其衰頹腐朽に先立ちて來る考朽の域に達せりと謂ふべし。歴史は屢、同一の進路を反覆往還する所を見れば、總ての國民は其盛衰興亡に關して同一の生存状態を經過せざるべからざることは之を知るに難からず。

是等の文明の進化の途中に現るゝ各國民に共通の現象を記述せんは、さして難事にあらず。而して余輩は本書を了ふるに臨みて、聊か之を略説せん。乃ち略説に過ぎずと雖、現今群衆が行使する偉大なる力の原因を採知するに於て、恐らく幾分の光明を與ふべしと信ず。

吾人若し現代文明に先立ちし諸種の文明の偉觀、及び其衰亡の原因の大體を討

尋しなば、吾人の發見する所のもの果して如何。
 吾人は先づ文明の曙光の漸く現るゝ時に際して、異なる祖先より下り來れる人の一群が、漂泊、侵略、及び征服の機會によりて共に集まれるを見ん。是等の人は其血統を異にし、其言語を異にし、其信條を異にせるを以て、彼等を繋ぐ唯一の連鎖とも云ふべきは、酋長が之を發し、彼等が半ば承認したる法律なり。群衆の心理的特徴は是等の亂雜なる集團の間に於て著しく表現せらる。彼等は群衆としての一時的の團結力を有し、群衆としての壯烈と懦弱と衝動性と暴戾とを有す。而も彼等は如何なる點に於ても動もすれば移動し易く、固定的なる能はず。彼等は未開野蠻人に外ならず。

較ありて時は奇しき力を現せり。同一の周圍境遇中に在る事實と、是等の諸人種が絶えず混在して相交遊接觸する事實と、生活の必要とは、相倚りて秀じき感化を及ぼせり。斯くて異なる人種の集團は融然渾一して、一民族——換言すれば共通の特徴と感情とを有する一の合一體となれり。而して是等の特徴と感情とは遺傳によりて漸次に固定して變動し難くなるなり。是に於てか群衆は一の民族

となれり。斯くの如く一民族となるや、彼等は茲に初めて野蠻の域より脱出することを得然れども國民が全然野蠻の域を離脱するは、彼等が勇猛精進、百折千挫にも屈せず努力して、遂に一の理想を獲得したる時の事なりとす。此理想の性質は左まで重要なものにわらず。即ちそれが羅馬の禮拜たる場合にせよ、雅典の武力たる場合にせよ、回教徒の征戰たる場合にせよ、苟くもそれが將に形成せられんとする民族に屬する總ての個人に、感情思想の完全なる一致を與ふれば則ち足る。

此階段まで進まば、一の新文明は其制度と其信條と其藝術とを將つて出現すべし。民族は其理想を追求する際に當りて、其民族全體の榮華と元氣と偉觀とを構成するに必要な諸の要素を順次に獲得す。尤も斯かる階段に於ても、民族は尙一個普通の群衆に過ぎざる場合もなきにあらざれども、而も根を洗ひて穿鑿すれば、此時より以後は群衆としての移動し易く變化し易き特徴の下層には、堅固なる地盤の儼然として横はるを見る。此地盤こそは即ち民族精神にして、之あるが爲めに一國民の上に現るゝ變化は狭き範圍内に局限せられ、其時其時の機會

に弄ばれて推移するが如きことなきを得るなり。右の如く時が建設的作用をなし了へたる後は、茲に又破壊的の事業をなし始む。實に破壊は早晚必至のものにして、神も人も之を免るゝこと能はず。文明と畢竟に其例に漏れざるなり。一の文明が或點まで強固且つ複雑となるや、其成長發達は何時しか熄み、成長發達一度熄まば、其文明は最早衰亡の運命に陥る。即ち老朽の時代が來りたるなり。

此避くべからざる老朽の時代の徵候は、民族の大黒柱たる理想の衰微なり。此理想が微弱となるに従ひて、之によりて鼓舞激厲せられたる總ての宗教上政治上社會上の組織も次第に動搖し始む。

民族理想の漸進的滅亡と共に、民族は次第次第に其團結、其統一、及び其勢力の源泉を枯渇せしむ。此時に當りても各個人の人格及び智識は高まる事あるべし。然れども同時に民族としての集合的主我心は消失して、過度に發達したる個人の主我心之に代り、品性の下降及び行爲の能力の減退之に伴ひて起る。曩日の一の國民たりしもの、一の統一體たりしもの、一の全體たりしもの、今や遂に變じて團

結力を缺き、唯一時因襲及び制度の結果として結合せらるゝ多數個人の集團となり了はる。かの人は利害と慾求とによりて朋黨を結び、最早自治の能力を失ひ、些細なる行爲にまで他の指導監督を須ち、而して政府が絶大の勢力を揮ふに至るは此時代のことなり。

民族が確實に其古來の理想を失ふや、民族精神なるものは蕩然として地を掃ふに至る。此時に當りては民族は最早眞の民族にあらずして、孤立的個人の集團に過ぎず。即ち民族は其原始的状態、換言すれば群衆の状态に立ち歸りたるなり。彼等は一致を有せず、未來を有せず、唯群衆の一時的特徴のみを具ふ。彼等の文明は強固なる基礎を失ひ、機會の導くまに、移ろひ行く。是に於て民衆が主權を制し、野蠻主義の潮流が社會の上に優勢を占む。此文明は斯くなりても過去の遺蹟たる立派なる立脚を有するを以て、尙莊麗の觀を呈することもあるべし。然れども實際そは荒廢に瀕せる一個の大厦に過ぎず。何物の之を支持するものなきを以て、颶風一度壓到すれば忽ち崩落せざるを得ざるなり。

一の理想を追求しつゝ、野蠻状態より文明状態に移り、而して後に此理想が其元

氣を失ひたる時衰頹滅亡す。斯くの如きものこれ民族生活の輪回なり。

群衆心理終

大正四年一月十日印刷
大正四年一月二十一日發行

一民族心理及群衆心理
定價金壹圓七十錢

著 者
所 有 權

譯述者

發行者

右代表者

印刷者

印刷所

大日本文明協會

合資會社文明書院

大鳥居 弄 三

東京市麴町區元園町一丁目三十二番地

田 中 敬 吉

東京市神田區三崎町三丁目一番地

博 信 堂

東京市神田區三崎町三丁目一番地

東京市麴町區元園町一丁目二十二番地

會社文明書院

電話番町一〇一五番
振替口座東京一七二〇番

發行所

英國 フレデリック・ロリエ氏原著（大日本文明協會譯）

製本 既成

比較文學史

全 壹 冊
總紙數六百九拾頁
正價金貳圓也

一時代の文學は其時代の精華にして之を以て文明の全體となすも敢て不可なきなり。此意味に於て比較文學史は世界文明の精華の發展及び變遷の歴史と稱すべし。而して斯くの如き歴史の攻究は極めて困難なる事業に屬するが故に古來未だ曾て之に着手したるものなし。原著者ロリエ氏は學者として未だ大名を博するに至らざるも其深遠なる學識と犀利なる洞察力とを以て本書を著述し以て學界に一新方面を開拓せる功や實に偉大なりとせざるべからず。本書章を分つこと凡て二十、之を時間上よりすれば上は有史以前より下は現代の自然主義象徴主義に至り之を空間上よりすれば泰西諸國は素より日本支那印度暹羅カムボヂア及び米大陸に及ぼし或は西歐經典の源に溯り或は印度文學の盛時を説き其間に於ける文化の推移變遷を明かにせり。殊に其結論に於ては總括的に文學を評論し各時代又は各國文學の特質並びに其等相互の關係を示し遂に言論及び文學の將來を推究せる等內容豊富にして趣味極めて充溢せるを覺ゆ。實に本書は世界の文學を一巻に叙述せる現時唯一の名著にして苟くも文學を味ひ藝術を説き思想を論ずる者は必ず一讀せざるべからず。加ふるに本書の翻譯に最も力を致されたるは、英文學大家戸川秋骨氏なれば譯書として亦當代傑出のものたること疑ひを容れざる所なり。

佛國 シヤルル・セーニヨボス氏原著（大日本文明協會譯）

現代歐洲叢書 第一

歐洲現代政治史

上 卷

原著者肖像筆蹟入
總紙數七百三十頁
正價金貳圓貳拾錢

原著者セーニヨボス博士は佛國巴里大學に教鞭を執れる碩學にして現代史家中の巨擘たること何人も推稱する所たり。而して本書「歐洲現代政治史」は一八一四年以降に於ける最近世歐洲諸國の政治の變遷を最も明晰に最も正確に且つ最も公平に叙述せるものにして篇を分つこと三、第一篇には地理上の順序と政治的發展の前後とに従つて列國內部の政治的事實を列記し第二篇には論理的順序に依りて歐洲列國共通の現象を觀察し第三篇には年曆上の順序を逐うて列國間の國際的關係を論述し以て最近に至るまでの權力消長の迹を釋ねたり。されば本書は歐洲現代の列國內外の政治關係を理解する上に必須の鑰鍵といふべく本書を讀まざる人は到底共に歐洲紛亂の由來現狀を語るに足らざるなり。嘗に政治、外交、歴史等に興味を有する人士のみに止まらず一般國民は必ず本書を机上に備へて時局に關する根本的知識の修得に努めざるべからず。

上 卷

一八一四年に於ける 歐羅巴—一八三二年の改革以前に於ける 英吉利—二度の改革の間に於ける 英吉利—民主政的英國—中産階級の君主—政治—共和政治及民主帝國—議院政的共和政治—白耳義と和蘭—瑞西—西班牙と葡萄牙—伊太利—統一以前の獨逸

要 目

佛國 シャルル・セーニヨボス氏原著(大日本文明協會譯)

現代歐洲叢書 第二

歐洲現代政治史

下卷

總紙數七百五拾頁
正價金貳圓貳拾錢

本書は上巻に續き大ナポレオン倒れて後の埃太利及び普魯西の形勢、ビスマルクの成功、獨逸の統一、埃太利匈牙利國の成立を叙して北歐及び東歐諸國に及び、歐洲共通の經濟的現象、宗教的關係並に國際的革命黨の運動を記したる後進んで歐洲の國際的政治史に移り神聖同盟の活動、英露の競争、ナポレオン三世の盛衰、獨逸の大陸的霸權を述べ最後に結論として著者得意の概括論を説き歐洲一般政治狀態の變遷の史的論理を行へり。原文の平明に加ふるに譯筆の暢達流麗を以てす、靜夜机上に本書を繙かば歐洲の天地自から髮髭して興味津々其盡くる所を知らず到底卷を蔽ふ能はざらん。

專制政治下の埃帝國—ウイールヘルム一世前の普魯西王國—獨逸統一の成形—獨逸帝國—埃國に於ける立憲制—スカンディナヴィアの諸國—露西亞帝國と波蘭—土耳其帝國—巴爾幹半島の基督教諸國民—政治生活に關する物質的狀態の變化—教會及び加特力黨—國際的革命黨—メッテルニッヒ宰制下の歐洲—露英の拮抗—佛の優勢及び民族的戦争—獨逸の優勢及び武裝的平和—歐洲の政治的進化

要目

專制政治下の埃帝國—ウイールヘルム一世前の普魯西王國—獨逸統一の成形—獨逸帝國—埃國に於ける立憲制—スカンディナヴィアの諸國—露西亞帝國と波蘭—土耳其帝國—巴爾幹半島の基督教諸國民—政治生活に關する物質的狀態の變化—教會及び加特力黨—國際的革命黨—メッテルニッヒ宰制下の歐洲—露英の拮抗—佛の優勢及び民族的戦争—獨逸の優勢及び武裝的平和—歐洲の政治的進化

現代歐洲叢書 第三

歐洲現代文明史

全 總紙數六百六十頁
正價金貳圓也

佛國 シャルル・セーニヨボス氏原著(大日本文明協會譯)

歴史の種類中最も近世的なるものは所謂文明史なり、而して歐洲文明史中最も廣く學者に愛讀せらるゝもの前にはキゾーの著あり後にはセーニヨボス氏を擧げざるべからず。蓋しセ氏の文明史は文體平明にして枯淡に陥らず趣味多く簡勁の間に一讀能く歐洲文明の消長發展を會得せしめ其眞意義を把握せしむるを以て世の推讃する所たるなり。殊に本書「現代文明史」は吾人の現在生活と最も密接なる關聯を有するが故に其利益と興味とは實に最も甚大なるものあり。現代政治史と併せ讀まば歐洲全體に互りて其事情に精通するを得べきなり。

要

第十八世紀に於ける歐羅巴の新強國—第十八世紀に於ける植民制度—第十八世紀歐羅巴に於ける改革運動—佛蘭西革命—革命の事業—革命政府と歐羅巴との確執—ナポレオンと歐羅巴との戦争—歐羅巴の復古—歐羅巴に於ける立憲政治—一八四八年後の佛蘭西政府—一八四八年後の歐羅巴の變改—オットマン帝國の潰裂—新世界—歐羅巴以外の歐羅巴人—第十九世紀の美術文學科學—工業農業及び商業—佛蘭西及び歐羅巴に於ける經濟的改革—民主主義及び社會主義等

目

第十八世紀に於ける歐羅巴の新強國—第十八世紀に於ける植民制度—第十八世紀歐羅巴に於ける改革運動—佛蘭西革命—革命の事業—革命政府と歐羅巴との確執—ナポレオンと歐羅巴との戦争—歐羅巴の復古—歐羅巴に於ける立憲政治—一八四八年後の佛蘭西政府—一八四八年後の歐羅巴の變改—オットマン帝國の潰裂—新世界—歐羅巴以外の歐羅巴人—第十九世紀の美術文學科學—工業農業及び商業—佛蘭西及び歐羅巴に於ける經濟的改革—民主主義及び社會主義等

英國 ウィリアム・ハルバット・ダウソン氏原著(大日本文明協會譯)

現代歐洲叢書 第四

現代獨逸

全 總紙數約八百頁
正價金貳圓六拾錢

原著者ダウソン氏は最も獨逸の國情に通曉せる人にして其獨逸に關する著述のみにても頗る多數に上れり而して本書は實に其完成に七年の日子を費したるものなり。今や日英露佛等聯合して疊を獨逸と開くと雖此等列強を對手として苦戰奮闘せる獨逸帝國の勢力及び獨逸國民近時の發展や亦大に賞嘆すべきものあり。蓋し十九世紀後半以後の獨逸が學術上軍事上及び産業上等に於ける偉大なる成功は慥に他國民の學ぶべき所にして現代獨逸を冷靜公平に觀察攻究するは將來と雖世界各國民の到底忘る能はざる問題なりとす。

要 近代の精神—三分せる獨逸—工業時代—外國貿易及び海運—英獨兩國の比較—専門教育—資本と労働—資本労働和解の方法—労働者—シンヂケ

目 一ト—國家經營事業—鐵道及び運河—農業及び工業—土地小分割運動—地方労働問題—共同事業—人口問題—國力發展—殖民地—殖民新時代—帝國の價額—向心力及び遠心力—社會主義の前途—波蘭問題

英國 イー・ハリソン・パーカー氏原著(大日本文明協會譯)

現代歐洲叢書 第五

現代佛蘭西

全 總紙數五百五十頁
正價金壹圓七拾錢

佛蘭西は一面に於て非常なる保守的古代的特徴を有しつゝ同時に又他面には甚しき急進的現代の傾向を具ふ。故に歐洲過去の文化の發達を知らんとするにも佛國及び佛國民の研究を必要とし又將來に於ける文明の趨勢を窺はんとするにも之が精緻なる觀察を缺くべからず。原著者は英人なれども佛國に在住すること三十年、豊富なる材料と多年の實見等に基き本書を編めり。されば著者は最も其人を得たるものと謂ふべく全然僻我の見を去り公平摯實に佛國人の長短強弱及び明暗等を指摘して餘す所なし。現代の佛蘭西を解せんとするには是非本書の細讀を要す。

要 佛國人の性格と其感化力—家族の生活—政治家と政論家—共和國の文學—新聞紙—建築家—畫工—彫刻師—戲曲作者—俳優—音樂家及び歌
目 手—科學及び發明—田舎の佛國—明暗の兩面—結論

佛國 エミール・ブーミー氏原著(大日本文明協會譯)

現代歐洲叢書
第六

現代英國及英國國民

全

總紙數四百九十頁
正價金壹圓五拾錢

原著者ブーミー氏は數年前既に世を去れるも佛國人中屈指の英國通にして他に「英國憲法史」及び「英米佛比較憲法論」等の遺著あり。而して本書は特に英國の現狀及び英國國民の政治思想の發達を究めたるものにして著者は之によりて自國の開發並びに國民の鍛練の資となさんとせるものなり。泰西諸國が競うて他國を研究し自他相互の切磋琢磨を怠らざるは羨望に堪へずと謂ふべし。實に本書は現代の英國及び英國國民を知ると同時に本書を通じて原著者たる佛人の國民性の一端をも窺ふを得べき最も有益なる著述にして吾人の國民的參考書として缺くべからざるものなり。

國民性—天然の境遇—理想—理想の適用—人種的境遇—外國民族—土
着民族—道德的及び社交的英國人—孤獨にして主觀的英國人—政治家
としての英國人—市民—政黨員—政治家—法律及び輿論—王權—個人
目及び國家—個人及び國家に對する職分—國家及び其内治—國家及び其
外交—結論

